

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月27日
【事業年度】	第142期(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
【会社名】	三菱電機株式会社
【英訳名】	Mitsubishi Electric Corporation
【代表者の役職氏名】	執行役社長 山西 健一郎
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号
【電話番号】	03(3218)2272
【事務連絡者氏名】	経理部会計課長 池田 誉
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号
【電話番号】	03(3218)2272
【事務連絡者氏名】	経理部会計課長 池田 誉
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次 決算年月		第138期 平成21年3月	第139期 平成22年3月	第140期 平成23年3月	第141期 平成24年3月	第142期 平成25年3月
売上高	百万円	3,665,119	3,353,298	3,645,331	3,639,468	3,567,184
税金等調整前当期純利益	"	43,933	64,259	210,237	224,080	65,141
当社株主に帰属する 当期純利益	"	12,167	28,278	124,525	112,063	69,517
当期包括利益(損失)	"	156,830	122,711	110,349	118,008	203,763
株主資本	"	849,476	964,584	1,050,340	1,132,465	1,300,070
純資産額	"	901,940	1,021,194	1,109,025	1,191,020	1,366,991
総資産額	"	3,334,123	3,215,094	3,332,679	3,391,651	3,410,410
1株当たり株主資本	円	395.77	449.64	489.23	527.48	605.56
基本的1株当たり 当社株主に帰属する 当期純利益	"	5.67	13.18	58.00	52.20	32.38
希薄化後1株当たり 当社株主に帰属する 当期純利益	"	5.67	13.18			
株主資本比率	%	25.5	30.0	31.5	33.4	38.1
株主資本 当社株主に帰属する 当期純利益率	"	1.3	3.1	12.4	10.3	5.7
株価収益率	倍	77.8	65.2	16.9	14.0	23.4
営業活動による キャッシュ・フロー	百万円	181,139	330,241	327,641	75,180	82,752
投資活動による キャッシュ・フロー	"	214,939	134,491	145,630	156,174	153,701
財務活動による キャッシュ・フロー	"	84,893	165,207	89,228	7,028	41,153
現金及び預金等 の期末残高	"	358,616	391,118	472,067	392,181	298,881
従業員数	人	106,931	109,565	114,443	117,314	120,958

(注) 1 当社の連結財務諸表は、米国で一般に認められた企業会計処理の原則及び手続並びに用語、様式及び作成方法に基づいて作成している。

第139期より、米国財務会計基準審議会の会計基準編纂書810「連結」を適用し、従来の「当期純利益」を「当社株主に帰属する当期純利益」に名称変更している。また、税金等調整前当期純利益に持分法による投資損益を含め、非支配持分帰属損益を含めない表示変更を行っている。これに伴い、過年度についても組替再表示している。

2 売上高には消費税等は含んでいない。

3 株主資本、1株当たり株主資本、株主資本比率、株主資本当社株主に帰属する当期純利益率は米国会計基準に基づいて表記している。

4 純資産額は、株主資本と非支配持分の合計を記載している。

5 第140期、第141期及び第142期の希薄化後1株当たり当社株主に帰属する当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載していない。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月		第138期 平成21年3月	第139期 平成22年3月	第140期 平成23年3月	第141期 平成24年3月	第142期 平成25年3月
売上高	百万円	2,264,948	2,052,375	2,333,873	2,344,563	2,236,063
経常利益	"	41,919	61,956	120,835	127,519	60,558
当期純利益(損失)	"	36,563	14,936	78,783	55,837	18,585
資本金	"	175,820	175,820	175,820	175,820	175,820
発行済株式総数	千株	2,147,201	2,147,201	2,147,201	2,147,201	2,147,201
純資産額	百万円	535,892	563,205	615,025	643,596	648,845
総資産額	"	2,147,895	2,113,319	2,255,590	2,295,355	2,255,602
1株当たり純資産額	円	249.67	262.54	286.47	299.78	302.23
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額)	" (")	6.00 (6.00)	4.00 (0.00)	12.00 (5.00)	12.00 (6.00)	11.00 (5.00)
1株当たり当期純利益 (損失)	"	17.03	6.96	36.70	26.01	8.66
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	"		6.96			
自己資本比率	%	24.9	26.7	27.3	28.0	28.8
自己資本利益率	"		2.7	13.4	8.9	2.9
株価収益率	倍		123.4	26.8	28.1	87.4
配当性向	%		57.5	32.7	46.1	127.0
従業員数 [ほか、 平均臨時従業員数]	人	28,476 [4,910]	28,525 [5,365]	28,450 [5,980]	28,808 [6,691]	29,394 [7,037]

(注) 1 売上高には消費税等は含んでいない。

2 第138期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、1株当たり当期純損失のため記載していない。また、第140期、第141期及び第142期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載していない。

## 2 【沿革】

年月	沿革
大正10年 1月	三菱造船(株)(現 三菱重工業(株))神戸造船所の電機製作所を継承し三菱電機(株)創立
12年11月	神戸製作所(現 神戸製作所、電力システム製作所)を新設、変圧器、電動機、扇風機等を手がける
13年 9月	三菱造船(株)長崎造船所電機工場の経営委託を受け長崎工場(現 長崎製作所)を新設、タービン発電機、船舶用直流機等大型重電機器を手がける
昭和15年12月	名古屋製作所新設、汎用誘導電動機等の標準電機品や家庭用電気機器を手がける
18年 2月	大阪工場(現 伊丹製作所、系統変電システム製作所)新設、神戸製作所より無線機、精機工場移転
4月	福山工場(現 福山製作所)、中津川工場(現 中津川製作所)新設
6月	郡山工場(現 コミュニケーション・ネットワーク製作所郡山工場)新設
19年 2月	和歌山工場(現 冷熱システム製作所)新設
3月	姫路工場(現 姫路製作所)新設
24年 5月	本店研究部を研究所(現 先端技術総合研究所他)とする
28年10月	東京証券取引所に株式を上場
29年 4月	無線通信機器やテレビ等の需要増大に対応し無線機製作所(現 通信機製作所、コミュニケーション・ネットワーク製作所)新設
34年 8月	冷蔵庫、エアコン等民需用冷機生産の専門工場として静岡工場(現 静岡製作所)新設
35年10月	半導体量産専門工場として北伊丹工場(現 高周波光デバイス製作所他)新設
37年 1月	無線・電子応用機器及び電子計算機等エレクトロニクスの主力工場を関東に作る目的で鎌倉製作所新設
5月	真空管・ブラウン管専門工場として京都製作所新設
38年 3月	航法装置シミュレーターにつきジェネラルプレジジョン社と合併で三菱プレジジョン(株)設立
39年 5月	菱電機器(株)を吸収合併し、群馬製作所と改称
10月	小型開閉制御機器生産工場として伊丹製作所三田工場(現 三田製作所)新設
40年 8月	昇降機の専門工場として稲沢製作所新設
45年 8月	研究本部(現 開発本部)新設
47年 6月	ハードウェアを中心とした全社の生産技術センターとして生産技術研究所(現 生産技術センター)新設
48年 8月	大型変圧器専門工場として、赤穂工場(現 系統変電システム製作所)新設
49年 4月	米国に三菱電機アメリカ社(現 三菱電機US社)設立
50年 6月	制御製作所(現 神戸製作所他)新設
52年 6月	営業本部新設
9月	事業本部制を導入し、重電・電子・機器・商品の4事業本部新設
53年 6月	シンガポールにメルコ・セールス・シンガポール社(現 三菱電機アジア社)設立
54年 4月	台湾に台湾三菱電機股?有限公司設立
56年 6月	閉鎖形配電盤及び遮断器の生産を担当する丸亀工場(現 受配電システム製作所)を新設
9月	情報処理・伝送・光電波機器の研究開発強化の為、情報電子研究所(現 情報技術総合研究所)新設
58年10月	北伊丹製作所福岡半導体工場(現 パワーデバイス製作所)新設
	事業本部を機電・商品・電子システム・電子計算機・電子デバイス・海外の6事業本部に再編

年月	沿革
平成元年 6月	自動車機器事業本部新設
5年 6月	事業本部を電力工業システム・社会システム・電子システム・情報通信システム・映像情報・住環境・FAシステム・自動車機器・半導体の9事業本部に再編し生産システム本部新設
7年 8月	米国に研究開発拠点三菱電機インフォメーション・テクノロジーセンター・アメリカ社(現 三菱電機リサーチ・ラボラトリーズ社)設立
9月	欧州に研究開発拠点三菱電機インフォメーション・テクノロジーセンター・ヨーロッパ社(現 三菱電機R&Dセンター・ヨーロッパ社)設立
8年 6月	欧州販売事業体制を再編、英国、ドイツ、フランス等欧州域内の各販売会社を三菱電機ヨーロッパ社として統合
9年10月	中国における事業戦略支援のための投資持ち株会社 三菱電機(中国)有限公司設立
10年 4月	情報通信システム事業本部を通信システム事業本部と情報システム事業本部に分割
11年 4月	電力工業システム事業本部と社会システム事業本部を社会インフラ統括事業本部に統合、ビルシステム事業本部を新設
5月	家電業界初のリサイクルプラント「東浜リサイクルセンター」完成、稼動開始
12年 2月	インフォメーション・ネットワーク事業推進本部新設
6月	社会インフラ統括事業本部を社会インフラ事業本部とし、映像情報事業本部と住環境事業本部をリビング・デジタルメディア事業本部に統合
10月	(株)日立製作所とホームエレベーター事業合弁会社 三菱日立ホームエレベーター(株)設立
13年 4月	IT関連事業を加速するため、情報システム事業本部とインフォメーション・ネットワーク事業推進本部をインフォメーションシステム事業推進本部に統合
6月	三菱電機グループ コーポレートステートメント「Changes for the Better」制定
14年 4月	米国に持ち株会社 三菱電機USホールディングス社設立
15年 4月	(株)日立製作所とシステムLSIを中心とする合弁会社 (株)ルネサス テクノロジ(現 ルネサス エレクトロニクス(株))設立
6月	コーポレートガバナンス改革として、委員会等設置会社(現 委員会設置会社)へ移行
10月	(株)東芝と製造業プラント向け電機設備事業合弁会社 東芝三菱電機産業システム(株)設立 半導体事業本部を半導体・デバイス事業本部に改称
17年 4月	社会インフラ事業本部を社会システム事業本部と電力・産業システム事業本部に分割
10月	株式交換により、日本建鐵(株)を完全子会社化
22年 4月	株式交換により、島田理化工業(株)を完全子会社化 (株)ルネサス テクノロジは、NECエレクトロニクス(株)と合併し、ルネサス エレクトロニクス(株)が発足
9月	インドに総合販売会社 三菱電機インド社設立
23年 6月	ベトナムに総合販売会社 三菱電機ベトナム社設立
24年 9月	ブラジルに総合販売会社 三菱電機ブラジル社設立
12月	インドネシアに総合販売会社 三菱電機インドネシア社設立
25年 1月	トルコに総合販売会社 三菱電機トルコ社設立

### 3 【事業の内容】

当社は米国会計基準によって連結財務諸表を作成しており、当該連結財務諸表をもとに、関係会社については米国会計基準の定義に基づいて開示している。「第2 事業の状況」及び「第3 設備の状況」においても同様である。三菱電機グループ(当社を中核として連結子会社162社、持分法適用関連会社39社を中心に構成)においては、重電システム、産業メカトロニクス、情報通信システム、電子デバイス、家庭電器、その他の6セグメントに関係する事業を行っており、その製品はあらゆる種類にわたっている。

当社グループの主な事業内容と、主な関係会社の事業の種類別セグメントにおける関連は以下のとおりである。

事業及び主要製品	製 造	販売・卸付・サービス他	総 合 販 社
<b>重電システム</b> ターン発電機、水車発電機、原子力機器、電動機、変圧器、パワーエレクトロニクス機器、蓄電池、ガス絶縁開閉装置、開閉制御装置、監視制御・保護システム、大電流検表示装置、車両用電動機、コペーサー、エスケープ、D/A変換器、アナログシステム管理システム、粒子線治療装置、その他	多田電機㈱ 東洋電機㈱ 三菱電機パワー・プロダクツ社 三菱エレベーター・アジア社 三菱電機上海機電電梯有限公司 東芝三菱電機産業システム㈱ 三菱日立ホームエレベーター㈱ 上海三菱電機有限公司	三菱電機ビルテクノサービス㈱ 三菱電機プラントエンジニアリング㈱ 三菱電機コントロールソフトウェア㈱ 三菱エレベーター施設㈱ 三菱電機 三菱エレクトロニクス 三菱電機香港有限公司 韓国三菱エレベーター社 日立三菱水力㈱ HTAメルコ・エレベーター社	千代田三菱電機機器販売網等の地域総合販売会社10社 三菱電機ヨーロッパ社 三菱電機US社 台湾三菱電機股份有限公司 三菱電機機電(上海)有限公司 三菱電機アジア社 三菱電機オーストラリア社 三菱電機(香港)有限公司
<b>産業メカトロニクス</b> プログラマブルコントローラ、インバーター、チープ、表示器、電動機、モーター、電磁開閉器、パワーエレクトロニクス機器、配電用変圧器、電力計、無停電電源装置、産業用送風機、数値制御装置、放電加工機、レーザー加工機、産業用ロボット、ラック、自動車用電装品、カーオーディオシステム、カメラ機器、カメラメディア機器、その他	國産ピー精工 名菱テクノカ㈱ 三菱電機オートモーティブ・アメリカ社 三菱電機タイ・オートパーツ社 三菱電機大連機器有限公司 三菱電機オートメーション社 三菱電機オートモーティブ・チェコ社 國指月電機製作所 日本インジェクタ㈱ 士林電機機電股份有限公司	三菱電機 三菱電機エンジニアリング㈱ メルダシステムエンジニアリング㈱ 三菱電機メカトロニクスソフトウェア㈱ 三菱電機自動化(香港)有限公司 韓国三菱電機オートメーション社 國七ツヨウ・アステック	
<b>情報通信システム</b> 無線通信機器、有線通信機器、監視カメラシステム、衛星通信装置、人工衛星、レーザー装置、アンプ、誘導線、ラック、射撃管制装置、放送機器、データ伝送装置、ネットワークシステム、情報システム関連機器及びシステムインテグレーション、その他	三菱電機特機システム㈱ 三菱プレジジョン㈱ 島田理化学工業㈱ 西菱電機㈱ ミヨシシヨウ 大井電氣㈱	國ダイヤモンドテレコム 三菱電機 インフォメーションシステムズ㈱ 三菱電機情報ネットワーク㈱ 三菱電機 インフォメーションテクノロジー㈱ 三菱スペース・ソフトウェア㈱ 國三菱電機ビジネスシステム 三菱電機マイコン機器ソフトウェア㈱ アイテック緊急展開㈱	
<b>電子デバイス</b> ハーフブリッジ、高周波素子、光素子、液晶表示装置、マイコン、LSI、その他	メルコ・デバイスブレイ・テクノロジー㈱ ITセミコン㈱ 三菱電機メテックス㈱ ヴァンコテック・ホールディングス社 ルネサス エレクトロニクス㈱ パワーレックス社	メルコセミコンダクタエンジニアリング㈱	
<b>家庭電器</b> 液晶テレビ、プロジェクタ、ディスプレイモニター、プロジェクター、ブレードディスクレコーダー、ゲーム機、バッテリー駆動型、ハードディスク型給湯暖房システム、冷蔵庫、扇風機、換気扇、太陽光発電システム、電気配電器具、LEDランプ、蛍光灯、照明器具、圧縮機、冷凍機、除湿機、空気清浄機、シャワー、クォーター、シャワーヘッド、電子レンジ、IHクッキングヒーター、その他	三菱電機照明㈱ 三菱電機ホーム機器㈱ 三菱電機コンシューマー・プロダクツ(タイ)社 上海三菱電機 三菱電機(広州)圧縮機有限公司 サイラム・コンプレッサー・インダストリー社 三菱電機ビジュアルソリューションズ・アメリカ社 カンコン・エレクトロニクス社	三菱電機住環境システムズ㈱ 國三菱電機ライフネットワーク 三菱電機冷暖機器販売㈱ 三菱電機冷暖プラント㈱ メルコファシリティーズ 三菱電機カンコンリタナ社 三菱電機空調・映像設備(上海)有限公司	
<b>その他</b> 資材調達・物流・不動産・広告宣伝・金融等のサービス、その他		三菱電機トレーディング㈱ 三菱電機エンジニアリング㈱ 三菱電機ロジスティクス㈱ 三菱電機システムサービス㈱ 國弘電社 三菱電機ライフサービス㈱ 國アイブネット 三菱電機クレジット㈱ 國北弘電社	

(注) 1 総合販社欄の会社は複数事業の製品販売を担当している会社が多いため、事業別に区分せず一括して表示している。

2 [ ]で括った会社は連結子会社であり、[ ]で括った会社は持分法適用関連会社である。

3 ITセミコン(株)は、平成25年4月1日付で社名変更し、メルコパワーデバイス(株)となっている。

4 海外の連結子会社の社名について、日本語表記を一部変更している。

4 【関係会社の状況】

会社名	住所	資本金	事業の内容	議決権に 対する 所有割合 (%)	関係内容等	
					役員の 兼任等	営業上の取引等
(連結子会社) 三菱電機 インフォメーション システムズ(株)	東京都 港区	百万円 2,600	情報システムの企画・設計 ・開発・販売、各種ソリュー ション及び関連サービスの 提供	100.0	有	当社がソフトウェアの開発業務 を委託しており、建物の賃貸借関 係がある。
三菱電機 情報ネットワーク(株)	東京都 千代田区	2,200	ネットワーク及びアプリ ケーションの構築・運営・ 保守、ネットワーク及び情報 システムのアウトソーシング 、セキュリティ、データ センター等各種サービスの 提供	100.0	有	当社が情報処理の運用の委託及 び通信ネットワークの利用を行 っている。
三菱電機 インフォメーション テクノロジー(株)	東京都 港区	1,250	ITプラットフォーム、ミドル ウェアの開発・製造・販売 ・保守・ITマネージメント ・データウェアハウス・ ネットワーク構築等各種 サービスの提供	(1.8) 100.0	有	当社情報システム製品の保守を しており、建物の賃貸借関係が ある。
(株)三菱電機 ビジネスシステム	東京都 中野区	400	オフィスサーバ、PCサーバを 中心としたソリューション、 業種・業務パッケージソ リューションの開発・販売	100.0	有	当社が製品を購入している。
三菱電機 ビルテクノサービス(株)	東京都 千代田区	5,000	昇降機設備、冷凍・空調設備 等の保守・修理、ビルの総合 管理運営	100.0	有	当社昇降機、冷凍・空調設備の販 売・据付・保守をしている。
三菱電機 エンジニアリング(株)	東京都 千代田区	1,000	電気・電子機器の設計、製作 工事・据付関連技術、情報処 理、各種ドキュメント制作	100.0	有	当社が設計業務の委託及び製品 の一部を購入している。
三菱電機 システムサービス(株)	東京都 世田谷区	600	家電品・住宅関連機器・電子 機器及び機器製品の修理 ・販売・据付・保守	100.0	有	当社家電品・住宅関連機器・電子 機器及び機器製品の保守をし ており、土地・建物の賃貸借関係 がある。
三菱スペース・ ソフトウェア(株)	東京都 港区	500	宇宙事業をはじめとする各 種ソフトウェアの開発・製 造・販売及びSI事業	86.0	有	当社が宇宙関連機器等のシステ ム開発業務を委託している。
三菱電機プラント エンジニアリング(株)	東京都 台東区	350	重電関係プラント及び機器 のメンテナンスサービス並 びにエンジニアリング	100.0	有	当社重電関係プラント及び機器 の保守をしている。
三菱電機コントロール ソフトウェア(株)	神戸市 兵庫区	300	エネルギー・産業・公共・ 交通輸送・カーエレクトロ ニクス等のシステムソフト ウェア開発・設計・製造	100.0	有	当社がシステムソフトウェアの開 発業務を委託しており、建物の 賃貸借関係がある。
菱電工機 エンジニアリング(株)	名古屋市 東区	300	工作機用電機品・電気加工 機・レーザー加工機その他 周辺機器及びシステムの据 付・調整・修理・保守	100.0	有	当社工作機用電機品等の据付・ 保守をしており、建物の賃貸借関 係がある。
三菱電機マイコン機器 ソフトウェア(株)	兵庫県 尼崎市	100	有線・無線・衛星・画像等 のIT関連システム、電波応 用、漢字プリンタに関するソ フト、ハードの研究開発設計 ・製造・販売	(0.1) 100.0	有	当社がソフトウェアの開発・設 計業務を委託している。
三菱電機メカトロニクス ソフトウェア(株)	名古屋市 中区	100	FA制御機器、放電・レーザー 加工機、エレベーター、空調 機等のシステム・ソフト ウェアの開発	(0.1) 100.0	有	当社がシステムソフトウェアの開 発業務を委託しており、建物の 賃貸借関係がある。
メルコセミコンダクタ エンジニアリング(株)	福岡市 西区	30	半導体の設計・開発及びプ ロセス・テスト技術	(0.1) 100.0	有	当社が設計・開発業務を委託し ている。
三菱プレジジョン(株)	東京都 江東区	3,167	シミュレータ製品、電子精密 機器、電子応用機器等の製造 ・販売	66.8	有	当社が製品の一部を購入してい る。
三菱電機メテックス(株)	相模原市 中央区	2,310	りん青銅板等銅合金・磁気 デバイス製品・マイクロ波 機器用デバイス製品の製造 ・販売	77.7	有	当社が製品の一部を購入してい る。土地・建物の賃貸借関係が ある。
三菱電機特機システム(株)	東京都 品川区	600	レーダー応用機器、電子応用 機器、光学機器の製造・販売 ・修理	100.0	有	当社が製品の一部を購入してい る。
島田理化工業(株)	東京都 調布市	600	マイクロ波・ミリ波各種機 器・高周波応用機器等の製 造・販売	100.0	有	当社が製品の一部を購入してい る。

会社名	住所	資本金	事業の内容	議決権に対する所有割合(%)	関係内容等	
					役員の兼任等	営業上の取引等
三菱電機照明(株)	神奈川県鎌倉市	百万円 3,785	施設用照明器具、住宅用照明器具、LEDランプ、蛍光灯ランプ、その他照明関連機器の製造・販売	100.0	有	当社ブランドの照明器具・LEDランプ・蛍光灯ランプを製造・販売しており、製品の一部を当社が購入している。
三菱電機ホーム機器(株)	埼玉県深谷市	400	ジャー炊飯器、掃除機、IHクッキングヒーター等の家庭用電気器具の製造・販売	100.0	有	当社ブランドの家庭用電気器具の製造・販売をしており、製品の一部を当社が購入している。
多田電機(株)	兵庫県尼崎市	300	電力機器用冷却装置、その他各種熱交換器、環境装置、溶接機、並びに電子ビーム応用加工装置の製造・販売	100.0	有	当社が製造を委託している。
東洋電機(株)	兵庫県丹波市	300	鉄道車両用電機品・電力用機器・配電用機器の製造・販売	91.9	有	当社が製品の一部を購入している。
メルコ・ディスプレイ・テクノロジー(株)	熊本県合志市	200	産業用・中小型の液晶表示装置の製造・販売	100.0	有	当社が製品を購入している。当社が設計・開発業務を委託している。土地・建物の賃貸借関係がある。
(株)デービー精工	兵庫県姫路市	96	自動車機器、産業用電子機器等の製造・販売	69.0	有	当社が製品の一部を購入している。
名菱テクニカ(株)	名古屋市中区	60	電機設備・機械設備の設計・製造・保守管理	(0.1) 100.0	有	当社が製品の一部を購入しており、建物の賃貸借関係がある。
ITセミコン(株)	兵庫県丹波市	30	半導体集積回路製品の製造	67.0	有	当社が製造を委託している。土地・建物の賃貸借関係がある。
(株)菱和	大阪府福島区	689	自動車機器、情報通信、環境機器の販売・保守	79.7	有	当社の自動車機器等を販売している。
(株)ダイヤモンドテレコム	東京都中央区	450	移動体情報通信端末及びその応用製品並びにシステムの販売	100.0	有	当社の製品を販売している。
三菱電機冷熱機器販売(株)	東京都千代田区	350	冷熱機器の販売及び据付	100.0	有	当社の冷熱機器の販売・据付をしている。
メルコファシリティーズ(株)	東京都三鷹市	100	住宅設備機器等の販売及び据付	(100.0) 100.0	有	当社住宅設備機器の販売・据付をしている。
(株)菱交	東京都千代田区	20	鉄道車両用電機品の販売	(0.1) 100.0	有	当社の鉄道車両用電機品を販売している。
千代田三菱電機機器販売(株)等の地域総合販売会社10社	東京都千代田区他	20~300	電気機器販売及び工事請負	(0~0.2) 51.0~100.0	有	当社の産業用機器、冷熱機器等を販売している。
三菱電機ライフサービス(株)	東京都港区	3,000	不動産の売買・仲介・賃貸、福利厚生施設の管理・運営	100.0	有	当社が厚生施設等の管理運営を委託しており、土地・建物の賃貸借関係がある。
三菱電機ロジスティクス(株)	東京都渋谷区	1,735	貨物輸送、倉庫業	(1.5) 99.2	有	当社が輸送及び保管・荷役業務を委託しており、土地・建物の賃貸借関係がある。
(株)弘電社	東京都中央区	1,520	屋内配線、発変電所、送電線、通信その他電気工事の施工及び電気機器他の販売	(0.4) 51.8	有	当社より機器製品の供給を受け、電気設備工事を行っている。
三菱電機トレーディング(株)	東京都千代田区	1,000	国内・海外資材調達・販売、海外工場向け部品・設備等の輸出、海外事業関係業務受託	(4.2) 100.0	有	当社が資材調達、現品管理業務を委託しており、事務所の賃貸借関係がある。
三菱電機冷熱プラント(株)	東京都品川区	400	冷凍冷蔵設備、空調設備の据付・保守及び冷熱プラント設備工事	(37.5) 100.0	有	当社の冷凍冷蔵設備、空調設備の据付・保守をしている。
菱電エレベータ施設(株)	東京都新宿区	200	昇降機の販売・据付、小荷物専用昇降機の製造・販売・据付	(21.0) 100.0	有	当社の昇降機の販売・据付を担当している。
(株)アイブラネット	東京都港区	200	広告代理業務、宣伝販売促進関係の企画・制作・調査、展示会の企画・運営	100.0	有	当社が広告宣伝業務を委託している。
(株)菱サ・ビルウェア	東京都豊島区	110	ビルの総合管理・運営、ビル設備の保守・修理及び運転管理、マンション管理・運営等	(100.0) 100.0	無	当社が厚生施設等の一部の設備の保守・点検・修理業務を委託している。
メルダスシステムエンジニアリング(株)	名古屋市東区	100	NC装置、放電・レーザー加工機、ロボットシステム等の販売	(0.1) 100.0	有	当社の産業用機器を販売している。
(株)三菱電機ライフネットワーク	東京都江東区	2,800	家庭電気機器の販売	100.0	有	当社家庭電気機器の販売をしている。
三菱電機住環境システムズ(株)	東京都台東区	2,627	住宅設備機器及び家庭電気機器の販売	(27.0) 100.0	有	当社住宅設備機器及び家庭電気機器の販売をしており、土地・建物の賃貸借関係がある。

会社名	住所	資本金	事業の内容	議決権に 対する 所有割合 (%)	関係内容等	
					役員の 兼任等	営業上の取引等
三菱電機US ホールディングス社	米国 (サイプレス)	千US\$ 321,172	米国における持株会社	100.0	有	米国における当社の主要事業会社 の持株会社。
三菱電機US社	米国 (サイプレス)	31,623	昇降機の販売・据付・保守、 冷熱機器、電子部品、太陽光 発電機器等の販売及び米州 地域統括	(100.0) 100.0	有	当社の製品を販売している。
三菱電機 オートモーティブ・ アメリカ社	米国 (メイソン)	28,000	自動車機器の製造・販売	(100.0) 100.0	有	当社より部品を供給し、当該会社 にて製造及び完成品の輸入販売 を実施している。
三菱電機 パワー・プロダクツ社	米国 (ワーレンデル)	25,850	電力用各種送変電機器及び 交通車両用電機品他の製造 ・販売・エンジニアリング	(100.0) 100.0	有	当社より部品等を供給し、当該会社 にて製造及び完成品の輸入販売 を実施している。
三菱電機 ビジュアル・ ソリューションズ・ アメリカ社	米国 (アーバイン)	20,000	業務用映像機器の販売	100.0	有	当社の製品を販売している。
三菱電機 オートメーション社	米国 (バーノンヒルズ)	8,000	FA制御機器等の販売・サー ビス、制御盤の製造・販売及 びサービス	(100.0) 100.0	有	当社の製品を販売している。
三菱電機 ヨーロッパ社	オランダ (アムステルダム)	千EUR 100,590	昇降機の販売・据付・保守、 重電機器、電子機器、電子部 品、家庭電気機器、冷熱機器、 産業機器、自動車用電装品等 の販売及び欧州地域統括	100.0	有	当社の製品を販売している。
ヴィンコテック・ ホールディングス社	ルクセンブルク	36	産業用パワーデバイスの開 発・製造・販売を担うヴィ ンコテックグループの持株 会社	100.0	有	欧州等におけるパワーデバイス 事業会社の持株会社。
三菱電機 オートモーティブ・ チェコ社	チェコ (スラニー)	千CZK 350,000	自動車機器の製造・販売	100.0	有	当社より技術供与と契約があり、当 該会社にて製造・販売を行って いる。
三菱電機アジア社	シンガポール	千S\$ 65,430	家庭電気機器、産業機器、冷 熱機器、太陽光発電機器、電 子部品等の販売及びアジア 地域統括	100.0	有	当社の製品を販売している。
サイアム・ コンプレッサー・ インダストリー社	タイ (チョンブリ)	千BAHT 1,603,800	エアコン用コンプレッサー の製造・販売	(19.7) 98.0	有	当社より技術供与と契約があり、当 該会社にて製造・販売を行って いる。
三菱電機 コンシューマー・ プロダクツ(タイ)社	タイ (チョンブリ)	1,200,000	空調機の製造及び販売	(20.0) 90.0	有	当社より技術供与と契約があり、当 該会社にて製造・販売を行って いる。
三菱エレベーター・ アジア社	タイ (チョンブリ)	1,151,500	昇降機の製造及び販売	(5.0) 100.0	有	当社より技術供与と契約があり、当 該会社にて製造・販売を行って いる。
三菱電機 タイ・オートパーツ社	タイ (ラヨン)	400,000	自動車機器の製造・販売	100.0	有	当社より技術供与と契約があり、当 該会社にて製造・販売を行って いる。
三菱電機 カンヨンワタナ社	タイ (バンコック)	95,100	家電品の販売・アフター サービス、標準電機品の販売	50.1	有	当社の製品を販売している。
三菱電機(香港) 有限公司	中国(香港)	千HK\$ 98,000	重電機器、電子部品等の販売	(100.0) 100.0	有	当社の製品を販売している。
三菱電機自動化(香港) 有限公司	中国(香港)	88,000	FA制御機器、配電制御機器、 放電・レーザー加工機等の 販売・サービス	(100.0) 100.0	有	当社の製品を販売している。
三菱電機香港有限公司	中国(香港)	35,000	昇降機の販売・据付・保守	(75.0) 75.0	有	当社の製品を販売している。三菱 電機香港集团有限公司が55.0%、 三菱電機ビルテクノサービス(株) が20.0%の株式を所有している。
三菱電機(広州)圧縮機 有限公司	中国(広州)	千US\$ 122,220	空調用ロータリーコンプ レッサーの製造・販売	(14.7) 100.0	有	当社より技術供与と契約があり、当 該会社にて製造・販売を行って いる。
上海三菱電機 上菱空調機電器有限公司	中国(上海)	58,000	空調機の製造・販売	(11.2) 52.4	有	当社より技術供与と契約があり、当 該会社にて製造・販売を行って いる。
三菱電機 上海機電電梯有限公司	中国(上海)	53,000	昇降機の製造・販売・保守	(20.0) 60.0	有	当社より技術供与と契約があり、当 該会社にて製造・販売・保守を 行っている。
三菱電機空調・映像設備 (上海)有限公司	中国(上海)	24,878	空調機器・映像情報機器の 販売	(100.0) 100.0	有	当社の製品を販売している。
三菱電機機電(上海) 有限公司	中国(上海)	1,000	重電機器、電子部品等の販売 及び顧客への技術サービス、 資材調達	(100.0) 100.0	有	当社の製品を販売している。

会社名	住所	資本金	事業の内容	議決権に対する所有割合(%)	関係内容等	
					役員の兼任等	営業上の取引等
三菱電機大連機器有限公司	中国(大連)	百万円 3,000	FA制御機器、配電制御機器、放電・レーザー加工機等の製造	(10.0) 100.0	有	当社より部品を供給し、当該会社にて製造及び完成品の販売を実施している。
台湾三菱電機股?有限公司	台湾(台北)	千NT\$ 1,274,710	重電機器、電子機器、冷熱機器、家庭電気機器、電子部品等の販売及び台湾地域統括	100.0	有	当社の製品を販売している。
韓国三菱エレベーター社	韓国(ソウル)	千WON 8,000,000	昇降機の製造・販売・据付・保守	(26.0) 80.0	有	当社より技術供与と契約があり、当該会社にて製造・販売・据付・保守を行っている。
韓国三菱電機オートメーション社	韓国(ソウル)	2,000,000	FA制御機器、配電制御機器、放電・レーザー加工機等の販売・サービス	51.0	有	当社の製品を販売している。
三菱電機オーストラリア社	オーストラリア(ライダルメア)	千A\$ 11,000	冷熱、電鉄用電機品、送变电機器、映像情報機器、家電品、FA機器、自動車電装品等の販売及びアフターサービス	100.0	有	当社の製品を販売している。
その他82社 (持分法適用関連会社)		百万円				
ルネサスエレクトロニクス(株)	川崎市 中原区	153,255	マイコン・ロジック・アナログ等のシステムLSI製品、ディスクリット半導体製品、SRAM等のメモリ製品の研究・開発・設計・製造・販売・サービスの提供	25.1	有	当社が製品の一部を購入している。
東芝三菱電機産業システム(株)	東京都 港区	15,000	製造業プラント向電気設備の販売、エンジニアリング、工事・サービス及び主要機器の開発・製造	50.0	有	当社が製品を購入しており、また当社の製品を販売している。
(株)指月電機製作所	兵庫県 西宮市	5,001	コンデンサー、コンデンサー応用機器、電力システム、情報機器の製造・販売	(0.0) 24.2	有	当社が製品の一部を購入している。
大井電気(株)	横浜市 港北区	2,708	情報通信機器、移動体通信機器、計測器の製造・販売	31.9	有	当社が製品の一部を購入している。
菱電商事(株)	東京都 豊島区	10,334	電気機器、電子部品、情報機器、その他一般機械器具、各種資材の販売、工事請負等	(1.1) 37.2	有	当社の製品を販売している。
(株)カナデン	東京都 港区	5,576	電気機器、電子部品、情報、メカトロ機器及び各種資材の販売、工事請負	(0.1) 25.5	有	当社の製品を販売している。
萬世電機(株)	大阪市 福島区	1,005	電気機器、電子デバイス・情報通信機器、設備機器、産業機械等の販売	(0.1) 22.0	有	当社の製品を販売している。
(株)北弘電社	札幌市 中央区	840	屋内配線、発変電所、送電線、通信その他電気工事の施工及び電気機器他の販売	(1.4) 29.1	有	当社が機器製品を供給している。
西菱電機(株)	兵庫県 伊丹市	523	情報通信機器並びにシステムの販売・据付・保守・修理等	(0.3) 23.5	有	当社の製品を販売している。
士林電機廠股?有限公司	台湾(台北)	千NT\$ 5,209,722	電装品、重電機器、FA機器の製造・販売	21.2	有	当社より技術供与と契約があり、相互に製品・部品の供給をしている。
カンヨン・エレクトリック社	タイ (サムットプラカーン)	千BAHT 220,000	冷蔵庫・扇風機・換気扇・ポンプの製造及び販売	(0.3) 41.1	有	当社より技術供与と契約があり、当該会社にて製造・販売を行っており、製品の一部を当社が購入している。
その他28社						

(注) 1 関係内容等の役員の兼任等には、当社役員・従業員が役員を兼務している他、出向・転籍者が役員をしているものを含んでいる。

2 議決権に対する所有割合の欄の上段( )内数は、間接所有割合(内数)である。

3 上記会社の内、三菱電機ビルテクノサービス(株)及び三菱電機USホールディングス社は特定子会社に該当する。

4 上記会社の内、(株)北弘電社、ルネサス エレクトロニクス(株)、(株)指月電機製作所、大井電気(株)、菱電商事(株)、(株)カナデン、萬世電機(株)、(株)北弘電社及び西菱電機(株)は、有価証券報告書又は有価証券届出書を提出している。

5 上記会社は、その売上高(連結会社相互の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合がそれぞれ100分の10以下であるため、主要な損益情報などの記載を省略している。

6 三菱電機グループの資金効率化を図るため、グループ内の資金を活用したグループ資金融資制度を実施している。同制度では、三菱電機ビルテクノサービス(株)等から当社が借入を行い、当社資金を含めて三菱電機ライフサービス(株)等へ貸付を行っている。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成25年3月31日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数(人)
重電システム	37,958
産業メカトロニクス	25,289
情報通信システム	15,627
電子デバイス	5,050
家庭電器	21,605
その他	11,126
共通	4,303
合計	120,958

(注) 従業員数は就業人員である。

### (2) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
29,394[7,037]	40.6	17.6	7,673,456

事業の種類別セグメントの名称	従業員数(人)
重電システム	7,516
産業メカトロニクス	7,402
情報通信システム	4,392
電子デバイス	1,911
家庭電器	4,588
共通	3,585
合計	29,394

(注) 1 従業員数は就業人員である。臨時従業員数は、[ ]内に年間の平均人員を外数で記載している。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいる。

### (3) 労働組合

三菱電機グループにおいては、労働組合は会社毎に組織されている。当社の労働組合は三菱電機労働組合と称し、労使の関係は組合結成以来今日まで安定している。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度の経営環境は、為替については第3四半期後半から円安が進行し、米国や新興国の景気が底堅く推移したものの、欧州の景気停滞や中国の成長鈍化に加え、日本においても景気回復が想定より遅れるなど、厳しい状況が続いた。

かかる中、三菱電機グループは、これまでの事業競争力強化・経営体質強化に加え、自らの強みに根ざした成長戦略の推進に、従来以上に軸足を置いて取り組んできた。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高は、産業メカトロニクス部門、電子デバイス部門及び家庭電器部門の減収などにより、前連結会計年度比722億円減の3兆5,671億円となった。

連結営業利益は、産業メカトロニクス部門、情報通信システム部門及び電子デバイス部門の減益などにより、前連結会計年度比733億円減の1,520億円となった。

税金等調整前当期純利益は、電子システム事業における過大請求事案に関する返納金757億円を営業外費用に計上したことなどにより、前連結会計年度比1,589億円減の651億円となった。

当社株主に帰属する当期純利益は、税金費用の減少により、前連結会計年度比425億円減の695億円となった。

なお、当社単独の受注高は2兆2,385億円(前年度比97%)、売上高は2兆2,360億円(前年度比95%)となった。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりである。

#### 重電システム

社会インフラ事業は、前年度に東日本大震災に伴う復旧需要があった影響などにより、受注は前連結会計年度を下回ったが、国内・海外の電力事業の増加により、売上は前連結会計年度並みとなった。

ビル事業は、国内の昇降機新設及びリニューアル需要の増加や、中国を中心とした海外の昇降機新設需要の増加により、受注・売上とも前連結会計年度を上回った。

この結果、部門全体では、売上高は前連結会計年度比3%増の1兆581億円、営業利益は、売上増加などにより、前連結会計年度比2億円増の851億円となった。

なお、当社単独の受注高は6,460億円(前年度比93%)、売上高は6,792億円(前年度比102%)となった。

#### 産業メカトロニクス

FAシステム事業は、中国・韓国・台湾の半導体・フラットパネルディスプレイ関連を中心とした設備投資の抑制などにより、受注・売上とも前連結会計年度を下回った。

自動車機器事業は、欧州市場の新車販売不振の継続や、中国市場の日系自動車メーカーの販売減少により、受注は前連結会計年度を下回ったが、北米市場の回復や国内市場のエコカー補助金制度による下支えにより、売上は前連結会計年度並みとなった。

この結果、部門全体では、売上高は前連結会計年度比5%減の9,278億円、営業利益は、売上減少などにより、前連結会計年度比406億円減の605億円となった。

なお、当社単独の受注高は7,695億円(前年度比93%)、売上高は7,744億円(前年度比92%)となった。

#### 情報通信システム

通信事業は、通信インフラ機器などの増加により、受注・売上とも前連結会計年度を上回った。

情報システム・サービス事業は、システムインテグレーション事業が伸長したが、ITインフラサービス事業等の減少により、売上は前連結会計年度並みとなった。

電子システム事業は、宇宙事業の大口案件の受注により、受注は前連結会計年度を上回ったが、電子事業の減少により、売上は前連結会計年度を下回った。

この結果、部門全体では、売上高は前連結会計年度比1%増の5,224億円、営業利益は、コスト悪化に加え、電子事業の売上減少などにより、前連結会計年度比197億円減の15億円となった。

なお、当社単独の受注高は3,447億円(前年度比119%)、売上高は3,045億円(前年度比98%)となった。

#### 電子デバイス

半導体事業は、産業用・民生用・電鉄用パワー半導体需要の減少などにより、受注・売上とも前連結会計年度を下回った。

液晶事業は、産業用途製品需要の増加により、受注・売上とも前連結会計年度を上回った。

この結果、部門全体では、売上高は前連結会計年度比18%減の1,640億円、営業損益は、売上減少などにより、前連結会計年度比91億円悪化の55億円の損失となった。

なお、当社単独の受注高は1,154億円(前年度比95%)、売上高は1,157億円(前年度比83%)となった。

## 家庭電器

家庭電器事業は、アジアでの空調機器の増加があったが、国内向け液晶テレビ及びブルーレイディスクレコーダーの大幅な需要の減少などにより、売上高は前連結会計年度比3%減の8,212億円、営業利益は、売上減少などにより、前連結会計年度比30億円減の193億円となった。

なお、当社単独の受注高は3,626億円(前年度比94%)、売上高は3,620億円(前年度比94%)となった。

## その他

資材調達、物流等の関係会社を中心に、売上高は前連結会計年度比3%減の5,903億円、営業利益は、売上減少などにより、前連結会計年度比15億円減の187億円となった。

所在地別セグメントの業績は、次のとおりである。

## 日本

FAシステム事業、半導体事業及び映像機器の減等により、売上高は前連結会計年度比4%減の3兆640億円、営業利益は、前連結会計年度比625億円減の1,169億円となった。

## 北米

交通事業、自動車機器事業及び空調機器の増等により、売上高は前連結会計年度比11%増の2,481億円となったが、営業損益は、映像機器の価格低下・売上減少等により、前連結会計年度比50億円悪化の17億円の損失となった。

## アジア

昇降機事業、自動車機器事業及び空調機器の増等により、売上高は前連結会計年度比7%増の6,247億円、営業利益は、前連結会計年度比19億円増の361億円となった。

## 欧州

半導体事業及び空調機器の減等により、売上高は前連結会計年度比6%減の2,899億円、営業利益は、前連結会計年度比17億円減の45億円となった。

## その他

その他所在地には豪州子会社等が含まれており、売上高は402億円、営業利益は22億円となった。

## (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度は、営業活動により増加した純キャッシュが827億円となった一方、投資活動に投入した純キャッシュが1,537億円となったため、フリー・キャッシュ・フローは前連結会計年度より100億円支出が減少し709億円の支出となった。これに対し、財務活動により減少した純キャッシュは411億円となったことから、現金及び預金等期末残高は、前連結会計年度比933億円減少の2,988億円となった。

営業活動によるキャッシュ・フローは、非支配持分控除前当期純利益や法人税等の期間配分調整額の減少があったものの、受取手形及び売掛金の回収等により前連結会計年度比75億円増加の827億円の収入となった。

投資活動によるキャッシュ・フローは、貸付金の増加の一方、有価証券等の売却収入の増加や有形固定資産の取得の減少等により、前連結会計年度比24億円減少の1,537億円の支出となった。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済等により、前連結会計年度比481億円減少の411億円の支出となった。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりである。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(百万円)	前連結会計年度比(%)
重電システム	748,768	104
産業メカトロニクス	847,433	95
情報通信システム	372,693	97
電子デバイス	133,825	80
家庭電器	611,465	96
その他	2,092	96
計	2,716,276	97

(注) 上記金額は、仕込製品については仕切予定価格、注文製品については受注価格で示している。

### (2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況は、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」に記載している。

### (3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりである。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)	前連結会計年度比(%)
重電システム	1,058,177	103
産業メカトロニクス	927,857	95
情報通信システム	522,422	101
電子デバイス	164,065	82
家庭電器	821,298	97
その他	590,366	97
消去	517,001	-
計	3,567,184	98

(注) 各種別セグメントの金額には、セグメント間の内部売上高(振替高)を含めて表示している。

### 3 【対処すべき課題】

世界経済の先行きは、中国・インドの成長鈍化や、欧州経済の停滞長期化が懸念されるものの、米国経済の堅調な推移に加え、新興国においても総じて緩やかな経済成長が見込まれる。日本においても、昨年後半からの円安進行の効果や公共投資の増加などが、景気回復を下支えしていくことも期待される。

かかる中、三菱電機グループは、「バランス経営」の3つの視点(「成長性」「収益性・効率性」「健全性」)を踏まえ、「強い事業をより強く」を目指した個別事業の強化(VI戦略<sup>\*1</sup>)及び強い事業を核としたソリューション事業の強化(AD戦略<sup>\*2</sup>)を両輪とする成長戦略をこれまで以上に推進するとともに、品質、コスト、生産技術力、開発力、知的財産、営業・サービスの強化など、従来展開してきた経営体質強化に向けた各施策の一層の推進加速に取り組んでいく。併せて、たゆまぬ構造改革の実行により、強靱な経営体質の確立を図っていく。

具体的には、成長戦略として、環境関連事業戦略の推進、中国・インド等の新興国市場での事業拡大、社会インフラシステム事業の強化、セキュリティ事業など当社が保有するさまざまな技術やノウハウを組み合わせたソリューション事業の展開など、成長分野への取り組み強化を図っていく。経営体質強化施策としては、「ものづくり力」の強化に資するソフトウェア及びハードウェアの開発・生産力の強化、開発設計段階からの品質作り込み、Just In Time活動をはじめとする生産性向上策、中長期的視点を踏まえた継続的な人材投入等による人材構造の適正化及び人材の最適配置等の各施策を展開していく。また、棚卸資産の圧縮等による財務体質の改善に取り組むとともに、グローバル及びグループトータルで最適な事業推進体制の構築・強化を図っていく。更に、開発、設計、調達、製造、販売、サービス等、各部門・機能の連携を通じて、事業推進体制の一層の強化を図っていく。

併せて、CSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)についても、「企業理念<sup>\*3</sup>」及び「7つの行動指針<sup>\*4</sup>」に基づき、特に、「遵法」については、これまで企業経営の基本を成すものと位置づけ、内部統制の強化、教育を核とした対策に取り組んできた。しかしながら、平成23年7月以降、当社は一部の自動車用部品の国内での販売に関する独占禁止法違反容疑について公正取引委員会から調査を受け、平成24年11月に、同違反に係る排除措置命令及び課徴金納付命令を受けた<sup>\*5</sup>。また、平成24年1月以降、当社が電子システム事業において、防衛省<sup>\*6</sup>、内閣衛星情報センター<sup>\*7</sup>、独立行政法人 宇宙航空研究開発機構<sup>\*7</sup>、独立行政法人 情報通信研究機構<sup>\*7</sup>及び総務省<sup>\*8</sup>との契約で、また、連結子会社等4社が防衛省<sup>\*6</sup>との契約で、費用の過大計上や不適切な請求を行っていたことが判明し、それぞれから指名停止又は競争参加資格停止の措置を受けた。これらの事実を厳粛かつ深刻に受け止め、原因究明のために徹底した調査を行い、この結果を踏まえて策定した再発防止策を実行するなど、コンプライアンス活動の強化に全力で取り組み、一刻も早い信頼回復に努めていく。また、「環境」については、低炭素社会や循環型社会の形成等に向けた取り組みを推進する。

三菱電機グループは、上記施策を着実に展開することにより、更なる企業価値の向上を目指していく。

\*1 「VI」とはVictory(勝利の意味)の先頭の2文字をとったもの。

\*2 「AD」とはAdvance(前進、進歩の意味)の先頭の2文字をとったもの。

\*3 「企業理念」：三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する。

\*4 「7つの行動指針」：

- ・「信頼」：社会・顧客・株主・社員・取引先等との高い信頼関係を確立する。
- ・「品質」：最良の製品・サービス、最高の品質の提供を目指す。
- ・「技術」：研究開発・技術革新を推進し、新しいマーケットを開拓する。
- ・「貢献」：グローバル企業として、地域、社会の発展に貢献する。
- ・「遵法」：全ての企業行動において規範を遵守する。
- ・「環境」：自然を尊び、環境の保全と向上に努める。
- ・「発展」：適正な利益を確保し、企業発展の基盤を構築する。

\*5 課徴金納付命令に従い、平成25年2月に、1,410百万円を国庫に納付した。また、排除措置命令に基づき講じた措置についても報告を終えている。

\*6 防衛省については、平成25年2月に、費用の過大請求事案に関する返納金49,512百万円を国庫に納付し、当社への指名停止措置が解除されている。

また、当社の連結子会社3社(三菱プレジジョン(株)、三菱電機特機システム(株)、三菱スペース・ソフトウェア(株))も、平成25年2月に、費用の過大請求事案に関する返納金10,768百万円(3社合計)を国庫に納付し、指名停止措置が解除されている。

なお、持分法適用関連会社の太洋無線(株)も、平成25年2月に、費用の過大請求事案に関する返納金2,969百万円を国庫に納付し、指名停止措置が解除されている。

\*7 内閣衛星情報センター、独立行政法人 宇宙航空研究開発機構、独立行政法人 情報通信研究機構については、平成25年1月に、費用の過大請求事案に関する返納金15,437百万円を国庫等に納付し、当社への指名停止措置又は競争参加資格停止措置が解除されている。

\*8 総務省については、平成24年7月に、費用の過大請求事案に関する返納金26百万円を国庫に納付している。また、平成24年6月に、当社への指名停止措置が解除されている。

## 4 【事業等のリスク】

三菱電機グループは、重電システム、産業メカトロニクス、情報通信システム、電子デバイス、家庭電器、その他の広範囲の分野にわたり開発、製造、販売等の事業を行っており、またそれぞれの事業は国内並びに北米、欧州、アジア等の海外において展開されている。そのため、様々な要素が当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性がある。

具体的に当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性がある要因のうち、主なものは以下のとおりだが、新たな要因が発生する可能性もある。

- (1) 世界の経済状況・社会情勢及び規制や税制等各種法規の動向  
世界の経済状況・社会情勢及び規制や税制等各種法規の動向は、当社グループの経営全般に影響を及ぼす可能性がある。
- (2) 為替相場  
為替相場の変動は、主に当社における米ドル建てもしくはユーロ建て輸出売上や輸入部材購入、アジア地域の製造拠点における当該地国以外の通貨建て輸出売上や輸入部材購入について影響を及ぼす可能性がある。
- (3) 株式相場  
株式相場の下落は、当社が保有する市場性のある株式の評価減による損失の計上、年金資産公正価値の減少に伴う退職給付費用の増加をもたらす可能性がある。
- (4) 製品需給状況及び部材調達環境  
製品需給状況の変動による価格の下落や出荷数量の減少及び部材調達環境の悪化による原価の上昇は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性がある。
- (5) 資金調達環境  
特に円の金利上昇は、当社の支払利息の増加をもたらす。
- (6) 重要な特許の成立及び実施許諾並びに特許関連の係争等  
重要な特許の成立及び実施許諾並びに特許関連の係争等が起こった場合は、当該案件の関係する事業へ影響を及ぼす可能性がある。
- (7) 環境に関連する規制や問題の発生  
環境に関連する規制の動向や問題の発生は、損失の計上や規制に対応するための費用等の増加を伴う可能性がある。また、当社グループの生産活動をはじめとする企業活動全般に影響を及ぼす可能性がある。
- (8) 製品やサービスの欠陥や瑕疵等  
製品やサービスの欠陥や瑕疵等により、損失計上を伴う場合がある。また、当社グループの製品やサービスの品質に対する評価の低下は、経営全般に影響を及ぼす可能性がある。
- (9) 訴訟その他の法的手続き  
当社グループに対する訴訟その他の法的手続きは、当社グループの経営全般に影響を及ぼす可能性がある。
- (10) 急激な技術変化や、新技術を用いた製品の開発、製造及び市場投入時期  
急激な技術変化や、新技術を用いた製品の開発、製造及び市場投入時期は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性がある。
- (11) 事業構造改革  
事業構造改革の実行内容によっては、損失計上を伴う場合がある。
- (12) 地震・台風・津波・火災等の大規模災害の発生  
地震・台風・津波・火災等の大規模災害の発生は、当社グループの生産活動をはじめとする企業活動全般に影響を及ぼす可能性がある。
- (13) テロ・戦争、新型インフルエンザ等の感染症の流行等による社会的・政治的混乱の発生  
テロ・戦争、新型インフルエンザ等の感染症の流行等による社会的・政治的混乱の発生は、当社グループの経営全般に影響を及ぼす可能性がある。

なお、上記における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成25年6月27日)現在において当社が判断したものである。

## 5 【経営上の重要な契約等】

### (1) 技術供与契約

相手方の名称	契約の内容	契約締結日	期限
エムペグ・エルエー社	画像圧縮技術特許実施許諾(MPEG-2)	平成 9. 7. 1	許諾特許最終消滅 日まで
三菱電機コンシューマー・ プロダクツ(タイ)社	ルームエアコン・パッケージエアコン 製造技術使用許諾	平成 2. 6. 1	自動延長
上海三菱電機 上菱空調機電器有限公司	ルームエアコン・パッケージエアコン・ 換気扇製造技術使用許諾	平成22. 6.25	平成29. 6.25

(注) 1 上記契約は、すべて当社を契約会社としている。

2 上記契約に基づく報償料は、売上に応じた金額を受領する。一部の契約については、所定金額を受領する。

## 6 【研究開発活動】

三菱電機グループ(当社及び連結子会社)は、国内研究所、海外研究所(米・欧)及び製作所・連結子会社の開発部門において、基礎研究から応用研究、製品化開発、更には生産技術開発に至る積極的な研究開発活動を推進している。また、国内外の大学・研究機関などとも連携し、広範かつ先進的な研究開発活動をグローバルに展開している。

当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費の総額は1,722億円(製造費用へ計上した改良費等を含む)であり、事業セグメントごとの研究開発活動の目的・内容・成果及び開発費は以下のとおりである。

### (1) 重電システム

発電機・電動機等の回転機、開閉機器・変圧器等の送変電機器や受配電機器、交通システム、昇降機などの基幹製品の競争力強化に向けた開発を行うとともに、監視制御システム、電力情報システム、ビル管理システムなどIT応用システムの開発を行っている。主な成果は、営業車両向け「SiC適用鉄道車両用補助電源装置」、駅舎補助電源装置(S-EIV)及びJR東日本・山手線での「トレインネット」実証実験、世界最大級容量の「自励式」無効電力補償装置、72/84kVタンク型真空遮断器、新型デジタルリレー「MELPRO-CHARGE2」、放射線計測装置、三菱ビル設備オープン統合システム「Facima BA-system touch」、SiC適用エレベーター制御装置などである。当該分野における研究開発費は298億円である。

### (2) 産業メカトロニクス

モータ及びその関連製品、メカトロ機器、FA制御システム機器、電動パワーステアリングなどの自動車用電装品、カーマルチメディア機器などの競争力強化に向けた開発を行っている。主な成果は、「MELSEC-QシリーズC言語コントローラ」、電磁開閉器「MS-T シリーズ」、一般産業用スマートメーター、CNC対応ドライブユニット、油加工液仕様ワイヤ放電加工機「MX600」、ファイバー二次元レーザー加工機「ML3015NX-F」、電気自動車を用いたスマートグリッド実証実験、自動車機器分野でVolvo Carとの提携による共同開発体制の強化、オーディオナビシステム「DIATONE SOUND、NAVI」、第9世代(9G)オルタネータの回生エネルギー活用技術などである。当該分野における研究開発費は589億円である。

### (3) 情報通信システム

情報通信インフラやネットワークソリューション機器などの情報通信システム及び宇宙関連システムなどの開発を行っている。主な成果は、100GbpsWDM光通信装置、3G/LTE共用フェムトセル無線基地局装置、「IMEWE Cable System」40Gbps波長増設完了、デジタルCCTVシステム「MELLOOKμ+」、10G-EPONシステム用光トランシーバ、電子署名モジュール「MistyGuard<SignedPDF<sup>®\*1</sup>>シリーズ」新製品、保険薬局システム「調剤Melphin<sup>®\*2</sup>/DUO(デュオ)」<sup>2</sup>、クラウドID管理サービス「DIASMILE<sup>®\*3</sup>(ダイヤスマイル)」<sup>3</sup>、スマートデバイス用電子証明書発行サービス「DeviCERT<sup>®\*4</sup>」、販売管理システム「販売指南<sup>®\*5</sup> Ver3.5」などである。当該分野における研究開発費は164億円である。

### (4) 電子デバイス

全社事業分野を支える半導体デバイス等の電子デバイスの開発を行っている。主な成果は、第6世代IGBTチップ搭載「IGBTモジュールMPDシリーズ」、SiCパワー半導体モジュール、MOSFET搭載「超小型DIPIPM」、Ku帯50W GaN HEMT、衛星測位システム用低雑音増幅器、「ドライバー内蔵40Gbps EML-TOSA」、産業用タッチパネル搭載 三菱カラーTFT液晶モジュール「DIAFINE」<sup>®\*6</sup>などである。当該分野における研究開発費は82億円である。

### (5) 家庭電器

空調機器、調理家電、家事家電、照明機器、デジタル映像機器、電材住設機器、太陽光発電システムなどの開発を行っている。主な成果は、「スマートSTOPシステム」搭載ルームエアコン「ハイブリッド霧ヶ峰」、スマートキューブ」搭載冷蔵庫「置けるスマート大増量」、小型化した本格サイクロン式掃除機「風神」TC-ZXCシリーズ、色再現を高めた赤色レーザーバックライト搭載液晶テレビ「REAL LASERVUE」、LED照明の新ブランド「MILIE(ミライエ)」<sup>7</sup>展開、業界初「PV・EV連携HEMS」電力最適制御技術、スマート(賢い・つながる・ムダがない)な技術を用いた新トータルコンセプト「スマートクオリティ」による新しい製品群などである。当該分野における研究開発費は308億円である。

### (6) その他・共通

開発本部・生産システム本部に属する研究所・センターで、事業競争力強化、新事業創出を目指す技術開発、全社的な共通基盤技術開発及び基礎的研究に取り組んでいる。主な成果は、高解像度の地表観測を実現するレーダー観測衛星技術、薄型デザインと省エネを両立した「ルームエアコン室内機」、高速大容量巻上機の低コスト化とラインナップ拡充、LED照明機器の色度層別システムの開発などである。当該分野における研究開発費は277億円である。

\*1 SignedPDFは三菱電機インフォメーションシステムズ(株)の登録商標である。

\*2 Melphinは三菱電機インフォメーションシステムズ(株)の登録商標である。

\*3 DIASMILEは三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)の登録商標である。

\*4 DeviCERTはジャパンネット(株)の登録商標である。

\*5 販売指南は(株)三菱電機ビジネスシステムの登録商標である。

\*6 DIAFINEは三菱伸銅(株)の登録商標であるが、平成20年1月17日から10年間の使用許諾を得ている。

\*7 平成24年5月15日現在、当社調べ。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

三菱電機グループが当連結会計年度中にとった主な施策及び翌連結会計年度以降に向けての施策については、「1 業績等の概要 (1) 業績」及び「3 対処すべき課題」に記載のとおりであるが、これらの施策の実施状況を踏まえた当連結会計年度に関する財政状態及び経営成績の分析は以下のとおりである。

なお、当社の連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められた会計原則に基づいて作成している。当社は連結財務諸表を作成するために、種々の仮定と見積りを行っており、それらの仮定と見積りは資産、負債、収益、費用の計上金額並びに偶発資産及び債務の開示金額に影響を及ぼし、実際の結果がそれらの見積りと異なることもあり得る。主要な会計方針の要約は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 (平成23年度及び平成24年度連結財務諸表に対する注記)」に記載している。

事業の種類別セグメントの業績と所在地別セグメントの業績については「1 業績等の概要 (1) 業績」に、キャッシュ・フローについては「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載している。

当連結会計年度より、米国財務会計基準審議会のAccounting Standards Update(以下「ASU」)2011-05「包括利益の表示」を適用している。これに伴い、前連結会計年度についても遡及的に適用している。

なお、ASU2011-05ではその他の包括利益累計額から当期純利益に振り替えた項目を当期純利益の内訳として区分掲記することも要求しているが、ASU2011-12「ASU2011-05における、その他の包括利益累計額から振り替える項目の表示に関する改訂の適用日の延期」により、ASU2011-05の当該規定の適用日が延期されたため区分掲記していない。

### (1) 資産及び負債・資本の状況分析

総資産残高は、前連結会計年度末比187億円増加の3兆4,104億円となった。現金及び預金等が933億円減少した一方、受取手形及び売掛金と長期営業債権の合計が252億円増加、棚卸資産が145億円増加、設備投資を背景に有形固定資産が461億円増加した。

負債の部は、借入金及び社債残高が前連結会計年度末比17億円減少の5,405億円となり、借入金比率は15.9%(前連結会計年度末比 0.1ポイント)となった。支払手形及び買掛金が475億円減少、退職給付引当金が株価上昇等に伴う年金資産の増加等により1,171億円減少したこと等により、負債残高は前連結会計年度末比1,572億円減少の2兆434億円となった。

資本の部は、配当金の支払い236億円による減少等があったものの、当社株主に帰属する当期純利益695億円の計上、為替円安・株価上昇等を背景としたその他の包括利益累計額の増加1,221億円等により、株主資本は、前連結会計年度末比1,676億円増加の1兆3,000億円となり、株主資本比率は38.1%(前連結会計年度末比+4.7ポイント)となった。

## (2) 経営成績の分析

### 売上高

当連結会計年度の売上高は、3兆5,671億円と前連結会計年度比722億円の減収となった。これは、産業メカトロニクス、電子デバイス、家庭電器及びその他のセグメントにおいて減収となったこと等によるものである。

### 売上原価及び費用並びに営業利益

売上原価は、前連結会計年度比246億円減少の2兆6,043億円となり、売上高に対する比率は0.8ポイント悪化の73.0%となった。販売費及び一般管理費・研究開発費は、前連結会計年度比251億円増加の8,064億円となり、売上高に対する比率は前連結会計年度比1.1ポイント悪化の22.6%となった。固定資産減損損失は、前連結会計年度比5億円増加の43億円となった。

この結果、営業利益は産業メカトロニクス、情報通信システム、電子デバイス、家庭電器及びその他のセグメントにおいて減益となったこと等により、前連結会計年度比733億円減少の1,520億円となった。

### 営業外収益及び営業外費用

受取利息及び受取配当金と支払利息を合わせた金融費用は、前連結会計年度比2億円の収支悪化となり12億円の収入超過となった。

持分法による投資損失は、前連結会計年度比112億円増加の146億円となった。

その他の収益は、為替差益や資産売却益の増加等により前連結会計年度比31億円増加の253億円となった。その他の費用は、電子システム事業における過大請求事案に関する返納金757億円の計上等により、前連結会計年度比772億円増加の989億円となった。

### 税金等調整前当期純利益

税金等調整前当期純利益は、前連結会計年度比1,589億円減少の651億円(売上高に対する比率1.8%)となった。これは、前述のとおり営業利益の減少、営業外損益の悪化によるものである。

### 当社株主に帰属する当期純利益

当社株主に帰属する当期純利益は、税金等調整前当期純利益が減少したものの、税金費用の減少等により、前連結会計年度比425億円減少の695億円(売上高に対する比率1.9%)となった。

(注) 「第2 事業の状況」の各記載金額には消費税等を含んでいない。

## 第3 【設備の状況】

### 1 【設備投資等の概要】

三菱電機グループ(当社及び連結子会社)は、「バランス経営」の実践と更なる成長性の追求による業績の拡大の方針の下、成長戦略の実現及び収益性向上のために、重電機器、FA機器、自動車機器、パワーデバイス、空調機器等の各セグメントの中核事業を中心に投資を実施する一方で、投資対象の選別・絞込みを徹底することにより、強固な事業基盤の構築を目指している。

当連結会計年度の設備投資額は、164,626百万円(有形固定資産の計上ベース)であり、内訳は次のとおりである。

	設備投資額(百万円)
重電システム	39,168
産業メカトロニクス	53,376
情報通信システム	22,434
電子デバイス	8,706
家庭電器	25,056
その他	5,521
共通	10,365
合計	164,626

当連結会計年度におけるセグメント別の主要な内容は下記のとおり。

重電システム分野においては、電力機器、交通機器及び昇降機の増産、合理化、品質向上等を目的とした投資を行った。

産業メカトロニクス分野においては、FA機器及び自動車機器における増産等を目的とした投資を行った。

情報通信システム分野においては、研究開発力の強化等を目的とした投資を行った。

電子デバイス分野においては、パワーデバイスにおける増産等を目的とした投資を行った。

家庭電器分野においては、空調機器の増産、合理化、品質向上等を目的とした投資を行った。

共通分野においては、研究開発力の強化等を目的とした投資を行った。

また、所要資金は、主に自己資金によっている。

なお、当連結会計年度の生産能力に重要な影響を及ぼすような固定資産の売却、撤去または災害による滅失等はない。

## 2 【主要な設備の状況】

三菱電機グループ(当社及び連結子会社)は、多種多様な事業を国内外で行っており、その設備の状況を事業の種類別セグメント毎の数値とともに主たる設備の状況を開示する方法によっている。

当連結会計年度末における状況は、次のとおりである。

### (1) 事業の種類別セグメント内訳

事業の種類別 セグメントの名称	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
	建物及び構築物	機械装置	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
重電システム	59,735	36,299	26,382 (7,351)	33,586	156,002	37,958
産業メカトロニクス	57,055	40,794	10,880 (1,877)	25,022	133,751	25,289
情報通信システム	22,237	6,307	6,763 (491)	13,188	48,495	15,627
電子デバイス	14,255	12,636	2,400 (773)	11,337	40,628	5,050
家庭電器	38,504	41,409	24,164 (1,729)	14,908	118,985	21,605
その他	37,308	1,379	27,501 (572)	4,224	70,412	11,126
共通	16,796	651	7,359 (427)	9,921	34,727	4,303
合計	245,890	139,475	105,449 (13,223)	112,186	603,000	120,958

(注) 1 帳簿価額は有形固定資産の帳簿価額であり、また、「その他」には建設仮勘定を含んでいる。

2 「共通」には連結消去を含んでいる。

### (2) 提出会社の状況

事業所名 (主な所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
神戸製作所 電力システム製作所 (神戸市兵庫区)	重電システム	監視制御・ 発電機器 等製造設備	11,968	9,898	1,497 (290)	3,583	26,948	1,969
伊丹製作所 系統変電システム製作所 (兵庫県尼崎市)	重電システム	車両用電機品 ・送電機器 等製造設備	7,876	9,073	2,385 (847)	2,672	22,007	1,780
姫路製作所 (兵庫県姫路市)	産業メカトロ ニクス	自動車機器 製造設備	19,470	11,379	4,558 (272)	5,461	40,869	2,370
名古屋製作所 (名古屋市中区)	産業メカトロ ニクス	FA機器 製造設備	15,638	6,479	2,439 (671)	5,722	30,280	2,308
鎌倉製作所 (神奈川県鎌倉市)	情報通信 システム	電子機器等 製造設備	9,980	2,140	1,572 (345)	5,382	19,076	1,874

(注) 1 帳簿価額は有形固定資産の帳簿価額であり、また、「その他」には建設仮勘定を含んでいる。

2 伊丹製作所及び系統変電システム製作所の土地は、通信機製作所及びコミュニケーション・ネットワーク製作所等の土地を含んでいる。

3 名古屋製作所には、新城工場の土地400百万円(130千㎡)他を含んでいる。

### (3) 国内子会社の状況

子会社事業所名 (主な所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
三菱電機 ビルテクノサービス(株)本社 (東京都千代田区)	重電システム	その他設備	10,258	807	10,100 (112)	4,260	25,425	7,758
三菱電機 住環境システムズ(株)本社 (東京都台東区)	家庭電器	その他設備	1,902		3,895 (102)	134	5,931	2,064
三菱電機照明(株) 掛川北工場・掛川南工場 (静岡県掛川市)	家庭電器	照明器具 及びランプ 製造設備	2,296	1,092	1,366 (127)	498	5,252	451
三菱電機 ライフサービス(株)本社 (東京都港区)	その他	その他設備	23,943	287	13,505 (152)	311	38,046	1,163
三菱電機 ロジスティクス(株)本社 (東京都渋谷区)	その他	その他設備	8,318	276	5,093 (284)	1,448	15,135	938

(注) 1 帳簿価額は有形固定資産の帳簿価額であり、また、「その他」には建設仮勘定を含んでいる。

2 三菱電機ライフサービス(株)の建物及び構築物、土地の一部は、当社に賃貸している。

3 三菱電機ビルテクノサービス(株)、三菱電機住環境システムズ(株)、三菱電機ライフサービス(株)及び三菱電機ロジスティクス(株)は、全国に営業所を展開してサービス業を営んでいるため、全社合計値を記載している。

### (4) 在外子会社の状況

子会社事業所名 (主な所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
三菱電機 パワ・・・プロダクツ社 メンフィス変圧器工場 (米国・メンフィス)	重電システム	変圧器 製造設備		23	348 (661)	15,820	16,191	58
三菱電機上海機電電梯 有限公司 (中国・上海)	重電システム	昇降機 製造設備	2,351	3,288	( )	483	6,122	761
三菱電機 タイ・オートパーツ社 (タイ・ラヨン)	産業メカトロ ニクス	車載用電装 品及びカー オーディオ 製造設備	2,440	2,130	634 (146)	4,305	9,509	2,624
三菱電機(広州)圧縮機 有限公司 (中国・広州)	家庭電器	圧縮機 製造設備	1,772	8,921	( )	2,670	13,363	2,622
サイアム・ コンプレッサー・ インダストリー社 (タイ・チョンブリ)	家庭電器	圧縮機 製造設備	2,462	11,950	( )	499	14,911	2,822
三菱電機 コンシューマー・ プロダクツ(タイ)社 (タイ・チョンブリ)	家庭電器	空調機器 製造設備	2,954	2,383	928 (178)	2,257	8,522	1,508

(注) 帳簿価額は有形固定資産の帳簿価額であり、また、「その他」には建設仮勘定を含んでいる。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

三菱電機グループ(当社及び連結子会社)は、多種多様な事業を国内外で行っており、期末時点ではその設備の新設・拡充の計画を個々のプロジェクトごとに決定していない。そのため、事業の種類別セグメントごとの数値を開示する方法によっている。

当連結会計年度後1年間の設備投資計画(新設・拡充)は、170,000百万円(意思決定ベース)であり、事業の種類別セグメントごとの内訳は次のとおりである。

(単位:百万円)

事業の種類別 セグメントの名称	平成25年3月末 計画金額	設備等の主な内容・目的
重電システム	36,000	電力機器、交通機器及び昇降機の増産、合理化、品質向上等
産業メカトロニクス	55,000	FA機器及び自動車機器の増産等
情報通信システム	18,000	研究開発力強化、合理化等
電子デバイス	13,000	パワーデバイスの増産等
家庭電器	39,000	空調機器の増産、合理化、品質向上等
その他	5,000	-
共通	4,000	研究開発力強化に伴う設備工事等
合計	170,000	-

(注) 1 経常的な設備の更新の為の除・売却を除き、重要な設備の除・売却の計画はない。

2 所要資金は、主に自己資金によるが、必要に応じて借入金及び社債の発行を実施する予定である。

3 各セグメントの計画概要は、次のとおりである。

重電システム分野においては、電力機器、交通機器及び昇降機の増産、合理化、品質向上等を目的とした投資を計画。

産業メカトロニクス分野においては、FA機器及び自動車機器の増産等を目的とした投資を計画。

情報通信システム分野においては、研究開発力強化、合理化等を目的とした投資を計画。

電子デバイス分野においては、パワーデバイスの増産等を目的とした投資を計画。

家庭電器分野においては、空調機器の増産、合理化、品質向上等を目的とした投資を計画。

(注) 「第3 設備の状況」の各記載金額には消費税等を含んでいない。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000,000
計	8,000,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月31日現在)	提出日現在発行数(株) (平成25年6月27日現在)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,147,201,551	2,147,201,551	国内：東京(市場第一部) 海外：ロンドン	単元株式数 1,000株
計	2,147,201,551	2,147,201,551		

(注) 上記普通株式は、議決権を有している。

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成20年4月1日～ 平成21年3月31日		2,147,201		175,820		181,140
平成21年4月1日～ 平成22年3月31日		2,147,201		175,820		181,140
平成22年4月1日～ 平成23年3月31日		2,147,201		175,820		181,140
平成23年4月1日～ 平成24年3月31日		2,147,201		175,820		181,140
平成24年4月1日～ 平成25年3月31日		2,147,201		175,820		181,140

(6) 【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府・地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人・その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	1	146	55	1,370	549	32	108,248	110,401	
所有株式数(単元)	1	918,848	23,271	136,491	694,304	249	369,253	2,142,417	
所有株式数の割合(%)	0.00	42.89	1.09	6.37	32.41	0.01	17.23	100.00	

(注) 1 自己株式306,490株は「個人・その他」に 306単元及び「単元未満株式の状況」に490株含めて記載している。

2 (株)証券保管振替機構名義の株式は「その他の法人」に7単元及び「単元未満株式の状況」に780株含まれている。

(7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	160,862	7.49
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	117,118	5.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	102,394	4.77
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	81,862	3.81
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	72,439	3.37
三菱電機グループ社員持株会	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	52,391	2.44
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	338 PITT STREET SYDNEY NSW 2000 AUSTRALIA (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	48,014	2.24
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	36,822	1.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	33,178	1.55
ザ チェース マンハッタンバンク エヌエイ ロンドンエスエル オムニバス アカウント (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都中央区月島四丁目16番13号)	32,387	1.51
計		737,469	34.35

(注) 1 三井住友信託銀行株式会社から平成25年1月9日付けで、三井住友信託銀行株式会社、三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社及び日興アセットマネジメント株式会社を共同保有者とする大量保有報告書が提出されているが、当社としては平成25年3月31日現在の実質所有株式数の確認ができないため、「大株主の状況」欄は、株主名簿に基づいて記載している。なお、当該報告書による平成24年12月31日現在の株式保有状況は次のとおりである。

氏名又は名称	住所	保有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 保有株式数の割合(%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	91,925	4.28
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝三丁目33番1号	5,022	0.23
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	20,977	0.98

2 ドッチ・アンド・コックスから平成25年1月21日付けで、大量保有報告書が提出されているが、当社としては平成25年3月31日現在の実質所有株式数の確認ができないため、「大株主の状況」欄は、株主名簿に基づいて記載している。なお、当該報告書による平成25年1月15日現在の株式保有状況は次のとおりである。

氏名又は名称	住所	保有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 保有株式数の割合(%)
ドッチ・アンド・コックス	555 CALIFORNIA STREET, 40TH FLOOR, SAN FRANCISCO, CALIFORNIA 94104, U.S.A.	107,742	5.02

(8) 【議決権の状況】  
 【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 3,428,000		権利内容に何ら制限のない当社における標準となる株式 単元株式数1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,138,989,000	2,138,989	同上
単元未満株式	普通株式 4,784,551		同上
発行済株式総数	2,147,201,551		
総株主の議決権		2,138,989	

(注) 1 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式490株、三菱電機取引先持株会所有株式390株、相互保有自己名義株式として菱電商事(株)171株、大井電気(株)57株、三菱電機クレジット(株)771株、荘内三菱電機商品販売(株)125株、相互保有他人名義株式としてヒロボー電機(株)159株、菱陽電機(株)208株、(株)シンリョー390株、アイテック阪急阪神(株)593株、ミヨシ電子(株)260株、(株)証券保管振替機構名義の株式780株が含まれている。

2 「完全議決権株式(その他)」及び「議決権の数」欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式7,000株(議決権7個)が含まれている。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有 株式数 (株)	他人名義 所有 株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済 株式総数に 対する 所有株式数 の割合(%)
三菱電機(株)	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	306,000	0	306,000	0.01
(株)カナデン	東京都港区新橋四丁目22番4号	880,000	0	880,000	0.04
菱電商事(株)	東京都豊島区東池袋三丁目15番15号	506,000	0	506,000	0.02
(株)岡部マイカ工業所	福岡県中間市中間一丁目8番7号	500,000	0	500,000	0.02
ヒロボー電機(株)	広島県府中市本山町530番214号	289,000	1,000	290,000	0.01
菱陽電機(株)	岡山県小田郡矢掛町小田6621番地	259,000	1,000	260,000	0.01
(株)シンリョー	兵庫県神戸市兵庫区小松通五丁目1番6号	204,000	1,000	205,000	0.01
アイテック阪急阪神(株)	大阪府大阪市福島区海老江一丁目1番31号	162,000	1,000	163,000	0.01
(株)セツヨーアステック	大阪府大阪市北区南森町二丁目1番29号	100,000	0	100,000	0.00
大井電気(株)	神奈川県横浜市港北区菊名七丁目3番16号	69,000	0	69,000	0.00
三菱電機クレジット(株)	東京都品川区大崎一丁目6番3号	63,000	0	63,000	0.00
ミヨシ電子(株)	広島県三次市東酒屋町306番地	50,000	1,000	51,000	0.00
荘内三菱電機 商品販売(株)	山形県鶴岡市上畑町5番4号	13,000	0	13,000	0.00
(株)北弘電社	北海道札幌市中央区 北十一条西二十三丁目2番10号	12,000	0	12,000	0.00
太洋無線(株)	東京都大田区東糀谷二丁目11番18号	10,000	0	10,000	0.00
計		3,423,000	5,000	3,428,000	0.16

(注) ヒロボー電機(株)、菱陽電機(株)、(株)シンリョー、アイテック阪急阪神(株)及びミヨシ電子(株)は、当社の取引先会社で構成されている三菱電機取引先持株会(東京都千代田区丸の内二丁目7番3号)に加入しており、同持株会名義で当社株式を所有している。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項なし。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項なし。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	23,759	16,676,034
当期間における取得自己株式	8,127	7,768,311

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれていない。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(注2)	2,659	2,052,765		
保有自己株式数	306,490		314,617	

(注) 1 当期間における保有自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれていない。

2 当事業年度の内訳は、単元未満株式の買増し請求による売渡である。

### 3 【配当政策】

当社は、企業価値の向上を究極目標としつつ、当該年度の収益状況に応じた利益配分と内部留保の充実による財務体質の強化の両面から、総合的に株主利益の向上を図ることを基本方針としている。

また、当社は原則として中間配当及び期末配当の年2回の剰余金の配当を行う方針である。

剰余金の配当の決定機関は、取締役会である。

平成24年度は、当事業年度の業績と財務体質の状況を勘案し、剰余金の配当(期末配当金)を1株当たり6円とし、中間配当金(1株当たり5円)とあわせ、年間配当金は1株当たり11円とした。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりである。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年10月31日取締役会決議	10,734	5
平成25年 4月30日取締役会決議	12,881	6

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第138期	第139期	第140期	第141期	第142期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	1,269	878	1,021	980	849
最低(円)	358	441	657	608	557

(注) 株価は、東京証券取引所(市場第一部)の市場相場である。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	平成24年11月	平成24年12月	平成25年1月	平成25年2月	平成25年3月
最高(円)	644	673	779	785	817	849
最低(円)	564	557	645	730	740	754

(注) 株価は、東京証券取引所(市場第一部)の市場相場である。

## 5 【役員 の 状 況】

### (1) 取締役 の 状 況

役名	担当	氏名 (生年月日)	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役会長		しもむら せつひろ 下村 節 宏 (昭和20年 4月28日生)	昭和44年 4月 当社入社 平成13年 6月 当社取締役、自動車機器事業担当 同 15年 4月 当社常務取締役、自動車機器事業担当 同 15年 5月 当社常務取締役、ビルシステム事業・自動車機器事業担当 同 15年 6月 当社上席常務執行役、ビルシステム事業・自動車機器事業担当 同 16年 4月 当社代表執行役、執行役副社長、ビルシステム事業担当 同 18年 4月 当社代表執行役、執行役社長 同 18年 6月 当社取締役、代表執行役、執行役社長 同 22年 4月 当社取締役会長 (現在に至る)	平成25年 6月 ～ 平成26年 6月	80,000
取締役		やまにし けんいちろう 山 西 健 一 郎 (昭和26年 2月25日生)	昭和50年 4月 当社入社 平成18年 4月 当社常務執行役、生産システム担当 同 20年 4月 当社上席常務執行役、半導体・デバイス事業担当 同 22年 4月 当社代表執行役、執行役社長 同 22年 6月 当社取締役、代表執行役、執行役社長 (現在に至る)	同上	68,000
取締役		よしまつ ひろき 吉 松 裕 規 (昭和28年12月 4日生)	昭和51年 4月 当社入社 平成17年 4月 当社財務部長 同 21年 4月 当社常務執行役、経理・財務担当 同 21年 6月 当社取締役、報酬委員、常務執行役、経理・財務担当 同 25年 4月 当社取締役、報酬委員 同 25年 6月 当社取締役、監査委員 (現在に至る)	同上	25,000
取締役		はしもと のりとこ 橋 本 法 知 (昭和29年 7月30日生)	昭和52年 4月 当社入社 平成20年 4月 当社人事部長 同 21年 4月 当社常務執行役、総務・人事・広報担当 同 21年 6月 当社取締役、指名委員長、報酬委員長、常務執行役、総務・人事・広報担当 同 24年 4月 当社取締役、指名委員長、報酬委員長、専務執行役、経営企画・関係会社担当 同 24年 6月 当社取締役、指名委員、専務執行役、経営企画・関係会社担当 (現在に至る)	同上	26,000
取締役		ふじもと りょうすけ 藤 本 良 介 (昭和24年 4月18日生)	昭和48年 4月 当社入社 平成17年 4月 当社監査部長 同 19年 6月 株式会社トーカン取締役社長 同 22年 6月 当社取締役、監査委員 同 25年 6月 当社取締役、監査委員長 (現在に至る)	同上	22,000
取締役		おおくま のぶゆき 大 隈 信 幸 (昭和33年 7月31日生)	昭和57年 4月 当社入社 平成19年10月 当社名古屋製作所総務部長 同 22年 4月 当社FAシステム業務部長 同 24年 4月 当社常務執行役、人事担当 同 24年 6月 当社取締役、指名委員長、報酬委員長、常務執行役、人事担当 同 25年 4月 当社取締役、指名委員長、報酬委員長、常務執行役、総務・人事担当 (現在に至る)	同上	12,000
取締役		まつやま あきひろ 松 山 彰 宏 (昭和32年 6月 1日生)	昭和56年 4月 当社入社 平成16年 4月 当社経理部次長 同 20年 4月 島田理化学工業株式会社経営企画室副室長 同 22年 4月 当社関係会社部長 同 25年 4月 当社常務執行役、経理・財務担当 同 25年 6月 当社取締役、報酬委員、常務執行役、経理・財務担当 (現在に至る)	同上	11,000

役名	担当	氏名 (生年月日)	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役		ささき みきお 佐々木 幹夫 (昭和12年10月 8日生)	昭和35年 4月 三菱商事株式会社入社 平成10年 4月 三菱商事株式会社取締役社長 同 16年 4月 三菱商事株式会社取締役会長 同 18年 6月 当社取締役、報酬委員 (現在に至る) 同 22年 6月 三菱商事株式会社取締役 相談役 同 23年 6月 三菱商事株式会社相談役 (現在に至る)	平成25年 6月 ~ 平成26年 6月	24,000
取締役		みき しげみつ 三木 繁光 (昭和10年 4月 4日生)	昭和33年 4月 株式会社三菱銀行(現 株式会社三菱東京UFJ銀行)入 行 平成12年 6月 株式会社東京三菱銀行(現 株式会社三菱東京UFJ銀 行)頭取 同 13年 4月 株式会社三菱東京フィナンシャル・グループ(現 株 式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ)取締役社 長 同 16年 6月 株式会社東京三菱銀行取締役会長、株式会社三菱東 京フィナンシャル・グループ取締役 同 17年10月 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役 同 18年 1月 株式会社三菱東京UFJ銀行取締役会長 同 19年 6月 当社取締役、指名委員、監査委員 (現在に至る) 同 20年 4月 株式会社三菱東京UFJ銀行相談役 同 22年 4月 株式会社三菱東京UFJ銀行特別顧問 (現在に至る)	同上	22,000
取締役		まきの ふじあつ 牧野 藤厚 (昭和16年 9月17日生)	昭和42年10月 磯辺公認会計士共同事務所入所 同 46年 3月 公認会計士登録 (現在に至る) 同 48年 3月 税理士登録 (現在に至る) 牧野公認会計士税理士事務所長 (現在に至る) 平成10年 5月 太田昭和監査法人(現 新日本有限責任監査法人)経営 専務理事 同 12年 4月 監査法人太田昭和センチュリー(現 新日本有限責任 監査法人)常任理事 同 13年 7月 新日本監査法人(現 新日本有限責任監査法人)常任理 事 同 19年 6月 新日本監査法人退任 同 23年 6月 当社取締役、監査委員、報酬委員 (現在に至る)	同上	8,000
取締役		やぶなか みとし 藪中 三十二 (昭和23年 1月23日生)	昭和44年 4月 外務省入省 平成20年 1月 外務省事務次官 同 22年 8月 外務省退官 同 22年10月 株式会社野村総合研究所顧問 (現在に至る) 同 24年 6月 当社取締役、指名委員、報酬委員 (現在に至る)	同上	
取締役		おおばやし ひろし 大林 宏 (昭和22年 6月17日生)	昭和47年 4月 検事任官 平成18年 6月 法務省事務次官 同 20年 7月 東京高等検察庁検事長 同 22年 6月 検事総長 同 22年12月 検事総長退官 同 23年 3月 弁護士登録 (現在に至る) 同 25年 6月 当社取締役、指名委員、監査委員 (現在に至る)	同上	
合計					298,000

(注) 1 当社は「会社法」第2条第12号に定める委員会設置会社である。

2 佐々木 幹夫、三木 繁光、牧野 藤厚、藪中 三十二及び大林 宏の5氏は、「会社法」第2条第15号に定める社外取  
締役である。

(2) 執行役の状況

役名	担当	氏名 (生年月日)	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表執行役 執行役社長		やまにし けんいちろう 山西 健一郎 (昭和26年 2月25日生)	(1) 取締役の状況参照	平成25年 4月 ～ 平成26年 3月	68,000
代表執行役 執行役副社長	輸出管理、ビル システム事業担 当	むねゆき みつお 宗行 満男 (昭和25年 3月 4日生)	昭和49年 4月 当社入社 平成17年 4月 当社常務執行役、社会システム事業担当 同 19年 4月 当社上席常務執行役、社会システム事業担 当 同 20年 4月 当社上席常務執行役、経営企画担当 同 20年 6月 当社取締役、指名委員、上席常務執行役、経 営企画担当 同 21年 4月 当社取締役、指名委員、代表執行役、専務執 行役、経営企画・関係会社担当 同 22年 4月 当社取締役、指名委員、代表執行役、執行役 副社長、ビルシステム事業担当 同 22年 6月 当社代表執行役、執行役副社長、ビルシス テム事業担当 同 23年 4月 当社代表執行役、執行役副社長、輸出管理 ・ビルシステム事業担当 (現在に至る)	同上	70,000
代表執行役 執行役副社長	半導体・デバイ ス事業担当	さくやま まさき 柵山 正樹 (昭和27年 3月17日生)	昭和52年 4月 当社入社 平成20年 4月 当社常務執行役、電力・産業システム事業 担当 同 22年 4月 当社専務執行役、経営企画・関係会社担当 同 22年 6月 当社取締役、指名委員、専務執行役、経営企 画・関係会社担当 同 24年 4月 当社取締役、指名委員、代表執行役、執行役 副社長、半導体・デバイス事業担当 同 24年 6月 当社代表執行役、執行役副社長、半導体・ デバイス事業担当 (現在に至る)	同上	45,000
専務執行役	電子システム事 業担当	ささかわ たかし 笹川 隆 (昭和24年11月20日生)	昭和47年 4月 当社入社 平成19年 4月 当社常務執行役、国際担当 同 23年 4月 当社専務執行役、国際担当 同 24年 3月 当社専務執行役、電子システム事業担当 (現在に至る)	同上	33,000
専務執行役	経営企画、関係 会社担当	はしもと のりとも 橋本法知 (昭和29年 7月30日生)	(1) 取締役の状況参照	同上	26,000
常務執行役	IT、開発担当	つつみ かずひこ 堤 和彦 (昭和27年10月24日生)	昭和57年 4月 当社入社 平成20年 4月 当社先端技術総合研究所長 同 22年 4月 当社常務執行役、開発担当 同 24年10月 当社常務執行役、IT・開発担当 (現在に至る)	同上	39,000
常務執行役	電力・産業シス テム事業担当	なかたに よしあき 中谷 義昭 (昭和28年 7月30日生)	昭和53年 4月 当社入社 平成20年 4月 当社系統変電システム製作所長 同 22年 4月 当社常務執行役、電力・産業システム事業 担当 (現在に至る)	同上	38,000

役名	担当	氏名 (生年月日)	略歴	任期	所有株式数 (株)
常務執行役	法務・コンプライアンス担当	なかむら つよし 中村 強 (昭和28年12月31日生)	昭和52年 4月 当社入社 平成20年 4月 当社知的財産渉外部長 同 21年 4月 当社法務部長 同 22年 4月 当社常務執行役、監査・法務・輸出管理担当 同 23年 4月 当社常務執行役、監査・産業政策渉外・法務・輸出管理・知的財産渉外・知的財産担当 同 24年 4月 当社常務執行役、監査・法務・輸出管理・知的財産渉外・知的財産担当 同 24年10月 当社常務執行役、法務・コンプライアンス・輸出管理・知的財産渉外・知的財産担当 同 25年 6月 当社常務執行役、法務・コンプライアンス担当 (現在に至る)	平成25年 4月 ~ 平成26年 3月	36,000
常務執行役	生産システム担当	もりやす まさはる 森 安 雅 治 (昭和29年 2月24日生)	昭和55年 4月 当社入社 平成18年 4月 当社生産技術センター長 同 22年 4月 当社常務執行役、生産システム担当 (現在に至る)	同上	40,000
常務執行役	リビング・デジタルメディア事業担当	うめむら ひろゆき 梅 村 博 之 (昭和27年 2月 7日生)	昭和49年 4月 当社入社 平成20年 4月 当社リビング・デジタルメディア事業本部副事業本部長 同 23年 4月 当社常務執行役、リビング・デジタルメディア事業担当 (現在に至る)	同上	36,500
常務執行役	通信システム事業担当	なかにし やすゆき 中 西 康 之 (昭和29年 5月12日生)	昭和52年 4月 当社入社 平成20年 4月 当社三田製作所長 同 23年 4月 当社常務執行役、通信システム事業担当 (現在に至る)	同上	27,000
常務執行役	国際担当	すえき たかゆき 末 木 孝 幸 (昭和24年10月31日生)	昭和48年 4月 当社入社 平成20年 1月 三菱電機(中国)有限公司董事長、総経理 同 24年 3月 当社常務執行役、国際担当 (現在に至る)	同上	12,000
常務執行役	監査、産業政策渉外、広報担当	いちげ まさゆき 市 毛 正 行 (昭和28年 2月22日生)	昭和50年 4月 当社入社 平成20年 4月 当社関西支社長 同 24年 4月 当社常務執行役、産業政策渉外・総務・広報担当 同 24年10月 当社常務執行役、監査・産業政策渉外・総務・広報担当 同 25年 4月 当社常務執行役、監査・産業政策渉外・広報担当 (現在に至る)	同上	17,000
常務執行役	宣伝、国内営業担当	いぐち いさお 井 口 功 (昭和29年 9月 3日生)	昭和52年 4月 当社入社 平成17年 4月 当社機器事業部長 同 22年 4月 当社中部支社長 同 24年 4月 当社常務執行役、宣伝・国内営業担当 (現在に至る)	同上	14,000
常務執行役	FAシステム事業担当	おおくぼ ひでゆき 大久保 秀 之 (昭和29年10月29日生)	昭和54年 4月 当社入社 平成18年 4月 当社名古屋製作所長 同 22年 4月 当社FAシステム事業本部副事業本部長 同 24年 4月 当社常務執行役、FAシステム事業担当 (現在に至る)	同上	17,000
常務執行役	自動車機器事業担当	おおはし ゆたか 大 橋 豊 (昭和30年10月23日生)	昭和55年 4月 当社入社 平成18年10月 当社姫路製作所長 同 22年10月 当社自動車機器事業本部副事業本部長 同 24年 4月 当社常務執行役、自動車機器事業担当 (現在に至る)	同上	13,000

役名	担当	氏名 (生年月日)	略歴	任期	所有株式数 (株)
常務執行役	インフォメーションシステム事業担当	よしなが とおる 吉永 徹 (昭和31年 3月13日生)	昭和53年 4月 当社入社 平成17年 4月 三菱電機大連機器有限公司董事、総経理 同 21年 4月 当社福山製作所長 同 23年 4月 当社インフォメーションシステム事業推進本部副本部長 同 24年 4月 当社常務執行役、インフォメーションシステム事業担当 (現在に至る)	平成25年 4月 ~ 平成26年 3月	12,000
常務執行役	総務、人事担当	おおくま のぶゆき 大隈 信幸 (昭和33年 7月31日生)	(1) 取締役の状況参照	同上	12,000
常務執行役	経理、財務担当	まつやま あきひろ 松山 彰宏 (昭和32年 6月 1日生)	(1) 取締役の状況参照	同上	11,000
常務執行役	資材担当	さかもと たかし 坂本 隆 (昭和33年 3月 9日生)	昭和56年 4月 当社入社 平成18年10月 当社半導体・デバイス業務統括部資材部長 同 21年 6月 当社電力システム製作所資材部長 同 23年10月 当社資材部次長 同 24年 3月 当社電子システム業務部次長 同 24年 4月 当社電子システム業務部長 同 25年 4月 当社常務執行役、資材担当 (現在に至る)	同上	12,000
常務執行役	社会システム事業担当	きくち たかひろ 菊池 高弘 (昭和33年 4月26日生)	昭和59年 4月 当社入社 平成17年 5月 当社伊丹製作所車両システム部長 同 21年 4月 当社伊丹製作所副所長 同 23年 4月 当社伊丹製作所所長 同 25年 4月 当社常務執行役、社会システム事業担当 (現在に至る)	同上	2,000
常務執行役	輸出管理、知的財産渉外、知的財産担当	こんどう けんじ 近藤 賢二 (昭和29年 5月 1日生)	昭和53年 4月 通商産業省(現 経済産業省)入省 平成20年 7月 経済産業省商務情報政策局長 同 21年 7月 内閣官房内閣審議官・知的財産戦略推進事務局局長 同 24年 3月 内閣官房退官 同 24年 7月 当社顧問 同 25年 6月 当社常務執行役、輸出管理・知的財産渉外・知的財産担当 (現在に至る)	平成25年 6月 ~ 平成26年 3月	
合計					580,500

(注) 当社は「会社法」第2条第12号に定める委員会設置会社である。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

##### ア．企業統治の体制の概要

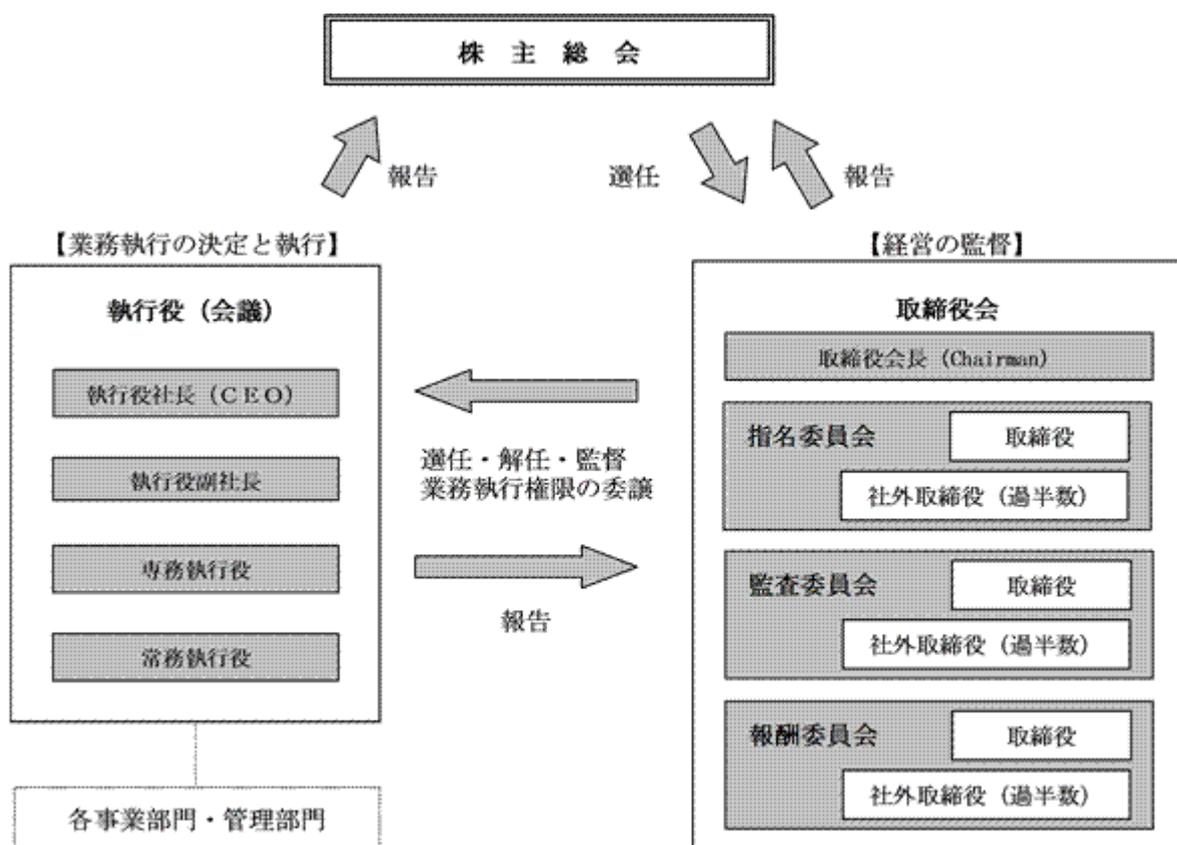
当社は、平成15年6月に委員会等設置会社(現 委員会設置会社)へ移行し、経営機構の改革を行った。

これにより、経営の監督と執行の分離を行い、経営の監督機能は取締役会が、経営の執行機能は執行役が担う体制とした。

現在の取締役は、12名(うち5名は社外取締役)で、客観的な視点から当社経営への助言と監督を行っている。

取締役会の内部機関として、指名委員会、監査委員会、報酬委員会を設置した。それぞれ5名の取締役(うち3名は社外取締役)により構成している。

なお、監査委員会には、専属の独立したスタッフを配置し、監査委員を補佐している。



##### イ．企業統治の体制を採用する理由

経営の機動性(より適切・迅速な意思決定)、透明性の一層の向上を図るとともに、経営の監督機能を強化し、持続的成長を目指すため、委員会設置会社形態を採用している。

顧客、株主、取引先、従業員、投資家等のステークホルダーの期待により的確に応えうる体制を構築・整備し、更なる企業価値の向上を図ることとしている。

#### ウ．内部統制システムの整備の状況

当社の経営機構の特長としては、経営監督機能の長である取締役会長と、最高経営責任者である執行役社長を分離したことが挙げられる。また、取締役会長、執行役社長とも、指名・報酬委員会のメンバーとはしていない。経営の監督と執行を明確に分離することにより、当社のコーポレート・ガバナンスをより実効性あるものとしている。

コンプライアンスの維持及び経営の効率性の確保は、各執行役が自己の分掌範囲について責任を持って行っており、その運営状況は、内部監査人が監査を行っている。内部監査人は、監査担当執行役に対し、監査状況の報告を行っている。また、監査担当執行役及び会計監査人は、監査委員会に対し、監査状況の報告を行っている。

#### エ．リスク管理体制の整備の状況

リスクマネジメント体制は、各執行役が自己の分掌範囲について、責任を持って構築している。また、経営執行に関わる重要事項については、執行役全員により構成する執行役会議において審議・決定しており、執行役全員の経営参画と情報共有化、経営のシナジー効果の追求及び三菱電機グループとしての多面的なリスクマネジメントを行っている。

#### オ．責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役全員との間で、「会社法」第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、1,000万円又は法令の定める最低限度額のいずれか高い額となっている。

#### 内部監査及び監査委員会監査の状況

内部監査人には専属の人員を約30名配置し、更に関連部門から専門的視点を有する応援監査人を加え、公正・客観的な立場から内部監査を実施している。

監査委員会は、5名の取締役で構成され(うち3名は社外取締役)、委員会の定めた方針・役割分担に従い、調査担当監査委員が中心となって取締役・執行役の職務執行の監査や子会社に対する調査を実施している。

監査委員会は、内部監査人より監査担当執行役経由で監査報告書の提出を受けるとともに、方針打合せや定期的な報告会等を通じて意見交換を実施している。また、会計監査人と、監査の方針・方法について打合せを行うとともに、実施状況、監査結果につき説明・報告を受け、意見交換を実施している。

内部統制部門は、内部統制体制、規程等の整備・運営状況等の点検を実施し、内部監査人がモニタリングしている。また、モニタリングの結果は、監査担当執行役経由で監査委員会に報告している。

なお、監査委員 吉松 裕規及び藤本 良介の両氏は、長年当社の経理・財務部門の業務を経験しており、監査委員 牧野 藤厚氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する者である。

#### 社外取締役

当社の社外取締役は5名であり、各氏と当社の間には、特別の利害関係はなく、また、各氏の兼職先には当社との間に取引等の関係があるものも含まれるが、その規模・性質から、各氏の独立性に影響を及ぼす関係もないため、全員一般株主と利益相反が生じるおそれのない、独立性のある社外取締役である。

なお、社外取締役の佐々木 幹夫氏は、三菱商事(株)の相談役であり、また、三木 繁光氏は、(株)三菱東京UFJ銀行の特別顧問であり、当社は、両社と取引関係があるが、いずれも両氏の独立性に影響を及ぼす特別の関係はない。

社外取締役には、その経験に裏付けされた高次の視点から、当社経営の監督を行うことを期待しており、その役割を担うに相応しい人格、識見及び業務・専門職経験を備えているかを総合的に検討して、十分にその能力があり、東京証券取引所の定めに基づく独立役員要件を満たすなど、一般株主と利益相反が生じるおそれもない、独立性のある者を選任している。

なお、社外取締役は、取締役会等を通じて、内部監査人、監査委員会、会計監査人及び内部統制部門の活動状況についての報告を受け、客観的な視点から、当社経営に対する有益な発言を行うなど、経営のチェック機能を高め、より透明性の高い経営監督体制の整備に尽力している。

## 役員報酬

### ア．役員区分ごとの報酬等の総額

区分	支給人員	報酬等の総額	報酬等の種類別の総額		
			基本報酬	業績連動報酬	退任慰労金
取締役	3名	191百万円	146百万円	-	45百万円
社外取締役	6名	65百万円	51百万円	-	14百万円
執行役	21名	1,328百万円	852百万円	204百万円	272百万円

(注)1. 取締役の支給人員には、社外取締役及び執行役を兼務する取締役は含まれていない。

2. 第141期に在任していた執行役2名に対し、当事業年度に支給した報酬等の総額と過年度の有価証券報告書において開示した報酬等の総額との差額3百万円が発生したが、上表には含まれていない。

### イ．報酬等の総額が1億円以上である役員の報酬等の総額

氏名	区分	報酬等の総額	報酬等の種類別の総額		
			基本報酬	業績連動報酬	退任慰労金
山西 健一郎	執行役	120百万円	72百万円	20百万円	28百万円

(注) 主要な連結子会社の役員としての報酬等は、該当しない。

### ウ．役員報酬等の決定に関する方針

当社は、社外取締役が過半数を占める報酬委員会において、以下の方針を決定している。

#### (ア) 取締役の報酬

取締役が受ける報酬については、一定金額報酬として定めることとし、その支給水準については、取締役の職務の内容及び当社の状況等を勘案し、相当と思われる額とする。退任時に退任慰労金を支給することとし、報酬月額及び在任年数等に基づき定めることとする。

#### (イ) 執行役の報酬

執行役が受ける報酬については、業績向上へのインセンティブを重視し、一定金額報酬と業績連動報酬とを支給する。一定金額報酬については、執行役の職務の内容及び当社の状況等を勘案し、相当と思われる額とする。業績連動報酬については、連結業績及び執行役の担当事業の業績を勘案して定めることとする。退任時に退任慰労金を支給することとし、報酬月額及び在任年数等に基づき定めることとする。また、当社の業績向上に対する意欲や士気をより一層高めることを目的として、ストックオプションを付与することがある。

株式の保有状況

ア．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

390銘柄 122,838百万円

イ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (千株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
スズキ(株)	4,105	8,116	主として自動車機器事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	18,366	7,566	同グループとは財務面などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
三菱重工業(株)	13,941	5,590	当社事業全般における取引先であり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
東海旅客鉄道(株)	7	5,255	主として交通事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
東日本旅客鉄道(株)	958	4,991	主として交通事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
三菱マテリアル(株)	15,321	4,014	主として資材調達などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
パイオニア(株)	7,530	3,185	主として自動車機器事業で業務提携関係にあり、関係維持・強化を目的として保有している。
三菱地所(株)	2,003	2,956	主として昇降機事業や不動産の賃貸借などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
関西電力(株)	1,957	2,509	主として電力事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
(株)ニコン	856	2,150	主として電子デバイス事業や資材調達などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
キリンホールディングス(株)	1,990	2,132	同グループとはFAシステム事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
菱洋エレクトロ(株)	2,246	2,118	主要販売特約店であり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
中国電器股?有限公司	37,016	2,072	主として家電事業などで販売面での協力関係にあり、関係維持・強化を目的として保有している。
信越化学工業(株)	406	1,944	主として資材調達などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
(株)三菱総合研究所	1,020	1,907	主として社会インフラ事業などで協業関係にあり、関係維持・強化を目的として保有している。
(株)島津製作所	2,500	1,867	主として電子デバイス事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
(株)帝国電機製作所	1,143	1,855	主として自動車機器事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
シチズンホールディングス(株)	3,523	1,846	同グループとはFAシステム事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
中国電力(株)	1,161	1,784	主として電力事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。

みなし保有株式

銘柄	株式数 (千株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
三菱商事(株)	17,768	34,114	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
小田急電鉄(株)	25,816	20,188	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
(株)三菱UFJフィナンシャル・ グループ	44,121	18,177	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
三菱重工業(株)	24,081	9,656	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
三菱地所(株)	6,390	9,431	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
東京海上ホールディングス(株)	3,219	7,311	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
(株)オービック	216	3,624	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
九州電力(株)	2,501	2,949	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
(株)ニコン	915	2,298	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
(株)NTTドコモ	16	2,232	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
大正製薬ホールディングス(株)	330	2,214	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
(株)八十二銀行	4,321	2,108	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
近畿日本鉄道(株)	6,469	2,037	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
東日本旅客鉄道(株)	360	1,875	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。

(注)貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していない。

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数 (千株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
スズキ(株)	4,105	8,666	主として自動車機器事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
東海旅客鉄道(株)	770	7,644	主として交通事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
三菱重工業(株)	13,941	7,458	当事業全般における取引先であり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
東日本旅客鉄道(株)	958	7,396	主として交通事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
三菱地所(株)	2,003	5,199	主として昇降機事業や不動産の賃貸借などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
三菱マテリアル(株)	14,936	4,002	主として資材調達などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
三菱倉庫(株)	1,466	2,559	主としてビル設備事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
信越化学工業(株)	406	2,541	主として資材調達などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
キリンホールディングス(株)	1,592	2,406	同グループとはFAシステム事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
(株)静岡銀行	2,033	2,155	主として財務面などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
(株)帝国電機製作所	1,143	2,103	主として自動車機器事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
中国電器股?有限公司	37,016	2,098	主として家電事業などで販売面での協力関係にあり、関係維持・強化を目的として保有している。
(株)三菱総合研究所	1,020	2,049	主として社会インフラ事業などで協業関係にあり、関係維持・強化を目的として保有している。
菱洋エレクトロ(株)	2,246	1,914	主要販売特約店であり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
(株)ニコン	856	1,909	主として電子デバイス事業や資材調達などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。
関西電力(株)	1,957	1,816	主として電力事業などで取引があり、取引関係維持・強化を目的として保有している。

みなし保有株式

銘柄	株式数 (千株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
三菱商事(株)	17,768	30,969	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
小田急電鉄(株)	25,816	30,230	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
(株)三菱UFJフィナンシャル・ グループ	44,121	24,619	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
三菱地所(株)	6,390	16,588	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
三菱重工業(株)	24,081	12,883	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
東京海上ホールディングス(株)	3,219	8,531	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
(株)オービック	216	4,689	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
近畿日本鉄道(株)	6,469	2,820	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
東日本旅客鉄道(株)	360	2,779	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
(株)八十二銀行	4,321	2,458	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
九州電力(株)	2,501	2,443	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
(株)NTTドコモ	16	2,309	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
大正製薬ホールディングス(株)	330	2,250	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
東海旅客鉄道(株)	219	2,172	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
(株)大和証券グループ本社	3,307	2,169	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
(株)ニコン	915	2,041	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
ITホールディングス(株)	1,598	1,987	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
西日本旅客鉄道(株)	430	1,941	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。
京セラ(株)	215	1,894	退職給付信託に拠出しており、当社が議決権行使の指 図権限を有している。

(注)貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していない。

会計監査の状況

当社は、会計監査人として、有限責任 あずさ監査法人を選任している。

当社の会計監査業務を執行した指定有限責任社員は、金子寛人公認会計士、大塚敏弘公認会計士及び永峯輝一公認会計士である。

会計監査業務の執行に係る補助者は、同監査法人に所属する公認会計士等により適切な人員で構成されている。

当社は、同監査法人に対し、適正な経営情報を提供するなど、公正不偏な立場から監査が実施される環境を整備している。

## 定款規定の内容

### ア．取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨を定款で規定している。

### イ．剰余金の配当等の決定機関

当社は、「会社法」第459条第1項各号に掲げる事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって定める旨を定款で規定している。

これは、当社が会社法施行前から委員会等設置会社であったことから、「会社法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」第57条の規定により、会社法施行日(平成18年5月1日)をもって、「会社法」第459条第1項第2号から第4号までに掲げる事項を取締役会が定めることができる旨及び当該事項を株主総会の決議によっては定めない旨の定めが定款にあるものとみなされたためである。

### ウ．株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、「会社法」第309条第2項に定める株主総会の決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で規定している。

## (2) 【監査報酬の内容等】

### 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)	監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)
提出会社	254	5	269	2
連結子会社	168	3	174	1
計	422	9	443	3

### 【その他重要な報酬の内容】

当社及び連結子会社では、当社の監査公認会計士等である有限責任 あずさ監査法人と同一のネットワーク(KPMG)に属している監査法人等に対する報酬は、前連結会計年度においては509百万円、当連結会計年度においては546百万円である。これは主として、監査証明業務に基づくものである。

### 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度及び当連結会計年度において当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容としては、経理業務におけるアドバイザー・サービス等がある。

### 【監査報酬の決定方針】

監査報酬については、監査の体制・手続・日程等の監査計画、及び監査時間当たりの報酬単価等の妥当性を検証し、監査委員会の同意を得て決定している。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。)(平成14年内閣府令第11号附則第3項(平成23年内閣府令第44号改正)適用)の規定により、米国で一般に認められた企業会計処理の原則及び手続並びに用語、様式及び作成方法に基づいて作成している。
- (2) 当社の財務諸表は「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成している。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の連結財務諸表及び第142期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の財務諸表について有限責任 あずさ監査法人により監査を受け監査報告書を受領している。

### 3 連結財務諸表の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを実施している。具体的には、公益財団法人財務会計基準機構に加入し、同財団・企業会計基準委員会が主催するセミナー等に参加するとともに、経済団体等が主催する部会への参画等を通じ、会計基準等の内容の適切な把握及び基準・法令等の改正への対応体制を整備している。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

区分	注記 番号	平成23年度 (平成24年3月31日)		平成24年度 (平成25年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
資産の部					
流動資産					
1 現金及び預金等		392,181		298,881	
2 有価証券	(注記3、 17及び18)	2,995		812	
3 受取手形及び売掛金	(注記4、6 及び15)	950,736		974,505	
4 棚卸資産	(注記5)	576,179		590,735	
5 前払費用及び その他の流動資産	(注記9、 14及び18)	275,293		279,327	
流動資産計		2,197,384	64.8	2,144,260	62.9
長期債権及び投資					
1 長期営業債権	(注記17)	1,017		2,521	
2 投資有価証券及び その他	(注記3、 14、17 及び18)	240,463		242,271	
3 関連会社に対する 投資及び貸付金 長期債権及び投資計	(注記6)	179,039		181,285	
	(注記7、 18、19 及 び20)	420,519	12.4	426,077	12.5
有形固定資産					
1 土地		102,298		105,449	
2 建物及び構築物		624,495		659,411	
3 機械装置及びその他 の有形固定資産		1,541,239		1,637,682	
4 建設仮勘定		41,365		50,813	
計		2,309,397		2,453,355	
5 減価償却累計額		1,752,552		1,850,355	
有形固定資産計		556,845	16.4	603,000	17.7
その他の資産	(注記9、10 及び18)	216,903	6.4	237,073	6.9
資産合計		3,391,651	100.0	3,410,410	100.0

区分	注記 番号	平成23年度 (平成24年3月31日)		平成24年度 (平成25年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
<b>負債の部</b>					
流動負債					
1 短期借入金	(注記7)	111,670		131,837	
2 1年以内に期限の 到来する社債及び 長期借入金	(注記7、 17及び20)	88,832		103,081	
3 支払手形及び買掛金	(注記6 及び8)	700,262		652,718	
4 未払費用	(注記16)	350,740		335,858	
5 未払法人税等	(注記9)	15,866		11,919	
6 その他の流動負債	(注記10、 14及び18)	166,131		190,346	
流動負債計		1,433,501	42.3	1,425,759	41.8
社債及び長期借入金	(注記7、 17及び20)	341,789	10.1	305,654	8.9
退職給付引当金	(注記10)	372,082	11.0	254,977	7.5
その他の固定負債	(注記9、14、 16 及び 18)	53,259	1.5	57,029	1.7
負債合計		2,200,631	64.9	2,043,419	59.9
<b>資本の部</b>					
株主資本					
1 資本金	(注記11)	175,820	5.2	175,820	5.2
授権株式数 8,000,000,000株					
発行済株式数					
平成23年度2,147,201,551株					
平成24年度2,147,201,551株					
2 資本剰余金	(注記11)	206,343	6.1	205,945	6.0
3 利益準備金		61,040	1.8	61,406	1.8
4 その他の剰余金		905,086	26.7	950,621	27.9
5 その他の包括利益 ( 損失)累計額	(注記3、 9、10、 12及び14)	215,603	6.4	93,487	2.8
6 自己株式		221	0.0	235	0.0
平成23年度285,390株					
平成24年度306,490株					
株主資本計		1,132,465	33.4	1,300,070	38.1
非支配持分		58,555	1.7	66,921	2.0
資本合計		1,191,020	35.1	1,366,991	40.1
負債及び資本合計		3,391,651	100.0	3,410,410	100.0

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

区分	注記 番号	平成23年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)		平成24年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	
		金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)
売上高	(注記6)	3,639,468	100.0	3,567,184	100.0
売上原価及び費用					
1 売上原価	(注記10 及び20)	2,628,964		2,604,360	
2 販売費及び 一般管理費	(注記10、 19及び20)	625,283		648,890	
3 研究開発費		155,995		157,522	
4 固定資産減損損失	(注記18 及 び19)	3,782		4,317	
		3,414,024	93.8	3,415,089	95.7
営業利益		225,444	6.2	152,095	4.3
営業外収益					
1 受取利息及び 受取配当金	(注記6)	8,332		7,742	
2 その他の収益	(注記3、 12、14 及び19)	22,196		25,361	
営業外費用		30,528	0.9	33,103	0.9
1 支払利息		6,818		6,507	
2 持分法による 投資損失	(注記6)	3,366		14,619	
3 その他の費用	(注記3、 12、14、 15、16 及び19)	21,708		98,931	
		31,892	0.9	120,057	3.4
税金等調整前 当期純利益		224,080	6.2	65,141	1.8
法人税等	(注記9)				
1 当期税額		42,187		23,490	
2 法人税等の期間 配分調整額		63,628		32,999	
		105,815	3.0	9,509	0.3
非支配持分控除前 当期純利益		118,265	3.2	74,650	2.1
非支配持分帰属損益		6,202	0.1	5,133	0.2
当社株主に帰属する 当期純利益		112,063	3.1	69,517	1.9
基本的1株当たり 当社株主に帰属する 当期純利益	(注記13)	52円 20銭		32円 38銭	
希薄化後1株当たり 当社株主に帰属する 当期純利益					

【連結包括利益計算書】

		平成23年度 (自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日)	平成24年度 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
非支配持分控除前当期純利益		118,265	74,650
その他の包括利益( 損失)	(注記12)		
- 税効果調整後			
1 為替換算調整額		8,843	66,592
2 年金負債調整額	(注記10)	2,234	47,633
3 有価証券未実現損益	(注記3)	6,298	14,845
4 デリバティブ未実現損益	(注記14)	54	43
合計		257	129,113
当期包括利益		118,008	203,763
非支配持分帰属			
当期包括利益		5,629	12,130
当社株主に帰属する			
当期包括利益		112,379	191,633

【連結資本勘定計算書】

	注記 番号	株主資本						株主資本 計	非支配 持分	資本 合計
		資本金 (百万円)	資本 剰余金 (百万円)	利益 準備金 (百万円)	その他の 剰余金 (百万円)	その他の 包括利益 (損失) 累計額 (百万円)	自己株式 (百万円)			
平成23年3月31日 現在残高		175,820	208,669	59,223	822,750	215,919	203	1,050,340	58,685	1,109,025
包括利益										
当社株主に帰属 する当期純利益					112,063			112,063		112,063
非支配持分帰属 損益									6,202	6,202
その他の包括 利益(損失) (税効果調整後) 為替換算 調整額	(注記12)					8,254		8,254	589	8,843
年金負債 調整額	(注記10)					2,234		2,234		2,234
有価証券 未実現損益	(注記3)					6,285		6,285	13	6,298
デリバティブ 未実現損益	(注記14)					51		51	3	54
当期包括利益								112,379	5,629	118,008
利益準備金積立額				1,817	1,817					
非支配持分との 資本取引及び その他			2,326					2,326	5,759	8,085
当社株主への配当					27,910			27,910		27,910
自己株式の取得							20	20		20
自己株式の処分							2	2		2
平成24年3月31日 現在残高		175,820	206,343	61,040	905,086	215,603	221	1,132,465	58,555	1,191,020
包括利益										
当社株主に帰属 する当期純利益					69,517			69,517		69,517
非支配持分帰属 損益									5,133	5,133
その他の包括 利益(損失) (税効果調整後) 為替換算 調整額	(注記12)					59,631		59,631	6,961	66,592
年金負債 調整額	(注記10)					47,633		47,633		47,633
有価証券 未実現損益	(注記3)					14,803		14,803	42	14,845
デリバティブ 未実現損益	(注記14)					49		49	6	43
当期包括利益								191,633	12,130	203,763
利益準備金積立額				366	366					
非支配持分との 資本取引及び その他			398					398	3,764	4,162
当社株主への配当					23,616			23,616		23,616
自己株式の取得							16	16		16
自己株式の処分							2	2		2
平成25年3月31日 現在残高		175,820	205,945	61,406	950,621	93,487	235	1,300,070	66,921	1,366,991

【連結キャッシュ・フロー計算書】

区分	平成23年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)		平成24年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	
	金額(百万円)		金額(百万円)	
営業活動によるキャッシュ・フロー				
1 非支配持分控除前当期純利益		118,265		74,650
2 営業活動により増加した 純キャッシュへの調整				
(1) 有形固定資産減価償却費	127,244		127,942	
(2) 有形固定資産の減損	3,367		4,014	
(3) 固定資産の売却損益	834		296	
(4) 法人税等の期間配分調整額	63,628		32,999	
(5) 有価証券等の売却損益	1,682		2,480	
(6) 有価証券等の評価損	6,961		4,828	
(7) 持分法による投資損益	3,366		14,619	
(8) 受取手形及び売掛金の減少(増加)	166,091		49	
(9) 棚卸資産の減少(増加)	55,737		16,706	
(10) その他資産の減少(増加)	17,553		21,241	
(11) 支払手形及び買掛金の増加(減少)	9,113		62,549	
(12) 未払費用及び退職給付引当金の増加(減少)	61,108		63,638	
(13) その他負債の増加(減少)	7,311		16,787	
(14) その他	51,884	43,085	6,458	8,102
営業活動により増加した純キャッシュ		75,180		82,752
投資活動によるキャッシュ・フロー				
1 有形固定資産の取得		159,346		150,425
2 固定資産売却収入		5,085		4,792
3 有価証券等の取得		11,766		13,036
4 有価証券等の売却収入		15,961		29,088
5 貸付金の減少(増加)		90		14,398
6 その他		6,198		9,722
投資活動に投入した純キャッシュ		156,174		153,701
財務活動によるキャッシュ・フロー				
1 社債及び長期借入金による調達額		138,283		57,003
2 社債及び長期借入金の返済額		139,775		90,786
3 短期借入金の増加		46,630		19,237
4 配当金の支払		27,910		23,616
5 自己株式の取得		20		16
6 自己株式の処分		2		2
7 その他		10,182		2,977
財務活動により増加(減少)した 純キャッシュ		7,028		41,153
為替変動によるキャッシュへの影響額		5,920		18,802
現金及び預金等純増加(減少)額		79,886		93,300
現金及び預金等期首残高		472,067		392,181
現金及び預金等期末残高		392,181		298,881

補足情報

年間支払額		
利息	6,413	6,425
法人税等	65,901	41,022

(平成23年度及び平成24年度連結財務諸表に対する注記)

摘要

1 会計処理の原則及び手続並びに連結財務諸表の表示方法

当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。)(平成14年内閣府令第11号附則第3項(平成23年内閣府令第44号改正)適用)の規定により、米国で一般に認められた企業会計処理の原則及び手続並びに用語、様式及び作成方法に基づいて作成している。

当連結会計年度より、米国財務会計基準審議会のAccounting Standards Update(以下「ASU」)2011-05「包括利益の表示」及びASU2011-12「ASU2011-05における、その他の包括利益累計額から振り替える項目の表示に関する改訂の適用日の延期」(会計基準編纂書220「包括利益」の改訂)を適用している。これに伴い、前連結会計年度についても遡及的に適用している。ASU2011-05は、その他の包括利益を連結資本勘定計算書上に表示することを認めている米国会計基準上の選択肢を廃止し、純損益及び包括利益の項目を単一の計算書に表示するか(1計算書方式)、分割された2つの連続する計算書に表示するか(2計算書方式)の選択肢を企業に与えており、当社は、2計算書方式を採用している。なお、ASU2011-05ではその他の包括利益累計額から当期純利益に振り替えた項目を当期純利益の内訳として区分掲記することも要求しているが、ASU2011-12により、ASU2011-05の当該規定の適用日が延期されたため区分掲記していない。ASU2011-05及びASU2011-12を適用することによる当社の連結上の財政状態及び経営成績に与える重要な影響はない。

当社は、昭和45年3月、欧州市場において米ドル建転換社債を発行するにあたり、投資銀行との預託契約に基づき、昭和44年度の連結会計年度以降、米国で一般に認められた企業会計処理の原則及び手続並びに用語、様式及び作成方法に基づく連結財務諸表(以下「米国式連結財務諸表」という。)を作成し、社債権者等へ開示していた。これらの事由等を基に、旧証券取引法の規定により提出する連結財務諸表を米国式連結財務諸表とすることを、旧連結財務諸表規則取扱要領第86に基づき大蔵大臣に申請し、昭和53年3月29日に承認を受けており、現在においても、連結会計年度について、米国式連結財務諸表を作成し、これらを開示している。なお、当社は、米国証券取引委員会に登録していない。

当社が採用する会計処理の原則及び手続並びに連結財務諸表の表示方法のうち、我が国における会計処理の原則及び手続並びに表示方法と異なる主なものは次のとおりであり、金額的に重要なものについては我が国の基準に基づいた場合の税金等調整前当期純利益に対する影響額を開示している。

(1) 連結損益計算書の表示

連結損益計算書上、営業利益は、売上高から売上原価、販売費及び一般管理費、研究開発費並びに固定資産減損損失を控除して算出しており、セグメント別営業利益の合計額と一致している。なお、事業再編費用等は営業外費用として表示している。

(2) 固定資産の圧縮記帳

固定資産の圧縮記帳額は、その固定資産の取得原価に振戻している。減価償却資産については、圧縮記帳額振戻後の取得価額に対応した減価償却費を計上している。本会計処理による税金等調整前当期純利益に対する影響額は前連結会計年度220百万円(利益)、当連結会計年度107百万円(損失)である。

(3) 従業員の退職給付及び年金

退職給付引当金は、予測給付債務と年金資産の公正価値との差額を計上しており、その一部は年金負債調整額として税効果控除後の額を資本の部から控除して表示している。

我が国の退職給付に係る会計基準の変更時差異の一部を一時償却するために、退職給付信託設定に伴い計上した退職給付引当金繰入額を振戻している。

(4) 棚卸資産に関連する前渡金及び前受金の表示

受注契約に基づく前受金は関連する棚卸資産から控除して表示し、また、棚卸資産に関連する前渡金は棚卸資産に組替表示している。

## 摘要

## 2 主要な会計方針の要約

以下、対象年度について特に断りのない限り、記載事項は前連結会計年度及び当連結会計年度において共通の事項である。

## (1) 連結の方針

当社の連結財務諸表は、親会社及び子会社(重要でない子会社を除く。)の勘定に基づき作成し、すべての重要な連結会社相互間項目及び未実現損益は消去している。関連会社に対する投資額は重要性のないものを除き持分法により計算された価額をもって計上している。

なお、変動持分事業体に関しては、事業体に対して議決権以外の手段で財務上の持分を保有しているか否か、また、保有している場合主たる受益者としてその事業体を連結すべきか否かを判定している。

## (2) 経営活動の概況

当社グループは、家庭電器から人工衛星まで広範囲にわたる電気機械器具の開発、製造、販売を世界中で行っている。当社グループの事業は(1)重電システム、(2)産業メカトロニクス、(3)情報通信システム、(4)電子デバイス、(5)家庭電器、(6)その他から構成されている。

当連結会計年度における各事業分野別の内部売上高消去前の構成比率は、重電システム26%、産業メカトロニクス23%、情報通信システム13%、電子デバイス4%、家庭電器20%、その他14%となっている。当社グループの事業活動は日本を中心に行われており、当連結会計年度の売上高の向先地域別の構成比率は、日本66%、北米7%、アジア17%、欧州8%、その他2%となっている。

当社グループの生産活動は、親会社(22生産拠点)を中心とする日本の生産拠点及び米国、英国、タイ、マレーシア、中国等にある海外の生産拠点にて行われている。

## (3) 見積りの使用

当社は、連結財務諸表を作成するために、種々の仮定と見積りを行っており、それらの仮定と見積りは資産、負債、収益、費用の計上金額並びに偶発資産及び債務の開示金額に影響を及ぼす。それらの仮定と見積りの影響を受ける重要項目には、債権、棚卸資産及び繰延税金資産に対する評価引当金、有形固定資産の帳簿価額、並びに従業員退職給付に係る資産、債務等が含まれる。実際の結果がそれらの見積りと異なることもあり得る。

## (4) 現金及び預金等

当社は、連結キャッシュ・フロー計算書の資金概念として、取得後3ヵ月以内に満期となる流動性の高い短期金融資産を現金同等物とし、現金及び預金等に含めている。

## (5) 有価証券及び投資有価証券

当社は、負債証券及び持分証券投資を売買目的有価証券、売却可能有価証券または満期まで保有する有価証券に分類している。

売買目的有価証券は主に近い将来に売却することを目的として取得し、保有するものである。満期まで保有する有価証券は、会社がその満期まで保有する意思と能力を有するものである。売却可能有価証券は、売買目的有価証券または満期まで保有する有価証券以外のすべての有価証券である。

売買目的有価証券及び売却可能有価証券は公正価値により評価している。満期まで保有する有価証券は、額面を超過またはそれに満たない部分を償却または加算した償却原価法により評価している。売買目的有価証券から生じる未実現損益は連結損益計算書に含めており、売却可能有価証券から生じる未実現損益は、実現するまでは連結損益計算書には含めず、関連税効果控除後の金額をその他の包括利益(損失)累計額の一項目に含めて表示している。

有価証券の売却に伴う実現損益は、売却時点の個別保有銘柄の移動平均原価により決定している。

一時的でない公正価値の下落を伴う売却可能有価証券は、公正価値で評価し、評価後の金額を新たな簿価として設定している。持分証券について、下落が一時的ではないか否かを判断するにあたっては、市場価格が回復するまでその有価証券を保有する能力及び意思があるかどうか、及び有価証券の市場価格が原価まで回復することを示唆する証拠が反対の証拠より強いかどうかを考慮している。この評価の証拠には減損の発生している理由、発生期間、期末日以降の価値の変動、及び被投資会社の今後の見通しが含まれる。負債証券については、その負債証券を売却する意思があるか、時価が償却原価まで回復するまでに売却することを要求される可能性が50%より高いかを考慮して一時的であるかどうかを判断している。

上記以外の有価証券は、取得価額により評価している。一時的でない価値の下落が発生している場合には、上記売却可能有価証券の減損に用いられる基準と同様の基準を用いて損失を認識している。

## (6) 貸倒引当金

当社は、貸倒引当金を貸倒実績率及び貸倒懸念債権等特定の債権の評価に基づいて計上している。

## 摘要

## (7) 棚卸資産

当社は、仕掛品のうち注文製品の取得原価については個別法に、仕込製品の取得原価については総平均法により計上しており、いずれも低価法に基づいて評価している。また、長期請負契約に基づく前受金は仕掛品から控除している。原材料及び製品の取得原価は原則として総平均法により計上し、低価法に基づいて評価している。重電システムについては、一般的な慣行に従って1年以上の長期の工事も棚卸資産に含めている。

## (8) 有形固定資産及び減価償却

当社は、有形固定資産を取得価額に基づいて計上しており、その減価償却は、一般的な資産区分、構造及び利用方法に従って見積られた耐用年数を用いて、主として定率法により償却しているが、一部の資産は定額法により償却している。

見積耐用年数は、建物及び構築物が最短3年、最長50年、また、機械装置及びその他の有形固定資産が最短2年、最長20年である。

## (9) リース

当社は、キャピタル・リース取引について、リース取引開始時に最低リース料支払予定額の割引現在価値とリース資産の公正価値のいずれか低い金額にて固定資産計上し、当社が所有する固定資産に対する減価償却と同様の方法により償却している。

## (10) 法人税等

当社は、資産及び負債の連結貸借対照表上の価額と各々の税務計算上の価額との差異、並びに繰越欠損金額及び繰越税額控除金額について繰延税金資産及び負債を認識している。この繰延税金資産及び負債は、これらの一時差異が解消すると予想される年度の課税所得に適用される税率により計算している。また、税率の変更による影響は当該改正制定年度の損益として認識している。評価引当金は、繰延税金資産の一部または全部が実現できないであろうと予想できる場合に計上し、繰延税金資産を正味実現可能価額まで減じている。

また、当社は、未認識税務ベネフィットの認識基準として認容される可能性が否認される可能性よりも高い場合に、その連結財務諸表への影響を認識している。

## (11) 製品保証

当社は、製造上やその他の不具合に対し、製品の種類や販売地域及びその他の要因ごとに定められた期間または一定の使用条件に応じて製品保証を行っている。主に過去の無償工事実績及び補修費用に関する現状に基づく見積額を製品保証引当金に計上している。

## (12) 退職給付制度

当社は、連結会計年度末において年金制度の積立状況(年金資産の公正価値と予測退職給付債務の差額)を連結貸借対照表で認識しており、対応する関連税効果控除後の調整金額をその他の包括利益(損失)累計額に計上している。その他の包括利益(損失)累計額への調整項目は、未認識過去勤務債務及び未認識年金数理計算差異であり、これらの金額は翌年度以降の退職給付費用として認識される。

## (13) 収益の認識

当社は、所有権の移転を含む取引を裏付ける説得力のある証拠が存在すること、引渡しが行われていること、売価が確定しているまたは確定しうること、かつ回収可能性が確からしいことのすべての要件を満たす場合に収益の認識を行っている。家庭電器・半導体等の大量生産製品は、顧客が製品を受入れた時点で、重電・産業用機器等の検収を必要とする製品は、顧客が製品を受入れ、当社が当該製品に関して所定の性能が達成されていることを実証し、顧客による最終的な動作確認のうち重要となり得ないものを残すのみとなった時点で収益計上している。保守契約による収益は、契約期間にわたり保守を実行し、その費用が発生した時点で計上している。また、特定の長期請負契約については、工事進行基準を適用している。進捗度は、当期までの発生費用を工事完了までの見積総費用と比較することにより測定している。販売価格の確定している契約において予想される損失は、その金額が合理的に見積られる場合、連結損益計算書に計上する。特定の契約条件等に応じ判明した偶発事象に対し、合理的に見積られる引当を計上している。

また、製品、機器、据付及び保守等の組み合わせによる取引契約につき、構成要素が別個の会計単位として取り扱われる場合には、収益を各会計単位の公正価値に基づいて配分している。

## 摘要

- (14) 研究開発費及び広告宣伝費  
当社は、研究開発費及び広告宣伝費を発生時に費用処理している。
- (15) 物流費用  
当社は、物流費用を主として販売費及び一般管理費に計上している。
- (16) 1株当たり当社株主に帰属する当期純利益  
当社は、基本的1株当たり当社株主に帰属する当期純利益を、当社株主に帰属する当期純利益を期中における発行済株式数の加重平均値で除して算出している。希薄化後1株当たり当社株主に帰属する当期純利益は、潜在的な利益の希薄化を加味したものであり、希薄化効果を有する証券が期首または期中発行の場合は発行時に株式へ転換され、かつ希薄化効果を有するストックオプションが権利行使され、当社の普通株式を自己株式として平均市場価格で購入するものと見做して算出している。
- (17) 外貨建債権債務及び在外連結子会社等の財務諸表項目の換算  
当社は、外貨建債権債務の円換算について期末日レートをを用いている。その結果生ずる換算差額は当期の損益に計上している。在外連結子会社等の財務諸表の円換算について、外貨表示財務諸表のすべての資産及び負債は、期末日レートを、また、すべての収益及び費用は、期中の平均レートをを用いている。その結果生ずる換算差額は「為替換算調整額」としてその他の包括利益(損失)累計額に計上している。
- (18) 金融派生商品  
当社は、すべての金融派生商品を資産または負債として連結貸借対照表に計上し、公正価値により評価している。公正価値ヘッジ目的の場合、ヘッジ対象及び金融派生商品の公正価値の変動額は当期の損益に計上し、キャッシュ・フローヘッジ目的の場合、金融派生商品のヘッジ有効部分の公正価値の変動額はヘッジ対象が損益に認識されるまで、その他の包括利益(損失)累計額に計上している。ヘッジの非有効部分については直ちに当期の損益に計上している。  
また、金融派生商品の利用方法及び目的、金融派生商品とヘッジ対象の会計処理並びに金融派生商品とヘッジ対象が財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに与える影響に関して開示をしている。
- (19) 証券化取引  
当社は、売掛債権を譲渡する証券化取引について、譲渡債権に対する支配が買主に移るか否かを判定し、金融資産の譲渡として認識された売掛債権は、連結貸借対照表から除外している。売掛債権の譲渡に関する損益は、譲渡部分に配分された帳簿価額により算定している。なお、売掛債権の一部を譲渡する場合当社が引き続き保有する参加持分は、譲渡日における譲渡部分と引き続き保有する部分の公正価値に基づいて配分された帳簿価額により計上している。公正価値に関しては、貸倒損失を除いた将来予想キャッシュ・フローの現在価値に基づいて算定している。
- (20) 長期性資産の減損  
当社は、有形固定資産及び償却対象となる無形資産などの保有及び使用中の長期性資産について、当該資産の帳簿価額が回収できないという事象や状況の変化が生じた場合において、減損に関する検討をしている。当社が保有し、かつ使用している資産の回収可能性は、その帳簿価額を資産から生じると予測される割引前見積将来キャッシュ・フローと比較することにより判定している。当該資産の帳簿価額が見積将来キャッシュ・フローを上回っていた場合には、帳簿価額が公正価値を超過する金額について減損を認識している。売却以外の方法による処分予定の長期性資産について、処分が実施されるまでの期間中、保有及び使用中の資産として分類している。売却予定として分類された長期性資産について、連結貸借対照表上において他の長期性資産とは区別して表示しており、帳簿価額と売却費用控除後の公正価値のいずれか低い金額で評価し、以後償却していない。また売却予定として分類された処分グループの資産及び負債は、連結貸借対照表上においてそれぞれの適切な科目で別個に表示している。

## 摘要

## (21) のれん及びその他の無形資産

当社は、企業買収時に取得法により会計処理しており、取得した識別可能な資産、引き継いだ負債、被買収企業の非支配持分及び取得したのれんを取得日における公正価値で認識、測定しており、企業結合の内容及び連結財務諸表に対する影響の評価を可能にする開示をしている。

のれんについては償却せず、かわりに少なくとも1年に一度の減損テストをしている。また耐用年数が確定できないその他の無形資産については、その耐用年数が確定するまでは償却をせず、減損テストをしている。一方、耐用年数が確定できるその他の無形資産については、その耐用年数で償却し、かつ減損テストをしている。

## (22) 撤退または処分活動に関して発生する費用

当社は、撤退または処分活動に関する費用について、財務会計概念書第6号(SFAC6)「財務諸表の構成要素」における負債の定義を満たした場合に限り、負債を認識している。また、撤退または処分活動に関して発生する負債の当初の測定に公正価値を用いている。

## (23) 保証

当社は、債務の保証または賠償責任契約を締結または変更した時点で、その公正価値により負債認識しており、当社が引き受けた保証について開示している。また、損失が発生する可能性が高いかどうかを識別するために、債務の保証または賠償責任の履行条件を継続して監視し、損失の見積りが可能な場合は損失を計上している。

## (24) 資産除去債務

当社は、特定のリース債務を除き、取得、建設や開発の結果として生じる、もしくは通常の経営活動から生じる長期性資産の除去に関連する法的債務を資産除去債務としている。資産除去債務を負った期間に公正価値の合理的な見積りが可能であれば、公正価値でその債務を認識している。関連する資産除去費用は長期性資産の帳簿価額の一部として資産化し、その後、その資産の耐用年数にわたり費用化している。資産除去債務の当初測定後、時間の経過及び債務に内在する見積将来キャッシュ・フローの変化を反映させるために、債務を各期間終了時点で修正している。

## (25) 組替再表示

当社は、当連結会計年度の表示に合わせ過年度の表示を一部組替再表示している。

## (26) 新会計基準

平成24年7月、米国財務会計基準審議会はASU2012-02「耐用年数を確定できない無形資産の減損テスト」(会計基準編纂書350「無形資産-のれん及びその他」の改訂)を公表した。ASU2012-02は、耐用年数を確定できない無形資産の定量的な減損テストの実施の要否を判断するために、企業がまず定性的要素を評価することを容認するものである。定性的評価の実施を選択した企業は、耐用年数を確定できない無形資産について、その資産の減損の可能性が50%超(more likely than not)であると判断しない限り、公正価値の算定は要求されない。当社は、平成25年4月1日よりASU2012-02を適用する必要がある。ASU2012-02を適用することによる当社の連結上の財政状態及び経営成績への重要な影響はない。

平成25年2月、米国財務会計基準審議会はASU2013-02「その他の包括利益累計額から振り替えた金額の表示」(会計基準編纂書220「包括利益」の改訂)を公表した。ASU2013-02は、ASU2011-12により適用が延期されていた、ASU2011-05におけるその他の包括利益累計額から当期純利益に振り替えた項目を当期純利益に区分掲記する修正に関する変更規定を再審議し、適用時期を定めている。ASU2013-02は、その他の包括利益累計額より振り替えた金額の当期純利益の各内訳項目への影響または他の開示項目とのクロス・レファレンスの開示を要求している。当社は、平成25年4月1日よりASU2013-02を適用する必要がある。ASU2013-02を適用することによる当社の連結上の財政状態及び経営成績に与える重要な影響はない。

平成25年3月、米国財務会計基準審議会はASU2013-05「在外事業体、在外事業体の資産グループまたは在外事業体への投資の認識中止に伴う、親会社の累積為替換算調整勘定の会計処理」(会計基準編纂書830「外貨関連事項」の改訂)を公表した。ASU2013-05は、親会社による在外事業体への投資の一部または全部の売却、もしくは在外事業体における非営利活動または事業である子会社または資産グループへの支配財務持分の喪失に伴う、累積為替換算調整勘定の会計処理を明確化している。ASU2013-05は、関連する累積為替換算調整勘定を当期損益に振り替えるにあたり会計基準編纂書830-30の適用を要求している。当社は、平成26年4月1日よりASU2013-05を適用する必要がある。ASU2013-05を適用することによる当社の連結上の財政状態及び経営成績に与える重要な影響はない。

平成25年4月、米国財務会計基準審議会はASU2013-07「清算ベース会計」(会計基準編纂書205「財務諸表の表示」の改訂)を公表した。ASU2013-07は、清算ベース会計の適用時期を明確化し、清算ベース会計適用時における資産・負債の測定及び財務諸表作成原則に関する指針を示している。ASU2013-07は、清算が間近である場合において、清算の過程で回収されると見込まれる金額によって資産を測定・表示することで清算価値についての適切な情報開示を要求している。当該金額の計算には、米国会計基準上それまで認識されてこなかったが清算の過程で売却または債務の返済に充当されることが見込まれる商標等も含まれる。当社は、平成26年4月1日よりASU2013-07を適用する必要がある。ASU2013-07を適用することによる当社の連結上の財政状態及び経営成績に与える重要な影響はない。

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)				平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)			
	取得 原価	総未実現 利益	総未実現 損失	公正 価値	取得 原価	総未実現 利益	総未実現 損失	公正 価値
<b>3 有価証券</b>								
有価証券、投資有価証券及びその他に含まれる市場性のある有価証券は、売却可能有価証券によって構成されている。売却可能有価証券に関する平成24年及び平成25年の各3月31日現在における持分証券及び負債証券の取得原価、総未実現利益及び損失、公正価値は次のとおりである。								
	平成24年3月31日(百万円)				平成25年3月31日(百万円)			
売却可能有価証券								
持分証券	95,412	28,533	4,891	119,054	77,663	44,736	1,512	120,887
負債証券	46,105	783	4,315	42,573	37,348	1,113	2,442	36,019
	<u>141,517</u>	<u>29,316</u>	<u>9,206</u>	<u>161,627</u>	<u>115,011</u>	<u>45,849</u>	<u>3,954</u>	<u>156,906</u>
負債証券は、国債及び社債等である。								
売却可能有価証券における関連税額及び非支配持分控除後の純未実現利益額は、当連結会計年度において14,803百万円増加している。								
平成24年及び平成25年の各3月31日現在における市場性のない株式の取得原価は、14,627百万円及び15,033百万円である。								
平成25年3月31日現在における売却可能有価証券の償還期限別情報は次のとおりである。								
					(単位：百万円)			
					取得原価	公正価値		
1年内償還					810	812		
1～5年内償還					1,346	2,050		
5年超償還					35,192	33,157		
市場性のある株式					77,663	120,887		
					<u>115,011</u>	<u>156,906</u>		
平成25年3月31日現在における売却可能有価証券の総未実現損失及び公正価値を、未実現損失が継続的に生じている期間別にまとめると次のとおりである。								
	平成25年3月31日(百万円)							
	12ヵ月未満		12ヵ月以上		合計			
	公正 価値	総未実現 損失	公正 価値	総未実現 損失	公正 価値	総未実現 損失		
売却可能有価証券								
持分証券	6,756	468	3,496	1,044	10,252	1,512		
負債証券	-	-	29,864	2,442	29,864	2,442		
	<u>6,756</u>	<u>468</u>	<u>33,360</u>	<u>3,486</u>	<u>40,116</u>	<u>3,954</u>		
未実現損失を含む投資の公正価値の下落については、市場価格が回復するまでその有価証券を保有する能力及び意思があるか否か等を考慮した結果、一時的であると判断しているため減損の認識は行っていない。								
前連結会計年度及び当連結会計年度における売却可能有価証券の売却額、実現利益及び実現損失は次のとおりである。								
	売却額		1,460		22,287			
	実現利益		486		2,527			
	実現損失		5		47			
前連結会計年度及び当連結会計年度において、市場性のある持分証券の一時的でない市場価格の下落に伴う減損をそれぞれ6,912百万円及び3,860百万円計上している。								

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
<b>4 受取手形及び売掛金</b> 受取手形及び売掛金の内訳は次のとおりである。		
受取手形	61,745	56,284
売掛金	897,332	926,511
貸倒引当金	8,341	8,290
合計	<u>950,736</u>	<u>974,505</u>
<b>5 棚卸資産</b> 棚卸資産の内訳は次のとおりである。		
仕掛品	277,017	271,574
前受金	24,220	13,166
差引	252,797	258,408
原材料	90,471	90,477
製品	232,911	241,850
合計	<u>576,179</u>	<u>590,735</u>
<b>6 関連会社に対する投資</b> 前連結会計年度及び当連結会計年度における持分法を適用している関連会社(ルネサス エレクトロニクス㈱、東芝三菱電機産業システム㈱等)の要約財務諸表は次のとおりである。		
流動資産	1,431,161	1,395,527
有形固定資産	403,553	343,725
その他の資産	204,841	192,039
資産合計	<u>2,039,555</u>	<u>1,931,291</u>
流動負債	1,213,890	948,324
固定負債	285,338	517,159
負債合計	<u>1,499,228</u>	<u>1,465,483</u>
資本合計	540,327	465,808
負債・資本合計	<u>2,039,555</u>	<u>1,931,291</u>
売上高	1,956,596	1,869,079
関連会社株主に帰属する 当期純利益(損失)	36,010	84,953
前連結会計年度及び当連結会計年度における持分法を適用している関連会社との債権債務残高及び取引高は次のとおりである。		
売掛金	76,720	74,470
買掛金	144,502	129,123
売上高	314,740	298,033
仕入高	184,766	166,633
受取配当金	6,945	10,174
持分法を適用している関連会社のうち上場会社 10社(前連結会計年度 10社)に関する情報は次のとおりである。		
株式の持分法による評価額	75,783	52,720
株式の時価	92,453	65,751
当社は、持分法を適用している関連会社向けの取得時点での投資価額がそれに対応する純資産持分を超過した額13,785百万円を、持分法投資に関するのれんとして投資価額に含めて連結貸借対照表に計上しており、前連結会計年度及び当連結会計年度の期末日現在において、減損が発生していないことを確認している。		

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
<p>7 短期借入金、社債及び長期借入金</p> <p>短期借入金の内訳は次のとおりである。</p> <p>前連結会計年度平均年利1.04%</p> <p>当連結会計年度平均年利0.71%</p> <p style="padding-left: 40px;">銀行等からの借入 コマーシャル・ペーパー 合計</p>	<p>111,450</p> <p style="border-top: 1px solid black;">220</p> <p style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">111,670</p>	<p>101,617</p> <p style="border-top: 1px solid black;">30,220</p> <p style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">131,837</p>
<p>平成25年3月31日現在、当社の未使用コミットメントラインは114,000百万円であり、契約している金融機関から短期資金を調達することができる。</p> <p>社債及び長期借入金の内訳は次のとおりである。</p> <p>銀行等からの借入金</p> <p>前連結会計年度年利0.40～4.70% 平成34年最終満期</p> <p>当連結会計年度年利0.35～3.00% 平成34年最終満期</p> <p style="padding-left: 40px;">担保付 無担保</p> <p>年率1.70%利付平成24年11月19日満期、無担保社債</p> <p>年率1.40%利付平成24年12月7日満期、無担保社債</p> <p>年率1.17%利付平成26年6月17日満期、無担保社債</p> <p>年率0.58%利付平成25年12月9日満期、無担保社債</p> <p>キャピタル・リース債務</p> <p>小計</p> <p>1年以内に期限の到来する額</p> <p>合計</p> <p>社債及び長期借入金の年度別返済予定額は次のとおりである。</p> <p style="padding-left: 40px;">1年以内 1年超2年以内 2年超3年以内 3年超4年以内 4年超5年以内 5年超 合計</p>	<p>935</p> <p>290,439</p> <p>10,000</p> <p>40,000</p> <p>30,000</p> <p>30,000</p> <p style="border-top: 1px solid black;">29,247</p> <p style="border-top: 1px solid black;">430,621</p> <p style="border-top: 1px solid black;">88,832</p> <p style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">341,789</p> <p>88,832</p> <p>102,192</p> <p>82,119</p> <p>55,787</p> <p>44,811</p> <p>56,880</p> <p style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">430,621</p>	<p>821</p> <p>319,527</p> <p>-</p> <p>-</p> <p>30,000</p> <p>30,000</p> <p style="border-top: 1px solid black;">28,387</p> <p style="border-top: 1px solid black;">408,735</p> <p style="border-top: 1px solid black;">103,081</p> <p style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">305,654</p> <p>103,081</p> <p>100,486</p> <p>88,425</p> <p>46,914</p> <p>20,898</p> <p>48,931</p> <p style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">408,735</p>
<p>大部分の銀行等からの借入には取引約定書があり、現在あるいは将来のすべての借入に関して借入先からの要求があれば直ちに担保または保証人を提供すること、並びにその約定書もしくはその他により提供された担保は当該借入先に対する一切の債務に充当されることが記載されている。</p> <p>一部の担保付借入契約は追加担保の要求を認め、また、無担保の借入契約も担保物件あるいは保証人を要求できる旨の規定がある。有形固定資産のうち1,184百万円(前連結会計年度1,170百万円)は、銀行等からの長期借入金の担保となっている。</p>		
<p>8 支払手形及び買掛金</p> <p>支払手形及び買掛金の内訳は次のとおりである。</p> <p style="padding-left: 40px;">支払手形 買掛金</p>	<p>19,653</p> <p style="border-top: 1px solid black;">680,609</p> <p style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">700,262</p>	<p>16,868</p> <p style="border-top: 1px solid black;">635,850</p> <p style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">652,718</p>

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
<b>9 法人税等</b>		
法人税等総額は以下の項目に配分されている。		
税金等調整前当期純利益	105,815	9,509
資本の部 - その他の包括利益(損失)累計額		
為替換算調整額	135	5,037
年金負債調整額	144	26,637
有価証券未実現損益	2,777	7,230
デリバティブ未実現損益	37	38
合計	<u>108,350</u>	<u>29,433</u>
法人税等の期間配分調整額の内訳は次のとおりである。		
繰延税金資産に係る評価引当金残高の増減	6,915	40,029
その他	70,543	7,030
合計	<u>63,628</u>	<u>32,999</u>
当社は所得に対して種々の税金を課せられており、前連結会計年度及び当連結会計年度における法定実効税率は約41%及び約38%である。		
前連結会計年度及び当連結会計年度における法定実効税率と税金等調整前当期純利益に対する実効税率との差異は次のとおりである。		
法定実効税率	41.0%	38.0%
評価引当金の増減額	3.6	60.1
未実現消去に係る税効果調整	0.4	21.4
税務上損金算入されない費用	1.0	2.8
海外税率差異	5.1	17.9
税額控除	3.3	0.3
持分法投資に係る税効果	2.6	10.4
税率の変更	14.3	7.6
その他	1.3	4.3
税金等調整前当期純利益に対する実効税率	<u>47.2%</u>	<u>14.6%</u>
当連結会計年度において、一部の関連会社が翌年度に持分法適用対象から除外される見込となったことに伴い、当社が保有する同社の有価証券に係る一時差異が解消可能となった影響を評価引当金の増減額に含めている。		

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
平成24年及び平成25年の各3月31日現在における税効果による繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生要因別内訳は次のとおりである。		
繰延税金資産		
退職給付引当金	93,206	77,846
未払費用	101,762	92,474
有形固定資産	33,172	34,815
棚卸資産	41,234	23,998
年金負債調整額	106,170	79,533
繰越欠損金	7,652	18,484
その他	122,909	140,342
繰延税金資産総額	506,105	467,492
評価引当金	108,705	68,676
繰延税金資産純額	397,400	398,816
繰延税金負債		
退職給付信託設定	30,404	30,404
有形固定資産	12,135	10,939
有価証券未実現利益	7,407	14,637
その他	33,236	33,162
繰延税金負債総額	83,182	89,142
差引純繰延税金資産	314,218	309,674
平成23年4月1日現在の繰延税金資産に対する評価引当金は115,620百万円であり、前連結会計年度において6,915百万円減少し、当連結会計年度において40,029百万円減少した。繰延税金資産の実現可能性の評価にあたり、繰延税金資産の一部または全部が実現する可能性が実現しない可能性より高いかどうかを考慮している。繰延税金資産の実現は、最終的には一時差異が減算可能な期間における将来課税所得によって決定される。その評価にあたり、予定される繰延税金負債の戻入、予測される将来課税所得及び税務戦略を考慮している。		
平成25年3月31日現在、将来の課税所得と相殺し得る当社及びいくつかの子会社の税務上の欠損金繰越額は、法人税32,895百万円、地方税100,105百万円であり、この繰越期限は主として平成33年度に到来する。		
繰延税金資産及び繰延税金負債の連結貸借対照表計上額は次のとおりである。		
前払費用及びその他の流動資産	146,077	126,884
その他の資産	172,204	186,929
その他の固定負債	4,063	4,139
合計	314,218	309,674
国内子会社及び一部の関連会社の未分配利益については、配当金として分配されても現状では課税対象とされないかまたは重要ではないため、その未分配利益に対する繰延税金負債は計上していない。海外子会社及び関連会社の未分配利益に対する繰延税金負債は計上している。		
平成24年及び平成25年の各3月31日現在において、重要性のある未認識税務ベネフィットはないが、今後の税務調査等の結果により、将来の実効税率に影響を与える可能性がある。		
追加納税等に関する利息及び課徴金については、連結損益計算書の法人税等を含めている。平成24年及び平成25年の各3月31日現在における、連結貸借対照表上の未払利息及び課徴金、並びに前連結会計年度及び当連結会計年度における連結損益計算書上の利息及び課徴金の金額に重要性はない。		
当社及び子会社は、日本及び様々な海外地域の税務当局に法人税の申告をしており、主要な租税管轄区における税務調査未了年度は次のとおりである。		
国または地域	税務調査未了年度	
日本	平成18～24年度	
アメリカ	平成22～24年度	
タイ	平成20～24年度	
欧州	平成20～24年度	

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
<b>10 従業員の退職給付及び年金</b>		
<p>当社は、従業員を対象とする、従業員非拠出制及び拠出制の確定給付建退職給付制度を採用している。従業員非拠出制の退職給付制度では、退職までに累積された退職金ポイントに基づき、勤続20年未満の従業員については退職時に一時金が支給され、勤続20年以上の従業員については退職後の年金受給権が付与される。更に一定要件を満たす場合は、退職時の年齢等に応じて付加金が支給される。従業員拠出制の退職給付制度では規定年齢以降、一時金または年金が支給される。従業員非拠出制の退職給付制度の一部及び従業員拠出制の退職給付制度の年金資産は、法令に基づき、経営者と従業員の代表で構成される企業年金基金により一体として運営されている。また、従業員非拠出制の退職給付制度の一部につき退職給付信託を設定している。</p> <p>当社は、平成16年度中に労使の合意を経て退職給付制度を改定し、平成17年4月1日より従業員非拠出制の退職給付制度の一部に確定拠出年金制度を導入した。また、従業員拠出制の退職給付制度を変更し、キャッシュバランスプランを導入した。このキャッシュバランスプランのもとでは、対象者の個人別仮想口座において毎年の掛金及び市場連動金利に基づいた給付額が計算され積み立てられる。</p> <p>国内連結子会社は、各社毎の退職給付制度に基づき、その一部または全部につき厚生年金基金制度または企業年金基金制度を設けている。</p> <p>なお、退職年金制度を採用している海外連結子会社では、主に確定拠出年金制度を採用している。</p> <p>当社は、連結会計年度末において年金資産の公正価値及び退職給付債務を測定し、年金制度の積立状況(年金資産の公正価値と予測退職給付債務の差額)を連結貸借対照表で認識しており、対応する関連税効果控除後の調整金額をその他の包括利益(損失)累計額に計上している。</p>		
<b>債務及び積立状況</b>		
予測給付債務及び年金資産の公正価値の期首及び期末残高の調整は次のとおりである。		
予測給付債務の変動		
予測給付債務期首残高	1,072,082	1,052,970
勤務費用	29,222	29,433
利息費用	21,838	21,562
従業員拠出額	1,108	1,077
給付制度の変更		957
数理計算上の損失	11,147	8,823
給付額	82,476	77,667
連結範囲の異動等	49	1,014
予測給付債務期末残高	1,052,970	1,038,169
年金資産の変動		
年金資産の公正価値期首残高	655,586	683,258
資産の実際収益	15,024	90,710
事業主拠出額	46,238	47,051
従業員拠出額	1,108	1,077
給付額	34,456	38,251
連結範囲の異動等	242	841
年金資産の公正価値期末残高	683,258	784,686
積立状況	369,712	253,483

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
平成24年及び平成25年の各3月31日現在の連結貸借対照表における認識額は次のとおりである。		
その他の資産	7,912	7,353
その他の流動負債	5,542	5,859
退職給付引当金	372,082	254,977
	<u>369,712</u>	<u>253,483</u>
平成24年及び平成25年の各3月31日現在のその他の包括利益(損失)累計額における認識額は次のとおりである。		
年金数理差異	395,639	300,091
過去勤務債務(資産)	100,219	77,514
	<u>295,420</u>	<u>222,577</u>
確定給付制度の累積給付債務は次のとおりである。		
累積給付債務	1,046,736	1,031,769
<u>退職給付費用及びその他の包括利益(損失)の内訳</u>		
前連結会計年度及び当連結会計年度における退職給付費用計上額の内訳は次のとおりである。		
勤務費用	30,330	30,510
予測給付債務の利息費用	21,838	21,562
年金資産の期待収益	12,834	13,556
過去勤務債務(資産)の償却	17,044	21,748
数理計算上の損失の償却	27,904	27,253
純退職給付費用	50,194	44,021
従業員拠出額	1,108	1,077
退職給付費用計上額	<u>49,086</u>	<u>42,944</u>
前連結会計年度及び当連結会計年度におけるその他の包括利益(損失)で認識された年金資産と予測給付債務のその他の変化は次のとおりである。		
年金数理差異の発生額	8,750	68,295
数理計算上の損失(利益)の償却	27,904	27,253
過去勤務債務の発生額		957
過去勤務債務の償却	17,044	21,748
	<u>2,110</u>	<u>72,843</u>
翌連結会計年度における年金数理差異及び過去勤務債務の見積償却額は次のとおりである。 (百万円)		
年金数理差異	15,886	
過去勤務債務(資産)	21,683	
<u>数理計算上の前提条件(加重平均値)</u>		
退職給付債務	割引率	2.0%
	昇給率	1.7%
退職給付費用	割引率	2.0%
	昇給率	1.7%
	長期期待収益率	2.5%
長期期待収益率は、投資対象となる資産カテゴリー別の過去の運用実績や将来収益に対する予測等を考慮して設定されている。		

## 摘要

## 年金資産

平成24年及び平成25年の各3月31日現在における年金資産の公正価値は次のとおりである。

平成24年3月31日(百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
持分証券				
市場性のある株式	137,940			137,940
合同運用信託		141,103		141,103
負債証券				
国債、公債及び社債	3,410	22,548		25,958
合同運用信託		248,523		248,523
その他資産				
生保一般勘定		83,287		83,287
その他		31,296	15,151	46,447
年金資産合計	141,350	526,757	15,151	683,258

(注) 1 市場性のある株式は、ほとんどを国内株式に投資している。

2 持分証券の合同運用信託は、約30%を国内株式、約70%を外国株式に投資している。

3 負債証券の合同運用信託は、約70%を国内債券、約30%を外国債券に投資している。

4 国債、公債及び社債のレベル1には、国債が含まれている。

平成25年3月31日(百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
持分証券				
市場性のある株式	172,899			172,899
合同運用信託		171,648		171,648
負債証券				
国債、公債及び社債	4,224	21,447		25,671
合同運用信託		276,469		276,469
その他資産				
生保一般勘定		88,260		88,260
その他		34,601	15,138	49,739
年金資産合計	177,123	592,425	15,138	784,686

(注) 1 市場性のある株式は、ほとんどを国内株式に投資している。

2 持分証券の合同運用信託は、約20%を国内株式、約80%を外国株式に投資している。

3 負債証券の合同運用信託は、約70%を国内債券、約30%を外国債券に投資している。

4 国債、公債及び社債のレベル1には、国債が含まれている。

投資政策は、受給権者に対する将来の年金給付に対応できる十分な年金資産を確保すべく策定されている。また、年金資産の長期期待収益率を考慮した上で、株式及び債券等の最適な組み合わせからなる政策資産構成を策定している。年金資産は、中長期に期待されるリターンを生み出すべく、政策資産構成に基づいて個別の株式及び債券等に投資されている。当社は、年金資産の長期期待運用収益と実際の運用収益との乖離を毎年検証している。更に、経営状況、制度の改定等を勘案し、年金資産の長期期待運用収益を達成するために、資産・負債の総合的管理の手法に基づき必要な範囲で政策資産構成を見直している。

当社の政策資産構成は、大きく3つの資産区分に分類される。約30%を持分証券、約65%を負債証券及び生命保険会社が扱う団体年金の一般勘定(以下「生保一般勘定」という。)、約5%をヘッジファンドで運用している。これら年金資産は、選定に当たり内容を精査した上、適切な分散投資を行っている。

公正価値の測定に使用されるインプットの3つのレベルの区分については、注記18に記載している。

公正価値の階層は、公正価値を測定する際の時価を分類したものである。レベル1に該当する資産は、主に株式や国債で、十分な取引量と頻繁な取引がある活発な市場における調整不要な市場価格で評価している。レベル2に該当する資産は、主に持分証券や負債証券に投資している合同運用信託、社債及び生保一般勘定である。合同運用信託は運用機関により計算された純資産価値で評価している。社債については、活発ではない市場における同一資産の市場価格で評価している。生保一般勘定は、生命保険会社により計算された元本額に約定利息を加算した価額で評価している。レベル3に該当する資産はヘッジファンドであり、観測不能なインプットにより公正価値を評価している。

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)														
前連結会計年度及び当連結会計年度におけるレベル3に分類された公正価値で評価される年金資産はヘッジファンドであり、変動額は以下のとおりである。																
期首残高 実際運用収益： 売却利益(損失) 保有利益(損失) 購入、売却及び決済 レベル間振替 期末残高	<table border="1"> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>15,151</td></tr> <tr><td>51</td><td>13</td></tr> <tr><td>14,000</td><td></td></tr> <tr><td>1,202</td><td></td></tr> <tr><td><u>15,151</u></td><td><u>15,138</u></td></tr> </table>				15,151	51	13	14,000		1,202		<u>15,151</u>	<u>15,138</u>			
	15,151															
51	13															
14,000																
1,202																
<u>15,151</u>	<u>15,138</u>															
<p><u>キャッシュ・フロー</u></p> <p>翌連結会計年度において、退職給付制度に対して47,882百万円の拠出を見込んでいる。 また、予想将来給付額は次のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>平成25年度</td><td>70,472</td></tr> <tr><td>平成26年度</td><td>67,677</td></tr> <tr><td>平成27年度</td><td>67,566</td></tr> <tr><td>平成28年度</td><td>61,158</td></tr> <tr><td>平成29年度</td><td>55,731</td></tr> <tr><td>平成30年度～平成34年度</td><td>262,099</td></tr> </tbody> </table> <p>前連結会計年度及び当連結会計年度における当社及びいくつかの子会社の確定拠出制度に関する費用認識額は、それぞれ6,938百万円及び7,447百万円である。</p>		(百万円)	平成25年度	70,472	平成26年度	67,677	平成27年度	67,566	平成28年度	61,158	平成29年度	55,731	平成30年度～平成34年度	262,099		
	(百万円)															
平成25年度	70,472															
平成26年度	67,677															
平成27年度	67,566															
平成28年度	61,158															
平成29年度	55,731															
平成30年度～平成34年度	262,099															
<p>11 普通株式</p> <p>会社が発行する株式に関する情報は次のとおりである。</p> 発行済株式数 期首株式数 期末株式数	<table border="1"> <tr><td>2,147,201,551株</td></tr> <tr><td><u>2,147,201,551株</u></td></tr> </table>	2,147,201,551株	<u>2,147,201,551株</u>	<table border="1"> <tr><td>2,147,201,551株</td></tr> <tr><td><u>2,147,201,551株</u></td></tr> </table>	2,147,201,551株	<u>2,147,201,551株</u>										
2,147,201,551株																
<u>2,147,201,551株</u>																
2,147,201,551株																
<u>2,147,201,551株</u>																

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
12 その他の包括利益		
その他の包括利益(損失)累計額の変動内訳は次のとおりである。		
為替換算調整額		
期首残高	59,400	67,654
当期調整額	8,254	59,631
期末残高	67,654	8,023
年金負債調整額		
期首残高	162,390	160,156
当期調整額	2,234	47,633
期末残高	160,156	112,523
有価証券未実現損益		
期首残高	5,957	12,242
当期調整額	6,285	14,803
期末残高	12,242	27,045
デリバティブ未実現損益		
期首残高	86	35
当期調整額	51	49
期末残高	35	14
その他の包括利益(損失)累計額		
期首残高	215,919	215,603
当期調整額	316	122,116
期末残高	215,603	93,487

その他の包括利益(損失)には税効果額が含まれており、その調整額は次のとおりである。

	前連結会計年度(百万円)			当連結会計年度(百万円)		
	税効果 調整前	税効果額	税効果 調整後	税効果 調整前	税効果額	税効果 調整後
為替換算調整額						
当期発生額	8,379	135	8,244	64,668	5,037	59,631
当期に実現した損益の 組替額	10	-	10	-	-	-
当期純変動額	8,389	135	8,254	64,668	5,037	59,631
年金負債調整額						
当期発生額	8,770	4,597	4,173	68,765	24,545	44,220
当期に実現した損益の 組替額	10,860	4,453	6,407	5,505	2,092	3,413
当期純変動額	2,090	144	2,234	74,270	26,637	47,633
有価証券未実現損益						
当期発生額	3,536	654	2,882	20,071	6,489	13,582
当期に実現した損益の 組替額	5,526	2,123	3,403	1,962	741	1,221
当期純変動額	9,062	2,777	6,285	22,033	7,230	14,803
デリバティブ未実現損益						
当期発生額	88	37	51	87	38	49
その他の包括利益(損失)	2,851	2,535	316	161,058	38,942	122,116

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
13 1株当たり当社株主に帰属する当期純利益		
基本的1株当たり当社株主に帰属する当期純利益の算出における、当社株主に帰属する当期純利益及び平均発行済普通株式数は次のとおりである。		
なお、希薄化後1株当たり当社株主に帰属する当期純利益は、潜在株式が存在しないため、記載していない。		
当社株主に帰属する当期純利益	112,063	69,517
平均発行済普通株式数	2,146,926,221株	2,146,906,220株
1株当たり当社株主に帰属する当期純利益		
基本的当社株主に帰属する当期純利益	52円20銭	32円38銭
希薄化後当社株主に帰属する当期純利益	-	-
14 金融派生商品及びヘッジ活動		
(1) 外国為替リスク及びヘッジ活動		
当社及び子会社は事業活動を遂行する上で、外国為替相場及び金利相場の変動による市場リスクに晒されている。当社及びいくつかの子会社は、これらのリスクを回避する目的で先物為替予約、通貨スワップ及び金利スワップを利用しており、短期的な売買差益を獲得する目的や投機目的のためにデリバティブ取引を利用することはない。		
(2) 契約金額、想定元本金額及び信用リスク		
先物為替予約、通貨スワップ及び金利スワップには、取引先の契約不履行に係るリスク(信用リスク)があるが、当社及び子会社は、取引先の信用格付けが高いため、信用リスクはほとんどないと判断している。その他のデリバティブは、子会社が保有している一定期間の保有を前提としたデリバティブが組み込まれている債券であり、当該債券は元本が保証されているため、リスクはほとんどないと判断している。		
(3) 公正価値ヘッジ		
いくつかの子会社は、通貨の変動に対応するために通貨スワップを実施し、当取引を公正価値ヘッジと位置づけている。		
(4) キャッシュ・フローヘッジ		
当社及びいくつかの子会社は、主に予定取引に関して外国為替相場の変動による市場リスクをヘッジするために先物為替予約を実施し、また、社債及び長期借入金の一部を変動金利から固定金利へ変更するために金利スワップを実施している。当社及びいくつかの子会社は、これらの取引をキャッシュ・フローヘッジと位置づけている。		
当社及びいくつかの子会社が利用する先物為替予約がキャッシュ・フローの変動をヘッジしている期間は、最長で38ヵ月間である。		
当社は、今後12ヵ月間に外貨建債権の回収及び外貨建債務の支払い並びに変動金利付債務の利払いに応じて、金融派生商品に係る利益純額15百万円がその他の包括利益(損失)累計額から損益へ振替えられると考えている。		
(5) ヘッジ指定されていないデリバティブ取引		
当社及びいくつかの子会社は、ヘッジ商品として指定されていない先物為替予約、通貨スワップの一部及び金利スワップの一部について、外国為替相場及び金利変動の相場による市場リスクをヘッジすることを目的として利用しており、これらの商品の未実現損益の変動を損益に計上している。		
平成24年及び平成25年の各3月31日現在における先物為替予約及び通貨スワップの契約金額、金利スワップ及びその他のデリバティブの想定元本金額は次のとおりである。		
先物為替予約		
外貨売予約	91,946	106,974
外貨買予約	47,207	66,586
通貨スワップ	23,651	17,196
金利スワップ	7,000	7,000
その他のデリバティブ	29,800	28,300

摘要

平成24年及び平成25年の各3月31日現在における先物為替予約、通貨スワップ、金利スワップ及びその他のデリバティブの見積公正価値の内訳は次のとおりである。

(単位：百万円)

ヘッジ指定された 金融派生商品	連結貸借対照表 計上科目	デリバティブ資産	
		見積公正価値	
		平成24年3月31日	平成25年3月31日
先物為替予約	前払費用及び その他の流動資産	72	118
デリバティブ負債			
ヘッジ指定された 金融派生商品	連結貸借対照表 計上科目	見積公正価値	
		平成24年3月31日	平成25年3月31日
		先物為替予約	その他の流動負債
金利スワップ	その他の固定負債	115	61
合計		131	84
デリバティブ資産			
ヘッジ指定されて いない金融派生商品	連結貸借対照表 計上科目	見積公正価値	
		平成24年3月31日	平成25年3月31日
		先物為替予約	前払費用及び その他の流動資産
通貨スワップ	前払費用及び その他の流動資産	21	211
金利スワップ	投資有価証券及び その他	108	84
合計		2,468	6,981
デリバティブ負債			
ヘッジ指定されて いない金融派生商品	連結貸借対照表 計上科目	見積公正価値	
		平成24年3月31日	平成25年3月31日
		先物為替予約	その他の流動負債
通貨スワップ	その他の流動負債	27	197
その他の デリバティブ	その他の固定負債	3,909	1,819
合計		7,618	6,092

摘要

前連結会計年度及び当連結会計年度におけるキャッシュ・フローヘッジに指定された先物為替予約及び金利スワップの連結損益計算書への影響は次のとおりである。

(単位：百万円)

キャッシュ・フローヘッジに指定された金融派生商品	前連結会計年度	
	その他の包括利益(損失)に計上された損益(ヘッジ有効部分) 計上金額	その他の包括利益(損失)累計額から損益への振替額(ヘッジ有効部分) 計上科目 計上金額
先物為替予約	68	その他の費用 16
金利スワップ	45	
合計	113	

キャッシュ・フローヘッジに指定された金融派生商品	当連結会計年度	
	その他の包括利益(損失)に計上された損益(ヘッジ有効部分) 計上金額	その他の包括利益(損失)累計額から損益への振替額(ヘッジ有効部分) 計上科目 計上金額
先物為替予約	85	その他の収益 47
金利スワップ	49	
合計	134	

前連結会計年度及び当連結会計年度におけるヘッジ指定されていない先物為替予約、通貨スワップ、金利スワップ及びその他のデリバティブの連結損益計算書への影響は次のとおりである。

(単位：百万円)

ヘッジ指定されていない金融派生商品	前連結会計年度	
	損益認識された損益の計上科目	計上金額
先物為替予約	その他の収益	3,130
通貨スワップ	その他の費用	945
金利スワップ	その他の費用	20
その他のデリバティブ	その他の費用	3,909
連結損益計算書への影響額		1,744

ヘッジ指定されていない金融派生商品	当連結会計年度	
	損益認識された損益の計上科目	計上金額
先物為替予約	その他の費用	8,302
通貨スワップ	その他の費用	88
金利スワップ	その他の費用	24
その他のデリバティブ	その他の収益	2,090
連結損益計算書への影響額		6,324

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)																	
<p>15 証券化取引</p> <p>当社は売掛債権を譲渡する証券化取引を行っている。 これらの取引において、当社は債権譲渡時点で一部の売掛金に関して劣後受益権を留保している場合、当社が有している当該残存部分を連結貸借対照表において譲渡時の公正価値で計上し、回収不能見込額を反映するように会計処理している。平成25年3月31日現在において劣後受益権を留保している取引はない。証券化に関連する損失は、前連結会計年度及び当連結会計年度において、それぞれ450百万円及び492百万円であった。 なお、当社は債権譲渡後、債権の回収及び管理責任を有しているが、回収サービスコストは回収手数料と近似しているためサービス業務資産及び負債を計上していない。 前連結会計年度及び当連結会計年度において発生した証券化取引に関する特別目的会社及び銀行とのキャッシュ・フローの要約は次のとおりである。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: left;">新規証券化による収入</td> <td style="text-align: right;">383,396</td> <td style="text-align: right;">404,156</td> </tr> </table> <p>平成24年及び平成25年の各3月31日現在における証券化した売掛債権とともに管理される他の売掛債権は次のとおりである。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: left;">売掛債権</td> <td style="text-align: right;">1,039,731</td> <td style="text-align: right;">1,085,905</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">控除 - 証券化した売掛債権</td> <td style="text-align: right;">88,995</td> <td style="text-align: right;">111,400</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">連結貸借対照表の残高</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">950,736</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">974,505</td> </tr> </table> <p>なお、平成24年及び平成25年の各3月31日現在において、証券化した売掛債権を含む売掛債権に関わる延滞額及び貸倒額は重要ではない。</p>			新規証券化による収入	383,396	404,156	売掛債権	1,039,731	1,085,905	控除 - 証券化した売掛債権	88,995	111,400	連結貸借対照表の残高	950,736	974,505					
新規証券化による収入	383,396	404,156																	
売掛債権	1,039,731	1,085,905																	
控除 - 証券化した売掛債権	88,995	111,400																	
連結貸借対照表の残高	950,736	974,505																	
<p>16 契約債務及び偶発債務</p> <p>(1) 保証債務に関する割引前の最高支払額</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: left;">銀行借入等に関する保証</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">    従業員</td> <td style="text-align: right;">6,841</td> <td style="text-align: right;">5,357</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">    関係会社等</td> <td style="text-align: right;">1,348</td> <td style="text-align: right;">2,400</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">    その他</td> <td style="text-align: right;">6,368</td> <td style="text-align: right;">6,540</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">14,557</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">14,297</td> </tr> </table> <p>なお、従業員に係る保証債務は、主に住宅ローンに関するものであり、保証期間は1年から18年である。また、関係会社等に係る保証債務は、信用力を補完するものであり、保証期間は1年から3年である。</p> <p>(2) 固定資産の購入に関する約定債務の額</p>			銀行借入等に関する保証			従業員	6,841	5,357	関係会社等	1,348	2,400	その他	6,368	6,540	合計	14,557	14,297	15,986	21,263
銀行借入等に関する保証																			
従業員	6,841	5,357																	
関係会社等	1,348	2,400																	
その他	6,368	6,540																	
合計	14,557	14,297																	
(3) 割引手形	810	539																	
(4) 製品保証引当金																			
期首残高	49,392	41,107																	
当期増加額	35,690	39,935																	
当期減少額	43,613	35,049																	
為替換算調整額	362	927																	
期末残高	41,107	46,920																	

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)																												
<p>当社は、平成23年7月より、自動車用部品の国内での販売に関する独占禁止法違反容疑について公正取引委員会から調査を受けていたが、平成24年11月、公正取引委員会より同違反に係る排除措置命令及び課徴金納付命令を受け、当連結会計年度において、当該課徴金額を競争法等関連費用として「営業外費用 - その他の費用」に1,410百万円計上した。なお、上記の課徴金については、当連結会計年度末までに納付が完了しており、排除措置命令に基づき講じた措置についても報告を終えている。</p> <p>また、当社グループは、平成23年7月より、米国及び欧州における自動車用部品の販売について、米国司法省及び欧州委員会から競争法関連の調査・質問を受け対応している。</p> <p>これらの競争法事案について、平成25年3月31日現在において、米国DRAM及び欧州DRAM、欧州ガス絶縁開閉装置並びに米国自動車用部品に関して今後発生する可能性のある損失の見積額を競争法等関連費用引当金として26,952百万円計上しており、その他に関しては、法的手続きの結果が当社連結上の財政状態及び経営成績に及ぼす影響は、現段階で不明である。</p>																														
<p>17 金融商品の公正価値</p> <p>金融商品の公正価値の見積りについては、以下の方法により算定している。</p> <p>(1) 現金及び預金等、受取手形及び売掛金、短期借入金、支払手形及び買掛金、及びその他の流動負債は、短期間で決済されるため、それぞれの連結貸借対照表計上額は公正価値に近似している。</p> <p>(2) 有価証券並びに投資有価証券及びその他の大部分は、市場価格に基づいて算定している。市場性のない有価証券については、適正な費用の範囲内で合理的な見積りを行うことはできない。</p> <p>(3) 長期営業債権は、インカムアプローチに基づき市場金利を使用して算定した現在価値によっているため、レベル2に区分している。</p> <p>(4) 社債は、マーケットアプローチに基づき公表価格を使用して公正価値を算定しているため、レベル2に区分しており、長期借入金は、インカムアプローチに基づき市場金利を使用して算定した現在価値によっているため、レベル2に区分している。リース関連の金融商品については、連結貸借対照表計上額が公正価値に近似しているため除いている。</p> <p>(5) 金融派生商品は、主にヘッジ目的の先物為替予約、通貨スワップ及び金利スワップであるが、公正価値については、外国為替銀行の相場に基づいて算定している(見積公正価値については、注記14を参照)。</p> <p>平成24年及び平成25年の各3月31日現在における金融商品の見積公正価値は次のとおりである。</p>																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">非金融派生商品(負債)</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市場性のある有価証券等</td> <td>計上額</td> <td style="text-align: right;">166,824</td> <td style="text-align: right;">161,905</td> </tr> <tr> <td></td> <td>見積公正価値</td> <td style="text-align: right;">166,824</td> <td style="text-align: right;">161,905</td> </tr> <tr> <td>長期営業債権</td> <td>計上額</td> <td style="text-align: right;">1,017</td> <td style="text-align: right;">2,521</td> </tr> <tr> <td></td> <td>見積公正価値</td> <td style="text-align: right;">1,056</td> <td style="text-align: right;">2,555</td> </tr> <tr> <td>社債及び長期借入金</td> <td>計上額</td> <td style="text-align: right;">401,374</td> <td style="text-align: right;">380,348</td> </tr> <tr> <td>(1年以内に期限の到来する額を含む)</td> <td>見積公正価値</td> <td style="text-align: right;">403,718</td> <td style="text-align: right;">381,579</td> </tr> </tbody> </table>			非金融派生商品(負債)				市場性のある有価証券等	計上額	166,824	161,905		見積公正価値	166,824	161,905	長期営業債権	計上額	1,017	2,521		見積公正価値	1,056	2,555	社債及び長期借入金	計上額	401,374	380,348	(1年以内に期限の到来する額を含む)	見積公正価値	403,718	381,579
非金融派生商品(負債)																														
市場性のある有価証券等	計上額	166,824	161,905																											
	見積公正価値	166,824	161,905																											
長期営業債権	計上額	1,017	2,521																											
	見積公正価値	1,056	2,555																											
社債及び長期借入金	計上額	401,374	380,348																											
(1年以内に期限の到来する額を含む)	見積公正価値	403,718	381,579																											
<p>なお、公正価値の見積りについては、特定時点で利用可能な市場情報及び当該金融商品に関する情報に基づき算定している。これらの見積りは、その性質上主観的なものであり、不確実性や重要な判断を伴う事項を含むため、正確には算定できない。これらの前提が変動することにより見積りに重要な影響を及ぼす可能性がある。</p>																														

摘要

18 公正価値の測定

当社は、公正価値を「市場参加者の間での通常の取引において、資産を売却するために受け取るであろう価格または負債を移転するために支払うであろう価格」と定義している。その上で公正価値測定のために使われるインプットを以下の3つに分類し、優先順位をつけている。

- レベル1：同一の資産又は負債の活発な市場における公表価格(調整不要)のインプット
- レベル2：直接的又は間接的に観察可能な、レベル1に含まれる公表価格以外のインプット
- レベル3：観察不能なインプット

継続的に公正価値で測定される資産及び負債

当社が継続的に公正価値で測定している資産及び負債の平成24年及び平成25年の各3月31日現在における内訳は次のとおりである。なお、これらの資産及び負債については、それぞれ準拠している米国財務会計基準審議会の会計基準編纂書の要求に基づき公正価値を測定している。

		(単位：百万円)			
		平成24年3月31日			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産					
持分証券					
市場性のある株式	119,054				119,054
負債証券					
国債、公債及び社債等			44,288		44,288
投資信託			3,482		3,482
金融派生商品			2,540		2,540
負債					
金融派生商品			7,749		7,749
		平成25年3月31日			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産					
持分証券					
市場性のある株式	120,887				120,887
負債証券					
国債、公債及び社債等			38,824		38,824
投資信託			2,194		2,194
金融派生商品			7,099		7,099
負債					
金融派生商品			6,176		6,176

レベル1の持分証券は市場性のある株式であり、十分な取引量と頻繁な取引がある活発な市場における調整不要な市場価格で評価している。負債証券は国債、公債及び社債等、及び投資信託であり、レベル1は十分な取引量と頻繁な取引がある活発な市場における調整不要な市場価格で評価し、レベル2はマーケット・アプローチに基づき、活発でない市場における同一資産の市場価格により評価している。レベル2の金融派生商品は、主に先物為替予約によるものであり、マーケット・アプローチに基づき取引相手方または第三者から入手した相場価格を使用して評価している。

非継続的に公正価値で測定される資産及び負債

前連結会計年度末において、米国財務会計基準審議会の会計基準編纂書360「有形固定資産」の要求に基づき、一部の長期性資産を公正価値の6,423百万円まで減損している。この結果、前連結会計年度における長期性資産の減損は3,782百万円であり、固定資産減損損失に含めている。これらの資産は、インカム・アプローチ及びマーケット・アプローチに基づき見積将来キャッシュ・フローや正味売却価額等の観察不能なインプットを使用して公正価値を測定したため、レベル3に分類している。

当連結会計年度末において、米国財務会計基準審議会の会計基準編纂書360「有形固定資産」の要求に基づき、一部の長期性資産を公正価値の4,226百万円まで減損している。この結果、当連結会計年度における長期性資産の減損は4,317百万円であり、固定資産減損損失に含めている。これらの資産は、インカム・アプローチ及びマーケット・アプローチに基づき見積将来キャッシュ・フローや正味売却価額等の観察不能なインプットを使用して公正価値を測定したため、レベル3に分類している。

長期性資産の評価プロセスに関しては、「注記2.主要な会計方針の要約 (20)長期性資産の減損」に記載している。

摘要	平成23年度 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	平成24年度 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
19 損益に関するその他の情報		
広告宣伝費	18,372	18,029
物流費用	73,283	71,613
為替差益(損失)	2,000	8,034
過大請求事案返納金		75,717
減損損失	3,782	4,317

広告宣伝費は「売上原価及び費用 - 販売費及び一般管理費」に計上している。  
物流費用は「売上原価及び費用 - 販売費及び一般管理費」に計上しているものを表示している。  
為替差益(損失)は「営業外収益 - その他の収益」及び「営業外費用 - その他の費用」に計上している。  
過大請求事案返納金は「営業外費用 - その他の費用」に計上している。平成24年1月以降、当社が電子システム事業において、防衛省、内閣衛星情報センター、独立行政法人 宇宙航空研究開発機構及び独立行政法人 情報通信研究機構との契約で、また、関係会社4社が防衛省との契約で、契約をまたいで工数の付け替えを行い、費用を実際よりも多く計上し請求している案件や不適切な作業実績を計上し請求している案件があることが判明したことから、各機関より、指名停止や競争参加資格停止の措置を受けた。各機関との確認を進めた結果、当連結会計年度において、本件に係る過大請求額及び関連する違約金・延滞利息の総額75,717百万円を過大請求事案返納金として計上した。なお、上記の返納金については、当連結会計年度末までに全ての機関への納付が完了しており、それぞれの納付完了日において、当社及び関係会社4社への指名停止措置又は競争参加資格停止措置が解除されている。

減損損失は「売上原価及び費用 - 固定資産減損損失」に計上している。当連結会計年度の内訳は、建物・機械装置等の有形固定資産の減損4,014百万円、無形固定資産の減損303百万円である。収益性の低下が見込まれる電子デバイス事業用資産の減損2,404百万円、家庭電器事業用資産の減損1,212百万円等を計上した。減損損失の測定は、主として将来キャッシュ・フローを現在価値に割り引いた公正価値に基づいている。前連結会計年度の内訳は、建物・機械装置等の有形固定資産の減損3,367百万円、無形固定資産の減損415百万円である。収益性の低下が見込まれる電子デバイス事業用資産の減損2,429百万円、家庭電器事業用資産の減損1,110百万円等を計上した。減損損失の測定は、主として売却費用控除後の公正価値に基づいている。

## 20 リース

当社及びいくつかの子会社と持分法適用関連会社である三菱電機クレジット㈱の間にはキャピタル・リース取引及びオペレーティング・リース取引があり、キャピタル・リース取引に関しては、リース資産の計上を行っている。当社及びいくつかの子会社は、主に機械装置及び器具備品等の借手となっている。平成25年3月31日現在におけるキャピタル・リースに該当するリース資産の取得価額及び減価償却累計額は45,152百万円及び22,736百万円である。平成25年3月31日現在のキャピタル・リース及び解約不能オペレーティング・リースの最低リース料支払予定額は次のとおりである。

	(単位：百万円)	
	キャピタル・リース	オペレーティング・リース
1年以内	10,595	4,452
1年超2年以内	8,474	3,404
2年超3年以内	5,626	2,231
3年超4年以内	2,913	1,309
4年超5年以内	897	799
5年超	64	644
最低リース料支払予定額合計	28,569	12,839
控除 - 維持管理費用相当額	87	
純最低リース料支払予定額	28,482	
控除 - 利息相当額	95	
純最低リース料支払予定額の現在価値	28,387	
控除 - 1年以内返済分	10,476	
長期キャピタル・リース債務	17,911	

前連結会計年度及び当連結会計年度におけるオペレーティング・リースに関する賃借料は42,076百万円及び42,587百万円である。それらは、事務所、倉庫、従業員用施設及びコンピュータ機器に関するものであり、慣習上更新されるものである。

摘要

21 セグメント情報

以下に報告しているセグメント情報は、そのセグメントの財務情報が入手可能なもので、マネジメントが経営資源の配分の決定及び業績の評価に定期的に使用しているものである。

開示にあたっては、製品の種類・性質、製造方法、販売市場等の類似性に基づき、重電システム、産業メカトロニクス、情報通信システム、電子デバイス、家庭電器及びその他の事業の6区分としている。

各事業の主要な製品及びサービスは次のとおりである。

重電システム	タービン発電機、水車発電機、原子力機器、電動機、変圧器、パワーエレクトロニクス機器、遮断器、ガス絶縁開閉装置、開閉制御装置、監視制御・保護システム、大型映像表示装置、車両用電機品、エレベーター、エスカレーター、ビルセキュリティシステム、ビル管理システム、粒子線治療装置、その他
産業メカトロニクス	プログラブルコントローラー、インバーター、サーボ、表示器、電動機、ホイス、電磁開閉器、ノーヒューズ遮断器、漏電遮断器、配電用変圧器、電力量計、無停電電源装置、産業用送風機、数値制御装置、放電加工機、レーザー加工機、産業用ロボット、クラッチ、自動車用電機品、カーエレクトロニクス・カーメカトロニクス機器、カーマルチメディア機器、その他
情報通信システム	無線通信機器、有線通信機器、監視カメラシステム、衛星通信装置、人工衛星、レーダー装置、アンテナ、誘導飛しょう体、射撃管制装置、放送機器、データ伝送装置、ネットワークセキュリティシステム、情報システム関連機器及びシステムインテグレーション、その他
電子デバイス	パワーモジュール、高周波素子、光素子、液晶表示装置、マイコン、システムLSI、その他
家庭電器	液晶テレビ、プロジェクションテレビ、ディスプレイモニター、プロジェクター、ブルーレイディスクレコーダー、ルームエアコン、パッケージエアコン、ヒートポンプ式給湯暖房システム、冷蔵庫、扇風機、換気扇、太陽光発電システム、電気温水器、LEDランプ、蛍光灯、照明器具、圧縮機、冷凍機、除湿機、空気清浄機、ショーケース、クリーナー、ジャー炊飯器、電子レンジ、IHクッキングヒーター、その他
その他	資材調達・物流・不動産・広告宣伝・金融等のサービス、その他

セグメント間取引は、マネジメントが独立企業間価格であると考えている価格に基づいている。報告セグメントの営業損益の算出方法は、連結損益計算書における営業損益の算出方法と一致している。

摘要

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度及び当連結会計年度における事業の種類別セグメント情報は以下のとおりである。

(単位：百万円)

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

	重電 システム	産業 メカトロ ニクス	情報通信 システム	電子 デバイス	家庭電器	その他	計	消去 又は全社	連結
売上高及び営業損益									
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	1,018,949	967,779	489,824	170,412	821,270	171,234	3,639,468		3,639,468
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,166	10,601	26,530	30,387	28,004	440,385	544,073	544,073	
計	1,027,115	978,380	516,354	200,799	849,274	611,619	4,183,541	544,073	3,639,468
営業費用	942,195	877,188	495,042	197,214	826,916	591,271	3,929,826	515,802	3,414,024
営業利益	84,920	101,192	21,312	3,585	22,358	20,348	253,715	28,271	225,444
資産、減価償却費、 減損損失及び資本的支出									
資産	1,064,369	855,710	477,646	147,926	636,835	191,056	3,373,542	18,109	3,391,651
減価償却費	24,365	43,380	29,036	11,207	26,678	5,480	140,146		140,146
減損損失			-	2,429	1,110	243	3,782		3,782
資本的支出	30,269	56,487	22,116	21,424	35,160	5,620	171,076		171,076

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

	重電 システム	産業 メカトロ ニクス	情報通信 システム	電子 デバイス	家庭電器	その他	計	消去 又は全社	連結
売上高及び営業損益									
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	1,049,982	918,123	491,792	142,961	799,817	164,509	3,567,184		3,567,184
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,195	9,734	30,630	21,104	21,481	425,857	517,001	517,001	
計	1,058,177	927,857	522,422	164,065	821,298	590,366	4,084,185	517,001	3,567,184
営業費用	973,037	867,265	520,831	169,645	801,998	571,576	3,904,352	489,263	3,415,089
営業利益(損失)	85,140	60,592	1,591	5,580	19,300	18,790	179,833	27,738	152,095
資産、減価償却費、 減損損失及び資本的支出									
資産	1,134,443	863,477	486,183	132,793	668,313	213,989	3,499,198	88,788	3,410,410
減価償却費	26,274	46,477	24,769	11,573	25,821	6,393	141,307		141,307
減損損失	143		-	2,404	1,212	558	4,317		4,317
資本的支出	39,449	55,824	19,706	13,732	27,869	6,913	163,493		163,493

(注) 1 前連結会計年度及び当連結会計年度における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能の研究開発費用は、28,271百万円及び27,738百万円である。

2 前連結会計年度及び当連結会計年度における資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は211,012百万円及び126,212百万円であり、その主なものは、当社の現預金等である。

摘要

【地域別セグメント情報】

前連結会計年度及び当連結会計年度における顧客の所在地別に分類した売上高、当社及び連結子会社の所在地別に区分した長期性資産は以下のとおりである。

(単位：百万円)

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

	日本		海外			計	連結合計
		北米	アジア	欧州	その他		
外部顧客に対する売上高	2,419,275	239,566	590,890	304,233	85,504	1,220,193	3,639,468
連結売上高に占める割合	66.5%	6.6%	16.2%	8.4%	2.3%	33.5%	100.0%
長期性資産	505,529	12,550	66,488	13,127	2,235	94,400	599,929

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

	日本		海外			計	連結合計
		北米	アジア	欧州	その他		
外部顧客に対する売上高	2,335,713	262,706	604,335	280,126	84,304	1,231,471	3,567,184
連結売上高に占める割合	65.5%	7.4%	16.9%	7.8%	2.4%	34.5%	100.0%
長期性資産	516,568	27,663	90,798	14,160	2,692	135,313	651,881

(注) 各区分に属する主な国または地域は下記のとおりである。

- (1) 北米.....米国、カナダ
- (2) アジア.....中国、韓国、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア
- (3) 欧州.....イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、スペイン、イタリア

摘要

当社は、米国財務会計基準審議会の会計基準編纂書280「セグメント報告」で要求される開示に加えて、以下の情報を補足情報として開示している。

【所在地別セグメント情報】

(単位：百万円)

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

	日本	北米	アジア	欧州	その他	計	消去 又は 全社	連結
売上高及び営業損益								
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	2,675,473	206,359	416,574	300,891	40,171	3,639,468		3,639,468
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	511,246	16,184	166,314	9,106	13	702,863	702,863	
計	3,186,719	222,543	582,888	309,997	40,184	4,342,331	702,863	3,639,468
営業費用	3,007,267	219,204	548,668	303,678	36,279	4,115,096	701,072	3,414,024
営業利益	179,452	3,339	34,220	6,319	3,905	227,235	1,791	225,444
資産	2,594,841	177,694	448,911	169,676	28,783	3,419,905	28,254	3,391,651

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

	日本	北米	アジア	欧州	その他	計	消去 又は 全社	連結
売上高及び営業損益								
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	2,561,242	233,548	450,791	281,400	40,203	3,567,184		3,567,184
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	502,772	14,557	173,933	8,533	52	699,847	699,847	
計	3,064,014	248,105	624,724	289,933	40,255	4,267,031	699,847	3,567,184
営業費用	2,947,091	249,849	588,552	285,406	38,046	4,108,944	693,855	3,415,089
営業利益(損失)	116,923	1,744	36,172	4,527	2,209	158,087	5,992	152,095
資産	2,594,608	210,356	559,138	184,872	34,043	3,583,017	172,607	3,410,410

(注) 1 地域の区分は地理的な近接度、経済活動の類似性、事業活動の相互関連性等を考慮し5区分としている。

2 各区分に属する主な国または地域は下記のとおりである。

(1) 北米.....米国、カナダ

(2) アジア.....中国、韓国、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア

(3) 欧州.....イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、スペイン、イタリア

3 前連結会計年度及び当連結会計年度における資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は211,012百万円及び126,212百万円であり、その主なものは、当社の現預金等である。

22 後発事象

当有価証券報告書の提出日である平成25年6月27日現在、当社の連結上の財政状態及び経営成績に重要な影響を与える後発事象は発生していない。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

注記7に記載

【借入金等明細表】

注記7に記載

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における総資産の100分の1以下であるため、記載を省略

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)		第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高	(百万円)	782,745	1,696,018	2,506,874	3,567,184
税金等調整前 四半期(当期)純利益	(百万円)	48,093	72,793	25,741	65,141
当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	30,449	43,619	49,138	69,517
基本的1株当たり 当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(円)	14.18	20.32	22.89	32.38

(会計期間)		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
基本的1株当たり 当社株主に帰属する 四半期純利益	(円)	14.18	6.13	2.57	9.49

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	第141期 (平成24年3月31日)	第142期 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7 196,014	7 116,215
受取手形	1 808	1 909
売掛金	1 667,384	1 653,444
製品	2 60,418	2 54,343
原材料	2 34,481	2 31,110
仕掛品	2 156,508	2 138,303
前渡金	51,408	55,326
前払費用	8,666	9,369
繰延税金資産	66,056	61,618
未収入金	1, 7 80,967	1, 7 86,298
短期貸付金	1 46,671	1 45,518
その他	15,801	14,064
貸倒引当金	240	153
流動資産合計	1,384,946	1,266,369
固定資産		
有形固定資産		
建物	347,834	365,158
減価償却累計額	3 224,060	3 232,205
建物（純額）	123,773	132,953
構築物	33,134	35,151
減価償却累計額	3 25,827	3 26,702
構築物（純額）	7,307	8,448
機械及び装置	645,147	665,256
減価償却累計額	3 569,486	3 590,361
機械及び装置（純額）	75,661	74,894
車両運搬具	2,648	2,722
減価償却累計額	3 2,247	3 2,350
車両運搬具（純額）	401	371
工具、器具及び備品	484,850	503,486
減価償却累計額	3 460,240	3 480,731
工具、器具及び備品（純額）	24,610	22,755
土地	40,692	39,845
リース資産	15,947	18,553
減価償却累計額	5,662	7,836
リース資産（純額）	10,285	10,717
建設仮勘定	25,094	24,903
有形固定資産合計	307,825	314,888

	第141期 (平成24年3月31日)	第142期 (平成25年3月31日)
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	13,366	14,646
その他	179	166
無形固定資産合計	13,545	14,812
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	121,956	122,838
関係会社株式	322,099	305,377
出資金	31	31
長期貸付金	2	2
従業員に対する長期貸付金	227	221
関係会社長期貸付金	21,715	44,240
長期前払費用	2,231	3,832
繰延税金資産	71,479	119,005
長期未収入債権等	10,699	18,158
前払年金費用	34,310	37,562
その他	12,779	20,264
貸倒引当金	8,493	12,003
投資その他の資産合計	589,037	659,531
固定資産合計	910,408	989,232
資産合計	2,295,355	2,255,602
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	1, 7 433,775	1, 7 384,774
短期借入金	4 61,816	4 101,196
関係会社短期借入金	4 154,349	4 190,912
コマーシャル・ペーパー	-	30,000
1年内償還予定の社債	50,000	30,000
リース債務	3,922	4,620
未払金	1, 7 116,959	1, 7 121,780
未払費用	88,174	80,595
未払法人税等	2,902	244
前受金	103,755	90,579
預り金	7 4,854	7 8,266
製品保証引当金	29,424	35,697
受注工事損失引当金	2 39,546	2 22,789
その他	3,580	3,646
流動負債合計	1,093,060	1,105,105

	第141期 (平成24年3月31日)	第142期 (平成25年3月31日)
<b>固定負債</b>		
社債	60,000	30,000
長期借入金	260,500	255,000
関係会社長期借入金	100,650	80,950
リース債務	8,419	8,218
退職給付引当金	99,451	86,444
海外投資等損失引当金	755	6,211
役員退職慰労引当金	1,201	1,268
競争法等関連費用引当金	21,375	26,952
資産除去債務	429	430
その他	5,915	6,175
固定負債合計	558,698	501,650
<b>負債合計</b>	<b>1,651,759</b>	<b>1,606,756</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	175,820	175,820
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	181,140	181,140
その他資本剰余金	179	179
資本剰余金合計	181,320	181,319
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	43,955	43,955
<b>その他利益剰余金</b>		
特別償却準備金	2,763	2,243
圧縮記帳積立金	6,106	6,106
別途積立金	80,000	80,000
繰越利益剰余金	143,119	138,609
利益剰余金合計	275,944	270,913
自己株式	221	235
株主資本合計	632,864	627,818
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	10,701	20,954
繰延ヘッジ損益	30	72
評価・換算差額等合計	10,732	21,027
<b>純資産合計</b>	<b>643,596</b>	<b>648,845</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>2,295,355</b>	<b>2,255,602</b>

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	第141期 (自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日)	第142期 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)
売上高	1 2,344,563	1 2,236,063
売上原価		
製品期首たな卸高	60,865	60,418
当期製品製造原価	1,851,676	1,789,584
合計	1,912,542	1,850,003
製品期末たな卸高	60,418	54,343
売上原価合計	1, 2, 3, 5 1,852,123	1, 2, 3, 5 1,795,659
売上総利益	492,440	440,403
販売費及び一般管理費	4, 5 405,182	4, 5 417,289
営業利益	87,257	23,114
営業外収益		
受取利息	1,036	1,171
受取配当金	1 45,005	1 53,111
その他	16,672	20,891
営業外収益合計	62,714	75,174
営業外費用		
支払利息	5,198	5,908
社債利息	1,535	1,017
売上割引	296	300
有価証券評価損	1,066	4,143
貸倒引当金繰入額	-	3,078
海外投資等損失引当金繰入額	-	5,455
競争法等関連費用	108	7,067
その他	14,247	10,759
営業外費用合計	22,452	37,731
経常利益	127,519	60,558
特別利益		
固定資産売却益	6 3,398	6 1,996
特別利益合計	3,398	1,996
特別損失		
過大請求事案返納金	-	7 64,948
関係会社投資等損失	8 37,617	8 34,485
減損損失	9 3,386	9 1,835
特別損失合計	41,004	101,270
税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )	89,913	38,715
法人税、住民税及び事業税	87	8,543
法人税等調整額	34,164	48,758
法人税等合計	34,076	57,301
当期純利益	55,837	18,585

【製造原価明細書】

区分	第141期 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)		第142期 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
当期材料費	1,160,968	61.7	1,070,346	60.4
当期労務費	281,521	15.0	277,909	15.7
当期経費	437,998	23.3	423,124	23.9
当期総製造費用	1,880,488	100.0	1,771,379	100.0
期首仕掛品たな卸高	127,696		156,508	
合計	2,008,184		1,927,887	
期末仕掛品たな卸高	156,508		138,303	
当期製品製造原価	1,851,676		1,789,584	

(注) 1 当期経費の内、外注加工費は、第141期126,281百万円、第142期122,304百万円、減価償却費は、第141期88,604百万円、第142期87,096百万円である。

2 原価計算の方法

当社の原価計算の方法は製品の種類が多岐にわたるため、統一的な計算法の実施が困難であるので、製作所の実状に応じた計算法、大別すると注文品生産工場にあっては、当該品の原価を直接計算する個別原価計算法、貯蔵品生産工場にあっては、主として工程別又は組別総合原価計算法によっている。

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	第141期 (自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日)	第142期 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	175,820	175,820
当期末残高	175,820	175,820
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	181,140	181,140
当期末残高	181,140	181,140
<b>その他資本剰余金</b>		
当期首残高	179	179
<b>当期変動額</b>		
自己株式の処分	0	0
<b>当期変動額合計</b>	0	0
当期末残高	179	179
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	43,955	43,955
当期末残高	43,955	43,955
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>特別償却準備金</b>		
当期首残高	517	2,763
<b>当期変動額</b>		
特別償却準備金の積立	2,404	-
特別償却準備金の取崩	159	519
<b>当期変動額合計</b>	2,245	519
当期末残高	2,763	2,243
<b>圧縮記帳積立金</b>		
当期首残高	4,160	6,106
<b>当期変動額</b>		
圧縮記帳積立金の積立	1,946	-
<b>当期変動額合計</b>	1,946	-
当期末残高	6,106	6,106
<b>別途積立金</b>		
当期首残高	60,000	80,000
<b>当期変動額</b>		
別途積立金の積立	20,000	-
<b>当期変動額合計</b>	20,000	-
当期末残高	80,000	80,000

	第141期 (自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日)	第142期 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	139,383	143,119
当期変動額		
特別償却準備金の積立	2,404	-
特別償却準備金の取崩	159	519
圧縮記帳積立金の積立	1,946	-
別途積立金の積立	20,000	-
剰余金の配当	27,910	23,616
当期純利益	55,837	18,585
当期変動額合計	3,736	4,510
当期末残高	143,119	138,609
<b>自己株式</b>		
当期首残高	203	221
当期変動額		
自己株式の取得	19	16
自己株式の処分	2	2
当期変動額合計	17	14
当期末残高	221	235
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	604,954	632,864
当期変動額		
剰余金の配当	27,910	23,616
当期純利益	55,837	18,585
自己株式の取得	19	16
自己株式の処分	2	1
当期変動額合計	27,910	5,045
当期末残高	632,864	627,818
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	10,080	10,701
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	621	10,252
当期変動額合計	621	10,252
当期末残高	10,701	20,954
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
当期首残高	8	30
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	39	42
当期変動額合計	39	42
当期末残高	30	72

【注記事項】

(重要な会計方針)

摘要	
1	<p>有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>子会社株式及び関連会社株式.....移動平均法による原価法</p> <p>その他有価証券</p> <p>時価のあるもの.....決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)</p> <p>時価のないもの.....移動平均法による原価法</p>
2	<p>デリバティブ等の評価基準及び評価方法</p> <p>デリバティブ.....時価法</p>
3	<p>たな卸資産の評価基準及び評価方法</p> <p>製品・原材料.....総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)</p> <p>仕掛品.....個別生産によるものは個別法による原価法、その他は総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)</p>
4	<p>固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く)</p> <p>定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法)を採用している。 (会計方針の変更)</p> <p>法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更している。この変更による影響額は、軽微である。</p> <p>(2) 無形固定資産(リース資産を除く)</p> <p>自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用している。 市場販売目的のソフトウェアについては、原則として3年間の見込販売数量に基づく償却方法を採用している。 その他の無形固定資産については、定額法を採用している。</p> <p>(3) リース資産</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。</p>
5	<p>引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金</p> <p>受取手形・売掛金等債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。</p> <p>(2) 製品保証引当金</p> <p>製品のアフターサービスによる費用支出に備えるため、過去の実績を基準として発生見込額を計上している。</p> <p>(3) 受注工事損失引当金</p> <p>当事業年度において見込まれる未引渡工事の損失に備えるため、当該見込額を引当計上している。</p> <p>(4) 退職給付引当金</p> <p>社員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。 なお、過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間による按分額を費用処理している。 数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間による按分額を翌期より費用処理することとしている。</p> <p>(5) 海外投資等損失引当金</p> <p>海外投資等に係る損失の発生に備えるため、投資先の財政状態等を斟酌して今後発生する可能性のある損失見込額を引当計上している。</p> <p>(6) 役員退職慰労引当金</p> <p>取締役及び執行役への退任慰労金支出に備えるため、内規を基礎として算定された当事業年度末の見積額を引当計上している。</p> <p>(7) 競争法等関連費用引当金</p> <p>競争法等関連費用として、今後発生する可能性のある損失見積額を引当計上している。</p>

摘要

6 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

- (1) 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
.....工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)
- (2) その他の工事  
.....工事完成基準

7 ヘッジ会計の方法

- (1) ヘッジ会計の方法  
外貨建債権・債務を対象とした為替予約取引については、振当処理及び繰延ヘッジ会計を適用している。また、金融資産・負債を対象とした金利スワップについては、金利スワップの特例処理を適用している。
- (2) ヘッジ手段と対象  
外貨建債権・債務に係る将来の為替変動リスクを回避する目的で、外貨建債権・債務を対象とする為替予約取引、また、金融資産・負債に係る将来の金利変動によるリスクを軽減する目的で、長期借入金や社債を対象とする金利スワップ取引を利用している。
- (3) ヘッジ方針  
デリバティブ取引は、通常の業務活動を遂行する上で晒される、将来の金利変動又は為替変動に伴うリスク(市場価格変動リスク)を軽減することを目的として利用しており、短期的な売買差益を獲得する目的や投機目的の為に利用することはない。なお、デリバティブ取引の相手先は、信用度の高い金融機関に分散させており、いわゆる信用リスクはほとんどないものと判断している。
- (4) ヘッジ有効性評価の方法  
当社には、デリバティブ取引に関する管理方針、権限規定、利用範囲、取引先、選定基準及び報告体制等を定めた取引管理規定があり、これらの規定に従ってデリバティブ取引を行っている。取引については、経理財務担当執行役の基本方針に基づき、財務部長が決裁の上実施している。また、財務部長は実施した取引の内容・取引残高等について、月次で経理財務担当執行役及び経理部に報告している。なお、上述の報告内容の結果、デリバティブ取引の市場価格変動リスクが経営に与える重大な影響はないものと判断している。

8 その他財務諸表作成のための重要な事項

- (1) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税抜方式による。
- (2) 連結納税制度の適用  
連結納税制度を適用している。

(表示方法の変更)

摘要

1 前事業年度において、独立掲記していた「営業外費用」の「為替差損」及び「違約金・延滞償金」は、営業外費用の総額の10/100以下となったため、当事業年度より「その他」に含めて表示している。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組み替えをおこなっている。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」の「為替差損」に表示していた3,019百万円及び「違約金・延滞償金」に表示していた5,028百万円は、「その他」として組み替えている。

2 前事業年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「有価証券評価損」及び「競争法等関連費用」は、営業外費用の総額の10/100を超えたため、当事業年度より独立掲記することとした。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組み替えをおこなっている。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた7,374百万円は、「有価証券評価損」1,066百万円、「競争法等関連費用」108百万円、「その他」6,199百万円、として組み替えている。

(貸借対照表関係)

摘要	第141期 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	第142期 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
1 関係会社に対する資産・負債(関係会社に対するもので区分掲記したものを除く)		
受取手形	28	17
売掛金	239,933	254,515
未収入金	43,275	47,231
短期貸付金	31,665	35,514
買掛金	207,260	191,005
未払金	55,708	63,016
2 たな卸資産と受注工事損失引当金の相殺額	13,923	14,614
3 減価償却累計額 減損損失累計額を含んでいる。		
4 このうち長期借入金で1年内返済予定のもの	33,700	112,680
5 偶発債務		
(1) 保証債務		
残高及び主なものは次のとおりであり、いずれも金融機関の借入金等に対する保証債務である。		
(主な保証先)		
リコース条項付き売掛債権譲渡残高	46,139	37,899
社員(住宅金融融資)	5,962	4,678
その他 4件	1,210	1,846
保証債務額 計	53,313	44,424
第142期のリコース条項付き売掛債権譲渡残高は、主に三菱電機ヨーロッパ社向け等海外子会社向け債権である。		
(2) その他		
当社グループは、DRAM販売に関する競争法違反の可能性に関連し、一部の製品購入者と和解を進めている。		
当社は、平成19年1月、ガス絶縁開閉装置の欧州での販売に関するEU競争法違反容疑について欧州委員会からの決定通知を受領した。当社は、この決定内容に当社の事実認識と異なる点があることから欧州一般裁判所へ提訴したが、平成23年7月、欧州一般裁判所より、事実認識については欧州委員会の決定を支持する一方、当社への課徴金について企業間の算定基準の違いを理由に無効とする旨の判決を受領した。当社は、平成23年9月、この判決内容に当社の事実認識と異なる点があることから欧州司法裁判所へ上訴し、現在、訴訟は係属中である。また、当社は、平成24年6月、欧州委員会から課徴金の算定方法を見直した決定通知を受領し、平成24年9月、課徴金算定方法の見直し(減額)を求めて、欧州一般裁判所へ提訴した。		
当社は、平成23年7月より、自動車用部品の国内での販売に関する独占禁止法違反容疑について公正取引委員会から調査を受けていたが、平成24年11月、公正取引委員会より同違反に係る排除措置命令及び課徴金納付命令を受け、当事業年度において、当該課徴金額を競争法等関連費用として1,410百万円計上した。なお、上記の課徴金については、当事業年度末までに納付が完了しており、排除措置命令に基づき講じた措置についても報告を終えている。		
また、当社グループは、平成23年7月より、米国及び欧州における自動車用部品の販売について、米国司法省及び欧州委員会から競争法関連の調査・質問を受け対応している。		
これらの競争法事案について、当事業年度末において、米国DRAM及び欧州DRAM、欧州ガス絶縁開閉装置並びに米国自動車用部品に関して今後発生する可能性のある損失の見積額を競争法等関連費用引当金として26,952百万円計上しており、その他に関しては、法的手続きの結果が当社の財政状態及び経営成績に及ぼす影響は、現段階で不明である。		

摘要	第141期 (平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	第142期 (平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
6 コミットメントライン契約 国内コミットメントライン 当社は運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行13行と当座貸越契約及び貸出コミットメントライン契約を締結している。事業年度末日における当座貸越契約及び貸出コミットメントライン契約に係る借入未実行残高等は次のとおりである。		
当座貸越極度額及び貸出コミットメントライン契約の総額	114,000	114,000
借入実行残高	-	-
差引額	114,000	114,000
7 期末日が金融機関の休日による取扱い 期末日が金融機関の休日にあたるが、次の同日付決済方法が手形支払いに準ずるものは、同日に決済されたものとして処理している。		
未収入金等	7,837	7,416
買掛金等	77,975	63,983

## (損益計算書関係)

摘要	第141期 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	第142期 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
1 関係会社との取引高		
売上高	1,158,606	1,107,808
仕入高	991,200	950,961
受取配当金	42,226	50,626
2 たな卸資産評価損		
期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損(戻入額)が売上原価に含まれている。	5,954	4,455
3 売上原価に含まれている受注工事損失引当金繰入額(戻入額)	420	16,757
4 販売費及び一般管理費のうち主要な費目		
(1) 販売直接費		
販売手数料	12,832	12,255
荷造費・運賃	28,133	28,590
(2) 販売間接費及び一般管理費		
販売対策費	9,733	8,841
広告宣伝費	7,433	7,344
給与手当・賞与	49,253	49,065
福利厚生費	13,333	13,639
旅費交通費・通信費	9,681	9,898
運賃・保管料・賃借料	14,695	14,711
減価償却費	2,458	2,999
退職給付引当金繰入額	11,717	11,521
製品保証引当金繰入額	29,424	35,697
貸倒引当金繰入額	105	426
研究開発費	141,784	143,600
(3) 販売費に属する費用	約54%	約55%
一般管理費に属する費用	約46%	約45%
5 研究開発費の総額		
一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費	155,476	158,300
6 固定資産売却益		
固定資産売却益は、土地売却益である。		
7 過大請求事案返納金		
平成24年1月以降、当社が電子システム事業において、防衛省、内閣衛星情報センター、独立行政法人 宇宙航空研究開発機構及び独立行政法人 情報通信研究機構との契約で、契約をまたいで工数の付け替えを行い、費用を実際よりも多く計上し請求している案件や不適切な作業実績を計上し請求している案件があることが判明したことから、各機関より、指名停止や競争参加資格停止の措置を受けた。		
各機関との確認を進めた結果、当事業年度において、本件に係る過大請求額及び関連する違約金・延滞利息の総額64,948百万円を過大請求事案返納金として計上した。		
なお、上記の返納金については、当事業年度末までに全ての機関への納付が完了しており、それぞれの納付完了日において、当社への指名停止措置又は競争参加資格停止措置が解除されている。		
8 関係会社投資等損失		
関係会社投資等損失は、国内関係会社投資の評価減である。		

摘要	第141期 (自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	第142期 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日) (金額単位：百万円)																														
<p>9 減損損失</p> <p>減損損失は、収益性の低下が見込まれる家庭電器事業用資産及び売却が決定した社宅用地を回収可能価額まで減額したことによるものである。</p> <p>—</p> <p><u>減損損失を認識した資産の概要</u></p> <p style="text-align: center;">第141期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">資産グループ(場所)</th> <th style="text-align: center;">資産の用途</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高周波光デバイス製作所(兵庫県伊丹市)</td> <td>電子デバイス事業用資産</td> </tr> <tr> <td>京都製作所(京都府長岡京市)</td> <td>家庭電器事業用資産</td> </tr> </tbody> </table> <p>—</p> <p style="text-align: center;">第142期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">資産グループ(場所)</th> <th style="text-align: center;">資産の用途</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都製作所(京都府長岡京市)</td> <td>家庭電器事業用資産</td> </tr> <tr> <td>売却予定の土地(埼玉県北本市)</td> <td>社宅用地</td> </tr> </tbody> </table> <p>—</p> <p><u>減損損失の内訳</u></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">建物</td> <td style="text-align: right;">702</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">1,596</td> <td style="text-align: right;">135</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">工具・器具備品</td> <td style="text-align: right;">687</td> <td style="text-align: right;">631</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">土地</td> <td style="text-align: right;">-</td> <td style="text-align: right;">802</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">その他</td> <td style="text-align: right;">399</td> <td style="text-align: right;">266</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,386</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,835</td> </tr> </tbody> </table> <p>—</p> <p><u>資産のグルーピングの方法</u></p> <p>事業所、事業の種類等を総合的に勘案して資産のグルーピングを行っている。</p> <p>—</p> <p><u>回収可能価額の算定方法</u></p> <p>機械及び装置等製造設備関連及び建物については同等設備の取引事例等により、土地については売買契約に基づく売却予定額等より算定された正味売却価額、又は将来キャッシュ・フローを2.5%で割り引いて算定した使用価値のいずれか高い方の金額を使用している。</p>	資産グループ(場所)	資産の用途	高周波光デバイス製作所(兵庫県伊丹市)	電子デバイス事業用資産	京都製作所(京都府長岡京市)	家庭電器事業用資産	資産グループ(場所)	資産の用途	京都製作所(京都府長岡京市)	家庭電器事業用資産	売却予定の土地(埼玉県北本市)	社宅用地	建物	702	-	機械及び装置	1,596	135	工具・器具備品	687	631	土地	-	802	その他	399	266	合計	3,386	1,835		
資産グループ(場所)	資産の用途																															
高周波光デバイス製作所(兵庫県伊丹市)	電子デバイス事業用資産																															
京都製作所(京都府長岡京市)	家庭電器事業用資産																															
資産グループ(場所)	資産の用途																															
京都製作所(京都府長岡京市)	家庭電器事業用資産																															
売却予定の土地(埼玉県北本市)	社宅用地																															
建物	702	-																														
機械及び装置	1,596	135																														
工具・器具備品	687	631																														
土地	-	802																														
その他	399	266																														
合計	3,386	1,835																														

(株主資本等変動計算書関係)

第141期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式	264	24	3	285
合計	264	24	3	285

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加24千株は、単元未満株式の買取り請求に応じたものであり、普通株式の自己株式の株式数の減少3千株は、単元未満株式の買増しによる減少3千株である。

第142期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式	285	23	2	306
合計	285	23	2	306

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加23千株は、単元未満株式の買取り請求に応じたものであり、普通株式の自己株式の株式数の減少2千株は、単元未満株式の買増しによる減少2千株である。

(リース取引関係)

摘要	第141期 (自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	第142期 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日) (金額単位：百万円)	
<b>(借主側)</b>			
1 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っている。			
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額 (第141期)(平成24年3月31日) <span style="float: right;">(単位:百万円)</span>			
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置	2,687	1,841	846
工具、器具及び備品	2,651	2,301	350
その他	109	83	25
合計	5,449	4,226	1,222
(第142期)(平成25年3月31日) <span style="float: right;">(単位:百万円)</span>			
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置	1,684	1,255	428
工具、器具及び備品	142	134	8
その他	70	57	12
合計	1,897	1,447	449
<b>(表示方法の変更)</b> 前事業年度において「その他」に含めていた「機械装置」につき、金額的重要性が増したことから、当事業年度より独立掲記することとした。			
(2) 未経過リース料期末残高相当額			
1年内	918	405	
1年超	514	108	
合計	1,433	514	
(3) 当期の支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額			
支払リース料	1,749	839	
減価償却費相当額	1,541	697	
支払利息相当額	56	27	
(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。			
(5) 利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっている。			
2 オペレーティング・リース取引			
未経過リース料			
1年内	96	142	
1年超	145	159	
合計	242	302	

摘要	第141期	第142期
	(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
(貸主側)		
1 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っている。		
(1) 未経過リース料期末残高相当額		
1年内	196	27
1年超	46	22
合計	243	50
(2) 利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっている。		
2 オペレーティング・リース取引		
未経過リース料		
1年内	110	-
1年超	-	-
合計	110	-

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

(第141期)(平成24年3月31日)

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	1,147	1,686	539
関連会社株式	77,018	92,139	15,120

(第142期)(平成25年3月31日)

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	1,147	1,605	458
関連会社株式	42,532	65,357	22,824

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額  
(単位：百万円)

	第141期 (平成24年3月31日)	第142期 (平成25年3月31日)
子会社株式	207,485	227,600
関連会社株式	36,447	34,096

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めていない。

(税効果会計関係)

摘要	第141期 (自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日) (金額単位：百万円)	第142期 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日) (金額単位：百万円)
<b>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳</b>		
繰延税金資産		
減価償却費損金算入限度超過額	12,100	15,980
退職給付引当金損金算入限度超過額	88,601	83,790
海外投資等損失引当金損金算入限度超過額	668	2,605
繰越欠損金	-	5,582
その他	151,478	180,132
繰延税金資産小計	252,847	288,089
評価性引当額	74,302	61,130
繰延税金資産合計	178,545	226,959
繰延税金負債		
退職給付信託設定	30,142	30,142
租税特別措置法に基づく積立金	4,978	4,659
その他有価証券評価差額金	5,890	11,533
繰延税金負債合計	41,010	46,334
繰延税金資産の純額	137,535	180,624
<p>組織再編に伴い発生した有価証券に係る一時差異のうち、解消時期が見積もれないものについては、繰延税金資産を計上していない。</p>		
<b>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</b>		
法定実効税率	41.0%	38.0%
(調整)		
税額控除	8.6%	0.5%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	19.9%	49.7%
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1%	2.2%
住民税均等割等	0.2%	0.5%
合理的な見積可能期間内におけるスケジューリング不能一時差異の増減	7.8%	75.5%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	17.5%	10.6%
その他	1.2%	2.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.9%	148.0%
<p>当事業年度において、一部の関連会社が翌年度に企業支配株式の対象から除外される見込となったことに伴い、当社が保有する同社の有価証券に係る一時差異が解消可能となった影響を、合理的な見積可能期間内におけるスケジューリング不能一時差異の増減に含めている。</p>		

(1株当たり情報)

摘要	第141期 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	第142期 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	299円78銭	302円23銭
1株当たり当期純利益	26円01銭	8円66銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	第141期 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	第142期 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
当期純利益(百万円)	55,837	18,585
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	55,837	18,585
期中平均株式数(千株)	2,146,926	2,146,906

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄	株式数(千株)	貸借対照表計上額(百万円)
(有価証券)		
該当なし		
(投資有価証券)		
(その他有価証券)		
スズキ(株)	4,105	8,666
東海旅客鉄道(株)	770	7,644
三菱重工業(株)	13,941	7,458
東日本旅客鉄道(株)	958	7,396
三菱地所(株)	2,003	5,199
三菱マテリアル(株)	14,936	4,002
日本電子計算機(株)	5,957	2,978
三菱倉庫(株)	1,466	2,559
信越化学工業(株)	406	2,541
キリンホールディングス(株)	1,592	2,406
(株)静岡銀行	2,033	2,155
(株)帝国電機製作所	1,143	2,103
中国電器股?有限公司	37,016	2,098
(株)三菱総合研究所	1,020	2,049
菱洋エレクトロ(株)	2,246	1,914
(株)ニコン	856	1,909
関西電力(株)	1,957	1,816
その他 373銘柄	183,418	57,934
計	275,830	122,838

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	347,834	20,109	2,784	365,158	232,205	10,553	132,953
構築物	33,134	2,200	183	35,151	26,702	1,026	8,448
機械及び装置	645,147	37,437	17,328	665,256	590,361	37,759 (135)	74,894
車両運搬具	2,648	218	144	2,722	2,350	244	371
工具、器具及び備品	484,850	33,639	15,003	503,486	480,731	35,098 (631)	22,755
土地	40,692		846 (802)	39,845			39,845
リース資産	15,947	4,424	1,818	18,553	7,836	3,843	10,717
建設仮勘定	25,094	96,096	96,287	24,903			24,903
有形固定資産計	1,595,348	194,126	134,397	1,655,077	1,340,189	88,525	314,888
無形固定資産							
ソフトウェア				39,172	24,525	7,107 (92)	14,646
その他				380	214	13	166
無形固定資産計				39,552	24,740	7,120	14,812
長期前払費用	8,462	3,525	891	11,096	7,263	1,039 (173)	3,832

(注) 1 「当期減少額」及び「当期償却額」欄の( )は内数で当期の減損損失の計上額である。また「当期末減価償却累計額又は償却累計額」には減損損失累計額が含まれている。

2 当期増加額及び減少額の主なものは次のとおりである。

機械及び装置	増加額 (百万円)	姫路製作所	12,982	半導体・デバイス事業	3,642
	減少額 (百万円)	姫路製作所	4,188	半導体・デバイス事業	2,651
工具、器具 及び備品	増加額 (百万円)	鎌倉製作所	7,878	姫路製作所	5,141
	減少額 (百万円)	京都製作所	2,111	姫路製作所	1,590
建設仮勘定	増加額 (百万円)	姫路製作所	22,114	鎌倉製作所	12,989

3 無形固定資産はその残高が資産の総額の1%に満たないため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略した。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	8,733	4,218	0	795	12,156
製品保証引当金	29,424	35,697	29,424	-	35,697
受注工事損失引当金	39,546	22,789	39,546	-	22,789
海外投資等損失引当金	755	5,455	-	-	6,211
役員退職慰労引当金	1,201	332	265	-	1,268
競争法等関連費用引当金	21,375	5,657	-	80	26,952

(注) 1 引当金の計上理由及び計算基礎は、重要な会計方針を参照のこと。

2 「当期減少額(その他)」の理由は次のとおりである。

貸倒引当金.....貸倒懸念債権等の入金による取崩等。

競争法等関連費用引当金.....為替換算替えによる取崩等。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末(平成25年3月31日現在)における主な資産及び負債の内容は次のとおりである。

現金及び預金

種類	金額(百万円)	種類	金額(百万円)
現金	15	預金	
		定期預金	65,198
		当座・普通・通知預金	51,000
		小計	116,199
		計	116,215

受取手形

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)平和	215
四電エンジニアリング(株)	135
東海交通機械(株)	113
(株)ミクニ	86
(株)九電工	52
その他	306
計	909

(b) 期日別内訳

平成25年4月 (百万円)	5月 (百万円)	6月 (百万円)	7月 (百万円)	8月以降 (百万円)	計 (百万円)
-	68	289	531	19	909

売掛金

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
防衛省	121,313
三菱電機住環境システムズ(株)	40,615
三菱重工業(株)	38,847
三菱電機ヨーロッパ社	36,708
三菱商事(株)	23,430
その他	392,529
計	653,444

(b) 回収状況並びに滞留状況

当期首残高(百万円)	当期計上高(百万円)	当期振替高(百万円)	当期末残高(百万円)
667,384	2,512,545	2,526,486	653,444

売掛金勘定の回転率は3.8回、滞留日数は96日となっている。

棚卸資産

部門	製品(百万円)	原材料(百万円)	仕掛品(百万円)	計(百万円)
重電システム	589	11,667	53,420	65,678
産業メカトロニクス	26,218	3,873	29,958	60,049
情報通信システム	2,072	9,563	35,112	46,749
電子デバイス	2,862	2,226	10,862	15,951
家庭電器	22,601	3,779	8,948	35,329
計	54,343	31,110	138,303	223,757

関係会社株式

銘柄	金額(百万円)
三菱電機USホールディングス社	46,056
ルネサス エレクトロニクス(株)	25,707
東芝三菱電機産業システム(株)	18,957
三菱電機ヨーロッパ社	11,414
三菱電機(広州)圧縮機有限公司	10,098
その他	193,142
計	305,377

繰延税金資産

2 財務諸表等 (1) 財務諸表 注記事項(税効果会計関係)に記載している。

買掛金

相手先	金額(百万円)
三菱電機クレジット(株)	92,241
三菱電機トレーディング(株)	12,674
三菱電機エンジニアリング(株)	10,931
(株)東芝	7,844
(株)リョーサン	7,210
その他	253,872
計	384,774

関係会社短期借入金

相手先	金額(百万円)
三菱電機ビルテクノサービス(株)	44,823
三菱電機コンシューマー・プロダクツ(タイ)社	29,021
三菱電機プラントエンジニアリング(株)	17,094
三菱電機ロジスティクス(株)	13,002
三菱電機エンジニアリング(株)	10,216
その他	76,754
計	190,912

(注) 返済期限が1年内のため関係会社長期借入金より振り替えたものを含む。

未払金

相手先	金額(百万円)
三菱電機クレジット(株)	18,411
三菱電機エンジニアリング(株)	3,344
三菱エレベーター・アジア社	3,154
三菱電機情報ネットワーク(株)	2,701
三菱電機プラントエンジニアリング(株)	2,474
その他	91,694
計	121,780

長期借入金

借入先	金額(百万円)	内1年内返済予定 金額(百万円)
三菱UFJ信託銀行(株)	48,000	(19,000)
(株)三菱東京UFJ銀行	45,000	( - )
農林中央金庫	29,700	(1,700)
明治安田生命保険相互会社	29,200	(3,500)
日本生命保険相互会社	29,000	(5,000)
その他	136,600	(33,300)
計	317,500	(62,500)

(注) 内1年内返済予定は、貸借対照表においては流動負債の短期借入金として掲げている。

(3) 【その他】

該当事項なし。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り・買増し 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取・買増手数料	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 無料
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。 電子公告を掲載するホームページアドレスは次のとおり。 <a href="http://www.MitsubishiElectric.co.jp/ir/library/">http://www.MitsubishiElectric.co.jp/ir/library/</a> ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
株主に対する特典	該当事項なし。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有していない。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はない。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出している。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類並びに確認書	事業年度 (第141期)	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日	平成24年6月28日 関東財務局長に提出
(2) 内部統制報告書 及びその添付書類			平成24年6月28日 関東財務局長に提出
(3) 四半期報告書 及び確認書	第142期 第1四半期 第142期 第2四半期 第142期 第3四半期	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日 自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日 自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	平成24年8月8日 関東財務局長に提出 平成24年11月9日 関東財務局長に提出 平成25年2月12日 関東財務局長に提出
(4) 臨時報告書		企業内容等の開示に関する内閣府 令第19条第2項第9号の2(株主総会 における議決権行使の結果)に基 づく臨時報告書 企業内容等の開示に関する内閣府 令第19条第2項第19号(財政状態及 び経営成績に著しい影響を与える 事象の発生)に基づく臨時報告書 企業内容等の開示に関する内閣府 令第19条第2項第12号及び第19号 (財政状態及び経営成績に著しい 影響を与える事象の発生)に基 づく臨時報告書 企業内容等の開示に関する内閣府 令第19条第2項第12号(財政状態及 び経営成績に著しい影響を与える 事象の発生)に基づく臨時報告書	平成24年6月29日 関東財務局長に提出 平成24年12月25日 関東財務局長に提出 平成25年2月4日 関東財務局長に提出 平成25年4月30日 関東財務局長に提出
(5) 有価証券報告書の訂正報告書 及び確認書		事業年度(第138期)(自 平成20年4 月1日 至 平成21年3月31日)の有 価証券報告書に係る訂正報告書及 びその確認書 事業年度(第139期)(自 平成21年4 月1日 至 平成22年3月31日)の有 価証券報告書に係る訂正報告書及 びその確認書 事業年度(第140期)(自 平成22年4 月1日 至 平成23年3月31日)の有 価証券報告書に係る訂正報告書及 びその確認書	平成24年4月6日 関東財務局長に提出 平成24年4月6日 関東財務局長に提出 平成24年4月6日 関東財務局長に提出

(6) 四半期報告書の訂正報告書 及び確認書	(第140期第1四半期)(自 平成22年 4月1日 至 平成22年6月30日)の四 半期報告書に係る訂正報告書及び その確認書	平成24年4月6日 関東財務局長に提出
	(第140期第2四半期)(自 平成22年 7月1日 至 平成22年9月30日)の四 半期報告書に係る訂正報告書及び その確認書	平成24年4月6日 関東財務局長に提出
	(第140期第3四半期)(自 平成22年 10月1日 至 平成22年12月31日)の 四半期報告書に係る訂正報告書及 びその確認書	平成24年4月6日 関東財務局長に提出
	(第141期第1四半期)(自 平成23年 4月1日 至 平成23年6月30日)の四 半期報告書に係る訂正報告書及び その確認書	平成24年4月6日 関東財務局長に提出
	(第141期第2四半期)(自 平成23年 7月1日 至 平成23年9月30日)の四 半期報告書に係る訂正報告書及び その確認書	平成24年4月6日 関東財務局長に提出
	(第141期第3四半期)(自 平成23年 10月1日 至 平成23年12月31日)の 四半期報告書に係る訂正報告書及 びその確認書	平成24年4月6日 関東財務局長に提出
(7) 臨時報告書の訂正報告書	平成24年6月29日提出の臨時報告 書(株主総会における議決権行使 の結果)に係る訂正報告書	平成24年7月13日 関東財務局長に提出
(8) 発行登録書(普通社債) 及びその添付書類		平成25年4月17日 関東財務局長に提出
(9) 訂正発行登録書		平成25年4月30日 関東財務局長に提出

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年6月27日

三菱電機株式会社  
執行役社長 山西健一郎 殿

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	金子寛人 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大塚敏弘 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	永峯輝一 印

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三菱電機株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結資本勘定計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表に対する注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則の一部を改正する内閣府令(平成14年内閣府令第11号)附則」第3項の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準(連結財務諸表に対する注記1及び2参照)に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準(連結財務諸表に対する注記1及び2参照)に準拠して、三菱電機株式会社及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、三菱電機株式会社の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、三菱電機株式会社が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

上記は、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

## 独立監査人の監査報告書

平成25年6月27日

三菱電機株式会社  
執行役社長 山西健一郎 殿

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	金子寛人 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大塚敏弘 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	永峯輝一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三菱電機株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第142期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱電機株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。